



研究開発実施報告書

平成27年度指定 スーパーグローバルハイスクール 第2年次

平成29年3月

学校法人 創価学園



関西創価高等学校

2016 年度 SGH 研究開発成果集発刊にあたって

関西創価高等学校校長 中西 均

2015 年に SGH の指定を受け 2 年、SGHA からは 3 年が過ぎ、いよいよ本校の「世界市民教育プログラム」もようやく形を為してまいりました。2013 年の秋から全教職員で作りに上げてきたプログラムはまさに手作りで、いまこのように成果集として発刊できることに深い感慨を覚えます。関係する皆様に心より御礼申し上げます。

本校では 1973 年の開校以来、「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」との平和の信条を根本に、積極的に世界の平和と人類の幸福に寄与する「世界市民」の育成に取り組んでまいりました。

「健康な英才主義」「人間性豊かな実力主義」を掲げ、校訓にも「進取の気性に富み、栄光ある日本の指導者、世界の指導者に育て」と謳っています。

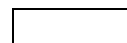
本校の研究開発構想名は、「TRY 人(じん)の郷・交野から 平和の創造に挑戦するグローバルリーダー育成プログラム」。その概要は、「Active Learning の土台の上に、国連が提起している地球的課題について探究し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての使命感・共感力・問題解決への創造力を育む教育活動を高大連携して開発する」というものです。

他人任せではなく自ら立ち上がり、他者の幸福に寄与したいとの使命感に満ちた人を、どんなに離れた国や地域の出来事にも興味関心をもち、当事者意識を持つ共感力ある人を、そして異文化の人々とも連帯し、地球的課題の解決に取り組む創造力あふれる人材を私たちは育てたい。皆様よりさらにご指導いただけましたら幸いです。

最後に、本校 SGH 運営指導委員である梶田叡一先生、米田伸次先生、朝野富三先生、また提携していただいております大学、国際機関、研究機関、企業、地元・交野市教育委員会の皆様、そして多くの SGH(A)校の皆様に深く感謝申し上げます。

報告書 目次

I	【別紙様式5】平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要	4
II	実施報告書.....	6
1	研究開発の概要.....	6
2	各研究の取り組み.....	7
2-1	GRIT (Global Research and Inquiry Time)	
2-2	Global Citizenship Seminar	
2-3	FW (Fieldwork LC 東京・東京・広島・アメリカ・東北)	
2-4	LC (Learning Cluster)	
2-5	UP (University Partnership)	
2-6	Active Learning	
2-7	NIE (Newspaper in Education)	
3	成果と分析.....	102
III	関係資料.....	125
1	SGH中間研究発表会・第一回運営指導委員会	
2	SGH最終研究発表会・第二回運営指導委員会	
3	SGH最終研究発表会・第三回運営指導委員会	



平成 27 年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	かんさいそうかこうとうがっこう					②所在都道府県	大阪府
27～31	①学校名	関西創価高等学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1 年	2 年	3 年	4 年	計	普通科 生徒数 1075 名 (2014 年度)		
	普通科	359	357	359		1075	同キャンパスに中学校を併設	
⑥研究開発構想名	TRY 人(じん)の郷・交野から 平和の創造に挑戦するグローバルリーダー育成プログラム							
⑦研究開発の概要	<u>Active Learning の土台の上に、国連が提起している地球的課題について探究し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての使命感・共感力・問題解決への創造力を育む教育活動を高大連携して開発する。</u>							
⑧研究開発の内容等	⑧-1 全体	(1) 目的・目標 1600 年前に日本に技術を伝えた渡来人が住み着いたとされる交野。21 世紀はこの交野より世界へ飛び立ち、 <u>地球的課題の解決に果敢に挑み、世界の平和に貢献するグローバルリーダーを育成することを目的とする。</u> SGHA として 2014 年度に取り組んだプログラムをさらに発展させ、創価大学・アメリカ創価大学・オタゴ大学等の高大連携を強力に推進し、UNDP 等国際機関とも提携して、地球の今を学び、体験し、問題解決へ発信する新教育プログラムを作り上げる。						
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説 最近 5 年間における海外大学進学者数の累計は 53 名であり、本校から創価大学に進学した者の 40%は留学等海外経験を行うなど意識は高いが、さらなる語学力の向上や主体的な学びの姿勢を育む授業改革が必要であり、高大連携しての Active Learning、ICT 教育に取り組むことで大きく改善が期待できる。 生徒自ら地球的課題に挑み解決しようとする「使命感」は、第一に世界の現状を知り、苦しみを分かち合う「共感力」の向上の中で培われるものであると信じる。 <u>世界が課題とする「環境・開発・人権・平和」の 4 分野について、大学、国際機関、企業と提携し、国連が具体的に提起している諸問題を探究し、生徒たちがチームとして新たな視点からその解決を目指すプロセスを確立することとする。</u> そのため、教育の根幹たる授業において、友と協力し自ら学ぶ学習スタイルを確立することが今後のグローバルリーダー育成の取り組みの土台となるので、Active Learning を全教科にわたり積極的に導入するべきである。その基礎の上に、全員で取り組む探究型総合学習 GRIT での「環境・開発・人権・平和」の 4 分野の学びはより進むものと確信する。さらに興味関心を抱く希望者には、高大連携プログラムとして、SP (SOKA Progress) クラスと呼ばれるグローバルイシューの基礎講座を実施。そこで学びを深めた生徒からさらに選抜して、国際機関と提携しての LC (Learning Cluster) プログラムを行う。						
		(3) 成果の普及 専用 WEB サイトでの発信とともに、他の指定校と連携しながら、SGH 教育報告会を開催。またオープンキャンパスにおいて、内外に向けた取り組み成果の報告を行う。新たに開発した教材はデジタル化し、広く公開していく。						

⑧ -2 課 題 研 究	(1) 課題研究内容 グローバルリーダーとしての使命感・共感力・問題解決への創造力の育成を図るため、「<u>環境・開発・人権・平和</u>」の4分野について国連が具体的に提起している諸問題を探究し、チームとして解決方法を目指すプロセスを確立する。 ※コアとなるグローバルイシューは、「ポスト 2015 開発アジェンダ」の検討内容を中心として各チームがテーマを設定し探求する。 (2) 実施方法・検証評価 ①<u>探究型総合学習 GRIT (Global Research and Inquiry Time)</u> ○土曜日に実施 ○全校生徒を対象 ○「環境・開発・人権・平和」の4分野について大学・国際機関・企業と提携し探究活動 ○大学院生を各クラスに TA として配置 ○1 年生「環境・開発」 2 年生「人権・平和」 3 年生では模擬国連と論文作成 ○GRIT 講演会 Global Citizenship Seminar を学期毎に開催 ○全員が EarthKAM を体験し、宇宙から地球を見つめる視点を育成 ○「天の川ホテル復活プロジェクト」で自然との共生の心を育む ②<u>高大連携プログラム SP (SOKA Progress) Class</u> ○希望者を対象 ○グローバルリーダーの資質向上に資する連続講座 ○提携大学・国際機関から講師を招き実施する UP(University Partnership)Class ○2016 年度から単位を付与 ○GRIT を推進し、LC へつなぐ ③<u>国際機関と提携して行う先進的な特設プログラム LC (Learning Cluster)</u> ○2・3 年生の希望者から最大 32 名 (2015 年度は 20 名を予定) を選抜 ○4 名 1 チームで 4 分野からコアとなるテーマを設定 ○活動の全ては英語 ○創価大学と提携した東京・アジアフィールドワーク ○アメリカ創価大学と提携したカリフォルニア環境人権平和フィールドワーク ○UNDP と提携した開発フィールドワーク ④<u>高大連携で授業改善 — 友と協力し自ら学ぶ Active Learning を強力に展開</u> ○全ての課題研究の推進の土台として、主体性あふれる学びの姿勢を築く ○ICT 教育も同時に研究、推進 ○創価大学教育学部と提携し全教科で導入 検証評価 学年・学期毎に SGH 委員会が作成したルーブリック評価を導入し、生徒の変容を評価するとともに、提携大学関係者を交えた評価委員会により行う。 (3) 必要となる教育課程の特例等 なし
⑧ -3 上 記 以 外	(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 ①<u>留学生と地球的課題を語るプログラム Global Camp</u> ②<u>語学力向上の取り組みを強化</u> ○Critical Writing Center の設置 外国人講師が face to face で添削指導他 ③<u>世界に、社会に目を向ける NIE (Newspaper in Education)</u> ④<u>日本人としての identity を育成する Feel Japan Program</u> ○海外高校生との共同生活体験 ○留学生への古都案内 ○国語の授業、図書館、クラブでの「日本文化」の深化など 検証評価 教養とリーダーとしての資質向上を期し、授業連携や読書教育をさらに進める。各種コンテストの参加数、生徒へのアンケートをもって検証評価を行う。 (2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし。 (3) <u>グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</u> ①校長を長とする SGH 委員会等教職員体制の整備、強化 ②保護者の意識変革 ③専用 WEB サイトの開設 ④図書館に「環境・開発・平和・人権」「グローバルビジネス」専用書架の設置 ⑤SGH カリキュラムを含め研究開発計画に沿って実施
⑨その他 特記事項	提携校の創価大学は SGU であり、本校の研究開発を効果的に進めることができる。

研究開発の概要

(1) 研究開発の概要

関西創価高校がSGHを通して生徒に身につけさせたい力は、国連の提起する地球的課題について探究し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」である。Active Learningの土台の上に、全校生徒を対象とした「環境・開発・人権・平和」の4分野について学ぶ探究型総合学習GRIT(Global Research and Inquiry Time)やGlobal Citizenship Seminar、希望者を対象とした知的好奇心を高揚させる高大連携プログラムのUP(University Partnership)Class、希望者から選抜された生徒がオールイングリッシュで徹底した探究を行うLC(Learning Cluster)で、確かな知識と広い教養の涵養を目指す「世界市民教育」の教育課程を研究開発する。

(【別紙様式5】平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要を参照)

(2) 本年度の研究開発の経緯

SGHAより取り組んできたGRITプログラムの完成年度を迎えた。1年次は「グローバル 이슈との出会い」をテーマに、知識のインプットとディスカッションを中心としたプログラム、2年次は「グローバル 이슈との戦い」をテーマに、「環境・開発・人権・平和」の4分野からトピックを選んで探究活動を行い、それぞれのチームが大学教授に探究成果と提言を発表、3年次は「世界を一つにする力」をテーマに、合意形成の力を培った。その集大成として、3年生全員、92ヶ国で取り組んだ模擬国連では「飢餓の終息に向けた農業分野での国際協力」について総会を開催。採択された二つの決議を元国連事務次長のチョウドリ大使に提出、全員が探究したことを論文にまとめ、英語サマリーとして発信した。各教科においても、93%の教員がアクティブラーニングを中心とした課題研究型の学習方法を取り入れた。語学への挑戦の気風も高まり、英検合格者数において飛躍的に大きな伸びを示した。高大連携、国際機関とも提携して、地球の今を学び、体験し、問題解決へ発信する新教育プログラムを作り上げることを目指した。国内・海外のフィールドワーク先の充実、提携先の開拓なども行った。生徒意識調査を行い、生徒の基本情報を把握、今年度の取り組みの分析及び次年度以降の取り組みの方向性の検討を実施した。

(3) 本年度の具体的な取り組み内容

①GRIT

- ・アクティブラーニングを中心に、本校SGHのテーマである「環境・開発・人権・平和」4分野について全校生徒で探究し、3学期に生徒による成果発表会を行う。

②Global Citizenship Seminar

- ・国内外の国際機関や大学等の学術機関、社会で活躍する著名人から直接講演を受講。

③LC (Learning Cluster)

- ・希望者から選抜し、オールイングリッシュによる探究・調査・提言作成を行う。

④SP(Soka Progress)class ならびにUP(University Partnership)Class

- ・希望者を対象にした高大連携プログラム国内外の大学教授などから受講。

⑤FW (Field Work 東京・広島・アメリカ・東北)

⑥NIE (Newspaper in Education)

GRIT (Global Research and Inquiry Time)

1 2016年度 GRIT 概要

2014年度に SGHA として採択されてから、登校する土曜日を利用し、総合学習 GRIT の授業を行っている。GRIT では、関西創価高校の SGH テーマ「環境・開発・人権・平和」の4分野についての基礎知識をビデオやプリントで学び、フィールドワーク、体験学習を行ってきた。GRIT は全員が4分野について学ぶ、本校の SGH プログラムの根幹となるものである。

2016年度は2015年度までの流れを見直し、3学年別々の授業を構成した。

1年生では、「環境・開発・人権・平和」の4分野について、概要と体験型授業をもとにグローバル 이슈を体感できるようにした。2年生で発表を行うために、4分野すべてを一度学習しておいた方がよいとのことで、変更を行った。

2年生は、1年生のときに「環境・開発」2分野の学習をしたので、残りの「人権・平和」に関する学習を行った。また、6月に行われる創価大学での研修において、4分野に関する研究発表を各分野の専門の教授の前で行った。これは2015年度よりはじめたものである。今年度はさらに、その研究を年間通したものとし、2月に保護者に向けて発表会を行うこととした。その発表をよりよいものとするために、大学院生に2度アドバイスをいただいたり、クラスをシャッフルした発表を行ったりした。

3年生では、今まで学んだことを利用し、全クラスを92ヶ国に分け、模擬国連の形式で交渉を行い、農業問題に対する解決案を考案しまとめた。そして、その内容を一人一人が論文にし、英語でサマリーを書いた。

今回の報告書では2016年度に新たに作成した授業・内容を変更した授業を中心に報告する。

2 GRIT 授業までの流れ

GRIT は土曜日に全学年同時に開催する。そのため、授業の担当は担任もしくは学年担当の教員が行う。授業考案者や専門の教員が実施するのではないので、準備に時間をかけている。

流れは、授業内容を考案した教員が SGH 委員会に諮り、そこで意見を得て修正を行い、その後職員会議（学年ごとに内容が違うときには週1回行われる学年会）で、授業実施をする教員に説明し、質問を受けた。その際、授業の内容をまとめ、流れがわかるような指導案も作成した。

その指導案の中で授業を行う中で、担当者がこうしたらいいのではないかと改良をし、フィードバックをすることにより、よりよい授業になっていっている。

3 GRIT リーダー

GRIT の授業において、フィールドワーク、ディスカッション、体験学習などを行う際には、授業担当者の教員のみではなく、生徒に進行役をさせることがある。この役割を担うのが GRIT リーダーと呼ばれるメンバーである。GRIT リーダーが必要な授業の前に、クラスで募集をし、事前に授業内容に関する研修を受け、生徒が進行を行う。

4 プレゼンテーション

1・2年生は3学期の GRIT で、1年間で学んだことの中からテーマを選び、内容を深め、6名程度のグループで発表を行った。この活動は SGH として GRIT を行う前から、総合学習で学んだ内容

をまとめて発表をしていた内容であり、2014年度より GRIT で学んだことを発表するようにしている。

1年生はパソコンをつかわず、2年生ではパソコンを使った発表を行った。特に2年生は6月に行っている創価大学での研修の際に、1年生で学んだ GRIT の内容をいかし、グループで調査をし、大学の教員の前で発表を行い、質疑応答、コメントをいただくなどし、内容を深めた。

また、関西の大学院生も各クラス1名以上来校してもらい、内容に関してアドバイスをもらうようにした。

2月末の土曜日に保護者に来校していただいて、各クラスで1グループあたり10分の発表を行った。また、2年生の4分野それぞれの優秀グループは、2月に行った「2016年度 SGH 最終報告会」で発表を行った。

5 GRIT 授業内容詳細

5.1 1年生 テーマ：「環境」「開発」「人権」「平和」概要

日付	回	テーマ	詳細
2016/4/16	1	ガイダンス	ガイダンス
4/30	2	環境	環境概要講座
	3	環境	校内フィールドワーク
5/28	4	環境	ホテル復活プロジェクト
	5	環境	アースカムプロジェクト体験
6/4	6	開発	世界が50人の村だったら
	7	開発	SDGs
6/25	8	開発	貿易ゲーム
	9	開発	貿易ゲーム
7/19	10	フィールドワーク	インタビュー講座
	11	フィールドワーク	テーマ決め
9/10	12	フィールドワーク	国内フィールドワーク報告
	13	フィールドワーク	インタビューポスター発表
10/8	14	人権	世界の人権問題
	15	人権	人権問題ポスターツアー
10/29	16	人権	いじめといじりディベート
	17	人権	いじめといじりディベート
11/5	18	平和	現在の内戦ビデオ
11/19	19	平和	被爆体験朗読会
	20	平和	核兵器の現在
12/17	21	平和	平和のためにできること
	22	プレゼンテーション	プレゼンテーション立ち上げ
2017/1/14	23	プレゼンテーション	プレゼンテーション
	24	プレゼンテーション	プレゼンテーション
	25	プレゼンテーション	プレゼンテーション
1/21	26	プレゼンテーション	プレゼンテーション
	27	プレゼンテーション	プレゼンテーション
	28	プレゼンテーション	プレゼンテーション
2/4	29	プレゼンテーション	プレゼンテーション
	30	プレゼンテーション	プレゼンテーション
2/18	31	プレゼンテーション	プレゼンテーション
	32	プレゼンテーション	発表
	33	プレゼンテーション	発表

① 2016/4/16 GRIT ガイダンス

SGH 校に採択されたことを受け、関西創価高校の SGH 構想の説明と、GRIT の意義、4 テーマの概略を放送システムで説明した。1 年生にはこれからの 3 年間で学ぶこと、2・3 年生には改めて GRIT を学ぶ意味を説明し、考える時間とした。

内容は、校長の話、SGH 委員長からの説明、LC (Learning Cluster) からのアピールを行った。

○GRIT 生徒用プリント：GRIT ガイダンス説明

SGH (Super Global High school) の取り組み

関西創価高校の 1 年生のみなさま、入学おめでとうございます。SGH の生徒の一員として、グローバルリーダーを目指して、学園全体で頑張っていきたいと思います。

ただ、「SGH! SGH!」とよく聞けるけれど、「SGH って何?」と思っている人もいるかもしれません。そこで、関西創価高校が掲げる SGH への取り組みを説明します。

そもそも「SGH (Super Global High school)」とは、文部科学省が募集している「将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを育成するため、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、様々な国際舞台で活躍できる人材の育成に関する教育課程等の研究開発を行う高等学校」(引用) のことです。そこに、関西創価高校が応募し、認められたものです。

関西校のテーマ：

「TRY 人の郷・交野から 平和の創造に挑戦するグローバルリーダー育成プログラム」

1600 年前に日本に技術を伝えた渡来人が住み着いたとされる交野より、世界へ飛び立ち、地球的課題の解決に果敢に挑み、世界の平和に貢献するグローバルリーダーを育成することを目的としています。

SGH の実践を通して、みなさんに着けてほしいと思っている力が 3 つ。

○使命感 ○共感力 ○問題解決への創造力 です。

そして、みなさんが取り組むべき地球的課題は 4 テーマ。

○環境 ○開発 ○人権 ○平和 です。

その他、新たな取り組みもたくさん企画中!

この 4 テーマを SGH で学んでいき、課題の解決策を考えていきます。

4 テーマを学ぶ方法が 3 つ **○GRIT ○SP ○Learning Cluster** です。

1. GRIT : 全員で土曜日に学ぶ総合学習。(詳しくは別紙 GRIT ガイダンスと予定表参照)

2. SP : 大学の先生方による地球的課題に関する授業である UP (希望者) (21 日放課後に説明会) と、英語・数学の放課後授業 (20 日放課後に説明会)

3. Learning Cluster : 2・3 年生の選抜メンバーによるオールイングリッシュの特別講座 (1 年生で 2・3 年になって入りたいと希望する人は 20 日の説明会にいらしてください)

○SGH 校の関西創価高校で、この 1 年、自分が取り組んでいこうと思う内容を書き残しておこう!

年 組 名前：

② 4/30 テーマ：環境 環境概要講座 (新規)

あらたに 2016 年度に作成した講座。環境クイズを行った後、セヴァン・スズキさんのスピーチを視聴。自分たちがもっとも大切だと思う環境問題への対策法を考えた。

○GRIT 用 PowerPoint：環境入門（抜粋）



GRIT「環境」入門
人・自然・宇宙のつながりと
私たちの生活

ケニアのことわざ

「地球を大切にしないで。
それは、親からもらったものではなく、
子どもたちから借りているものだから」



環境問題とは

「人間の健康や生存に直接関わる問題」

- みなさんが知っている環境問題はどんなものがありますか（1分）
- 1人で書いたあと、発表して他の人の内容を書き加えよう（2分）

NHK エコ環境問題の歴史を知ろう



環境クイズ1

- 日本では1年間に約4500万トンのごみがあります。
- そのうち食べ物のごみは全部で何万トンでしょう？

- 15万トン
- 150万トン
- 1500万トン

1の答え

答えは
3. 1500万トン
しかし、世界の8億500万人が飢餓で苦しんでいます。

環境クイズ2

- 日本に住む生き物のうち、絶滅の危機にさらされている生き物は何種類いるといわれていますか。

- 350種類
- 3500種類
- 35000種類

2の答え

答えは
2. 約3500種類
日本でよく食べられるニホンウナギとも2013年に絶滅危惧種に指定
原因はほとんどが人間の暮らしです。

NHK『ニュースウオッチ9』(2014年9月23日放送)

「気候サミット始まる“未来の地球”は…」より

- 2050年の気候がどうなっているか想像して書いてみよう(1分)
- グループで発表しよう（2分）
- 2014年に行われた国連気候サミット前の内容です。メモを取りながら次の動画を見よう。

自分たちの予想とあっていましたか？

- 自分たちができる地球温暖化対策を書きだしてきましょう。
- (プリント配布)
- 配布されたプリントを見て、自分が一番できると思ったものをワークシートに書きだそう。

セヴァン・スズキ「伝説のスピーチ」

1992年、リオ・デ・ジャネイロで開催された「地球サミット」の席上、当時12歳の子供がおこなったスピーチの映像を見てください。



「フィールドワーク」→「見える化」

「環境」は身近なだけに、なかなか変化に気づかない。
気づいた時には既に手遅れということも....
→「見える化」が重要！



GRIT 環境①② 環境入門・校内フィールドワーク

いよいよ GRIT がスタートします。最初のテーマはもっとも身近な「環境」についてです。今日はその概論と校内の環境を見て学ぶフィールドワークを行います。指示にしたがって順番にワークシートを埋めていこう。

A. 知っている環境問題を書いてみよう

B. 2050年の地球（もしくは日本）の気候を想像して書いてみよう

C. ビデオを見てメモをとろう

D. 自分たちにできる地球温暖化対策を書いてみよう

E. プリントを見て、最も実践できる対策を1つ書きだそう

F. セヴァン・スズキさんのスピーチを見た感想を書いてみよう

G. 校内フィールドワーク評価

評価ルーブリック ※当てはまるところに○印をつけてください。

No.	評価ポイント	excellent	good	not so bad	work harder
1	グループ内で他の人と協力し合うことができましたか。	十分できた	まあできた	ほとんどできなかった	全くしなかった
2	スタンプをいくつ集められましたか。	7～8個	5～6個	3～4個	1～2個
3	創立者の命名された場所を何カ所まわれましたか。	13～15カ所	10～12カ所	6～9カ所	1～5カ所
4	11時40分の集合時刻に間に合いましたか。	余裕で間に合った	ぎりぎり間に合った	1分以内の遅刻	1分以上の遅刻
5	環境の「見える化」の意義を実感できましたか。	とても実感した	まあ実感できた	あまりできなかった	全く分からなかった

H. 校内フィールドワークの感想

③ 4/30 テーマ：環境 校内環境フィールドワーク

2014 年度から続けているプログラムである。校内の自然に触れる環境クイズに答えながら、校内をめぐりスタンプラリーを行った。クラスで説明ののち、55 分間グループごとにまわり、最後に教室で答え合わせを行った。

④ 5/28 テーマ：環境 「ホタル復活プロジェクト」

関西創価高校には蛍保存会があり、開校当初より校内で蛍を飛ばそうという挑戦の歴史がある。現在6月には蛍が飛び、1000人を超える地域の方が見学する会も開催している。蛍が生息するためには、さまざまな環境に対する考え方を構築しなければならない。そのことを通し、創立者が「ホタルは平和のシンボル」とおっしゃられているのはなぜなのかなどを考えた。

授業は、「ゲンジボタルの生態」のビデオを視聴し、学園の蛍保存会として活動をしてきた杉本創価教育センターの関西センター長がお話をしてくださったあと、ディスカッションを行った。

○GRIT 生徒用プリント：環境③ワークシート内容

GRIT 環境③ ワークシート内容

1：杉本先生のお話・ビデオを見て、プリントに書こう。

○VTR「ゲンジボタルの生態」

ゲンジボタルの幼虫が産まれる時期は？（ ） 大きさは？（ ） エサは？（ ）

幼虫は川の底にすぐすのは何か月？（ ） 川から上がるのはなぜ？（ ） になるため

幼虫の体には（ ）が含まれている（知らせるため光る）。

陸にのぼるときの気温は（ ）の温度と同じころ

成虫は日の光を嫌うため、（ ）の影に隠れる。飛びながら光るのは オス・メス？

オスは一斉に（ ）リズムで光って、（ ）を探す。生命は成虫になってから（ ）

最初に産卵したメスは（ ）光を（ ）して発する（場所を知らせる合図）。

産卵は1週間かけて（ ）～（ ）産む。

○杉本先生のお話

すむには3つの意味がある。3つを記入しよう。

さらにメモをとろう

2：身近な川にホタルがすむようにするためには、どうすればよいか考えてみよう。

3：感想を記入しよう

⑤ 5/28 テーマ：環境 「EarthKAM プロジェクト体験」

関西創価高校はNASAが主催する教育プログラムEarthKAMに50回連続50回参加という世界記録を打ち立てている。ISSのデジタルカメラを地上から操作し、地球を撮影しその写真から地球について考えるプロジェクトである。そのEarthKAMを疑似体験する授業を行うことで、地球の今を考える授業を行った。

進行はGRITリーダーが行った。

EarthKAMの説明、EarthKAMのミッション・ISSについてのビデオを見た後、実際にEarthKAMプロジェクトが撮影した写真をもとにクイズを行った。

その中で宇宙から地球を見る視点を学び、地球全体のためにできる行動を考えた。

○GRIT 用 PowerPoint : EarthKAM (抜粋)

宇宙からの視点
EarthKAM

GRIT『環境』④
2016年5月28日

Earth
Knowledge
Acquired by
Middle school students

アースカムの仕組み
How EarthKAM Works

NASA
(アメリカ宇宙局)

カリフォルニア大学
University of California, San Diego

国際宇宙ステーション
International Space Station

白地図

※透明シートのここをDesc Nodeの数値に合わせ
左右にスライドさせる

赤道

※透明シートの向きに注意！

スライダーマップの
使い方

「昼」の始まる程度

「夜」の始まる程度

撮影可能地点について

この間の軌道直下が撮影可能

EarthKAMクイズ

赤い丸で囲まれた部分に
写っている線のようなもの
は、何でしょうか？

①防風林
②田
③牧場の曲
④自動車用の道路

①防風林
②田
③牧場の曲
④自動車用の道路

格子型防風林

これは何でしょうか？

A. 海面の波
B. 水の無くなった湖

B. 水の無くなった湖

チャド湖
(チャド)

撮影：2000年2月

サハラ砂漠のはずれにあるチャド湖は、かつて世界第6位の面積を誇りましたが、砂漠化と農業用水の需要増大の影響を受け、現在の面積は5%程しかありません。

1922 1971 2000

チャド湖の水が減っていくようす

⑥ 6/4 テーマ：開発 「世界が50人の村だったら」（新規）

現在の世界の状況をクラス内の人数で表現するとどうなるかをモデル化した「世界が50人の村だったら」のプログラムを行った。開発教育協会が発行している教材を中心に学んだ。

クラスごとに生徒に役割カードを配布して、そのカードにかかれた人種・言語などによってグループ分けをし、世界の状況をモデル化した形で確認した。

例えば、カードに書かれているネパール語「座ってください」を、全員が起立した状態でプロジェクタに表示して、座る人が何人いるか。つまり世界の識字率が何%あるのかを確認し、読めない人はもしかすると薬と間違えて、毒を飲んでしまう可能性があるということを考えた。

最後に「世界が50人の村だったら」の文章を全員で読んで、気づいたことを話し合わせた。

○GRIT 用 PowerPoint：世界が50人の村だったら（抜粋）

The image shows a grid of 8 PowerPoint slides from a presentation titled "GRIT 開発① 世界の現状を知ろう" (GRIT Development 1: Understanding the Current State of the World). The slides are numbered 1 through 8.

- Slide 1:** Title slide: GRIT 開発① 世界の現状を知ろう
- Slide 2:** GRIT「環境」の次は？
 - 4テーマのうち「開発」を学びます！
 - 「開発」とは？
 - 都市開発？新製品の開発？
 - そうではありません。
 - 「開発教育」としては、当然、飢餓や貧困の撲滅の問題があります。世界の約3分の2の貧困国、約6億人の栄養不良者、こうした現実を目を向けさせ、人類の経済福祉をどう確立すべきかを考える。」(1987年SGI提言)
- Slide 3:** 今日のGRITは？
 - まずは、世界の状況を実際に動いて、確認してみましょう。
 - そのあと、国連が打ち出している目標について、見てみたいと思います。

(プリント①を配布してください)
- Slide 4:** 「世界が50人の村だったら」
 - 世界が100人の村だったという本を知っていますか？
 - 全世界の人口を100人に例えて、様々な世界情勢をわかりやすく例えている本です。
 - 今回は、「50人の村」として再構成し、実際に村民になって、世界の情勢を確認してみましょう！
- Slide 5:** 役割カード確認
 - 今から役割カードを配布します。
 - そこに書かれている内容がみなさんのこの村での役割・立場です。
 - 裏面のまま通読してください。
 - 決して、カードの内容を他人に見せないようにしてください。
 - (余りや欠席分は学級委員さんが変わりにPowerPointに表示される欠席欄に人数を書いてあげてください)
- Slide 6:** このあとの流れ
 - PowerPointの説明が出ます。
 - その説明の通り、クラスのみんなで協力して動いてください。
 - 村人として、全員協力で役割に当たってください！！
 - そして、その中で気がついたことを、ワークシートにメモしてください。「〇〇が多い」「〇〇はほとんどいない」など、見ればわかる、数えればわかることをたくさん書いてください。
 - 席を動く場合があります。そのときは、筆記用具とワークシート(役割シートも)を持って、移動してください。
- Slide 7:** クイズ第1問

世界の人口は現在約何億人(推定)でしょうか？(一番近いのは？)

 - A. 63億人
 - B. 73億人
 - C. 83億人
- Slide 8:** クイズ第3問

2050年の世界の人口は約何億人(推定)になると予測(国連予測)されているでしょうか？

 - A. 75億人
 - B. 95億人
 - C. 115億人

クイズ第4問

現在の世界の人口において、男性と女性どちらが多いでしょうか？

A. 男性
B. 女性
C. はほぼ同じ

9

第4問

*実際に、この村の中で数えてみよう！
*男性は右、女性は左(役割シート上)へ移動！数えた数を書いてみよう

	男性	女性
欠席者		
合計		

実際には男性50.4%、女性49.6%でC(2010年国連人口推計)

10

どういことに気が付きましたか？

*アフリカと日本の子どもと大人の割合
- Unicef「世界子ども白書」による・18歳未満を子どもとする

	子ども	大人	子どもの人口
世界	33%	67%	22億人
日本	16%	84%	2055万人
アフリカ	47%	53%	4億7000万人

どんなことが言えるでしょうか？

11

大陸ごとの人口

*世界を作ろう(机をくっつけよう)
- 40個の机を大陸ごとにくっつける
- アジア 10個
- アフリカ 9個
- ヨーロッパ(ロシア含む) 7個
- 北米 5個
- 中南米 7個
- オセアニア 2個

*自分の住む大陸の周りに椅子に座ろう。

12

第9問

*役割シートに書かれているあの5つの言葉を両に出して言いながら、同じあひつぎしている人を探しましょう。
*仲間が見つかったら、椅子に座ろう
*3分たって、仲間が見つからなかったら、後列に集まろう
*それぞれのグループの言語と人数を発表してください！
(学級委員さんは、あまりメンバーの言語と人数も発表してください)

13

答えは

D 中国語→A スペイン語→B 英語→C ヒンディー語

*同じ言語でも話されている地域が違う

*半分近くは1人しかいない言語だが、それにみない少数言語も世の中に3000以上ある。

14

全員起立！

*全員起立したら、次の指示にしたがってください

बसुहोस

15

1000万円を分配します

*○グループには741万円
*△グループには146万円
*☆グループには63万円
*□グループには35万円
*◇グループには15万円

17

これは一体？

*どういうことを意味しているでしょうか？
グループで考えてみてください。

*5グループは10人ずつ(余り・欠席含む)います。
*つまり、全人口の20%が74.1%の富を独占しているのです。
(順に14.6% 6.3% 3.5% 1.5%)
*このあたりの不平等は2週間後にまた考えます)

18

⑦ 6/4 テーマ：開発 「SDGs 学習」

6/4、2時間目の GRIT では、昨年 9 月に国連で採択された SDGs「持続可能な開発目標」の概要を学んだ。国連が SDGs を考えた背景のビデオを視聴し、新たな国連による指標を学んだ。そして、その目標を達成させゆくために自分たちがもっとも重要視すること、そのためにできることを考えるキックオフの授業とした。

○GRIT 生徒用プリント：開発①②ワークシート内容

GRIT 開発①② 世界が50人の村だったら・SDGs ワークシート

- A. 世界の50人の村だったらで気づいたことを裏面にメモを書いていこう
 B. SDGsの17項目のうち、最も大切だと思う項目、もしくはもっともはやく解決すべき項目はどれだと思いますか。
 (なぜ解決したほうが良いと思いますか?)
 C. このGRITで学んだことをまとめよう
 D. 感想
 E. 今日のGRITでできたこと、感じたことに丸をつけよう
 1. 世界の現状を知ることができた
 2. 世界の現状をさらに調べようと思った
 3. 世界の現状を解決するためにどうすればよいか考えた
 4. 世界の現状を解決するために自分に何ができるかを考えた

⑧⑨ 6/25 テーマ：開発 「貿易ゲーム」

この日は貿易ゲームを通して、フェアトレードについて学ぶ時間とした。この日の進行はGRITリーダーに依頼した。このGRITは毎年好評を得ており、全員が大きな学びとしている。

「フェアトレード」とは、公正な国際貿易のこと。途上国の原料や製品を、適正な価格で継続的な購入を通じて、立場の弱い人たちの自立と生活を改善することを目指す取り組みであることを理解するとともに、現実の国際社会では、経済的に豊かな力の強い国に有利な不公平・不公正な貿易が行われており、貿易ゲームを通じて、世界の不公平な貿易の状況を学んだ。

さらに、2016年に来日したウルグアイのムヒカ元大統領の紹介ビデオとスピーチ動画を視聴した。このビデオは「世界で最も貧しい大統領」として知られており、資産の80%を寄付、個人資産は約18万円の車のみ、月に約10万円強で生活をされており、そのビデオを見て、開発の必要性、などを考えた。

○GRIT 生徒用プリント：開発③④ワークシート内容

6/25 GRIT 開発③④ 貿易ゲーム ワークシート

- A. 貿易ゲームの勝因・敗因（ゲーム中に工夫したことを書いてみよう）
 B. 貿易ゲームの感想（ゲーム中に感じたことを思い出して書いてみよう）
 C. ところで、貿易ゲームにでてきたものは、現実社会において何を表していると思いますか？
 (紙)・(はさみなど道具)・(情報端末・情報)
 D. 今日のゲームが現実社会をあらわしているとしたら、どのような点だと思いますか。また、違うところはどこだと思いますか。
 E. 他の班の状況を聞いて感じたことをまとめよう
 F. ビデオを見ながら、メモをとろう
 G. ビデオを見ての感想
 H. 今日のGRITでわかったことをまとめよう
 I. 今日のGRITでできたこと、感じたことにより近いものに丸をつけよう
 (それぞれ複数の項目に当てはまるときは複数に○をつけてかまいません)

(貿易ゲーム)

A. 班員と協力し、さらに、どうすればお金を稼ぐことができるか積極的に考え、他班と交渉した。	B. 班員と協力し、さらに、どうすればお金を稼ぐことができたか考えた。	C. 道具を使って、製品を一生懸命作った。	D. 何もしなかった（途中であきらめた）。
--	-------------------------------------	-----------------------	-----------------------

(終了後)

A. 今回のゲームと現実との差異、共通点を考えることができた	B. 今回のゲームと現実との差異、共通点を聞いてわかった。	C. ゲームと現実の間に差異や共通点があることはわかった。	D. 特に何も感じなかった。
--------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	----------------

(ビデオ視聴後)

A. 元大統領のスピーチの内容を現状と見比べて、これからの自分の行動について考えることができた。	B. 元大統領のスピーチの内容を現状と見比べることができた。	C. 元大統領のスピーチがすごかった。	D. 特に何も感じなかった。
--	--------------------------------	---------------------	----------------

○GRIT 用 PowerPoint：貿易ゲーム（抜粋）

GRIT 開発 3④ 貿易ゲーム

GRIT 「開発」

- 前回の GRIT「開発」では、世界の現状と今目標としている SDGs を学びました。
- 今回の GRIT では、ゲームを通して世界の仕組みについて考えてみたいと思います。
- 今日の進行は GRIT リーダーが司ります。クラスみんなで協力して、GRIT の成功につなげていきましょう。

貿易ゲームの目的

- 渡されたものだけを使って、自分たちのためにできるだけ早くたくさんのお金を稼ぐことです。
- 渡されたもの以外を使うことはできません。(グループに道具の封筒を配ってください。封筒はスタートになるまで触れないでください。)
- お金は、「製品」は紙を切って作ったものを「マーケット」で売ることによって手に入ります。

ルール

- 「製品」は、ハサミを使ってきれいに切り、決められたおりの大きさに切っていきます。
- 「マーケット」で「製品」を売るときは、必ず 3 枚 1 組でなければなりません。
- 暴力、脅し、道具の強奪、盗みは禁止！
- 途中で困った時もグループで相談して解決してください。
- GRIT リーダーには、ゲーム中相談はできません。
- 何分間ゲームが終了かはわかりません。いきなり終わる可能性があります。どう行動するか考えてみましょう。

製品一覧 (3 枚 1 組の値段)

5cm × 7cm の長方形	300
1 辺 7cm の正三角形	500
配布された大きさの分度器の形	500
直径 7cm の円	1500

説明は以上です。

- 何がどう役に立つのかはわかりません。使わないものもあるかもしれません。状況はどんどん変化します。気持ち折れないように頑張ってください！
- さっそく始めようと思います。準備はいいですか？
- 次のシートに進んだら、カウントダウンのあと、ゲームがスタートします。いろんなことを考えて、できることをめいっぱい頑張ってください。

各班の情報を発表

- 班が最初から持っていたもの (紙の枚数、道具など)
- 自分のグループの勝因、敗因 (うまくいったポイント、うまくいかなかったポイント)
- (あれば) 状況が変わったときに工夫したこと
- (あれば) 他の班と交渉したときに苦労したこと、驚いたこと (こんな理不尽な交渉があったなど)
- 感想

● 各班 1 分以内で発表してください。

状況の変化の確認

- ゲーム中にどんな変化があったか確認してみましょう
 - ・ 不平等な持ち物
 - ・ 長方形の暴落
 - ・ 長方形の急騰
 - ・ 情報伝達？どんな情報が流れていました？
 - ・ 長方形が暴落するらしい
 - ・ シールも暴落するらしい
 - ・ マーケットの急い
 - ・ 途中で 9-10 時への移動
 - ・ 時間で閉会無用で終わるマーケット

こんな班ありませんでしたか？

- ・ 情報を手に入れた、シールという貴重な財産を安く手に入れようとした
- ・ 安く仕入れた紙を高く売ろうとした
- ・ 他の班の様子を見て、情報がないものか推測した
- ・ 自分たちからの交渉は高圧的に行うのに、他からの交渉は一切無視
- ・ 何をしても、のかわからず、他の班に言われたままに従ってしま

● これはいいという点はどうでしょうか？

各班でディスカッション

- 今日のゲームは現実社会をあらわしているとしたら、どのような現象をあらわしていると思いますか？
- また、これは現実と違うと思うことはありますか？
- また、ゲームの途中の変化や「紙」「道具」「資源」、途中で使われない「シール」などは一体どういうことを表しているのでしょうか？
- ワークシートに書いたことをもとに、各班考えてみてください。(10:25 には次のシートに入ってください)

ここで

- 今年 4 月、南米ウルグアイの元大統領が来日しました。
- 世界一美しい大統領と呼ばれた元大統領の 2012 年リオ会議でのスピーチを見たいと思います。(地理で一部見ていると思いますが、今のゲームをした自分たちの世界と見比べて、メモをとって見てください)

ゲームではさまざまな現象が起きましたが

- 「紙」という「資源」を「道具」という「技術」を使って、お金を稼いでいる国がありました。
- 「情報」を手に入れた、新たに価値が生まれた「シール」を早く手に入れた班がいたり、他の班をやりこみ出したり、エゴが多くなった班があったりしたと思います。
- 製品を作った班には、紙くずという「産業廃棄物」を多く生み出した班もあると思います。
- さあ、まだまだ発展途上国がたくさんある世界に対して、みなさんができることは何でしょうか？

⑩～⑬7/19 9/10 フィールドワーク（インタビュー）

本年も高校1年生全員が探究活動の課題として夏休みにインタビューに取り組んだ。フィールドワークリサーチとして、「環境、開発、人権、平和」の4分野の中からテーマを選び、身近でその分野で働く人々にインタビューを行うことにより、現実の中でどんな活動が行われているのかを学ぶことを目的とした。

NHKの高校講座「国語総合」から「インタビュー」の回を抜粋して視聴し、その後、課題を説明。そして、ロールプレイを行った。

生徒はそれぞれ夏休みに身近な人にインタビューを行い、内容を、B4のポスターとしてまとめた。

9月のGRITの時間に、ポスター発表会として、グループで自分のポスターを見せ、内容を発表していき、優秀作品をグループでひとつ決め、代表はクラスみんなの前で発表。更に、クラスで最優秀作品も決め、全作品を廊下に掲示した。

○GRIT用PowerPoint：インタビュー説明（抜粋）

GRIT 夏の課題「フィールドワーク」4分野をインタビューで学ぶ

フィールドワーク(インタビュー)内容

- 「環境」「開発」「人権」「平和」に関する仕事、活動をしている身近な人にインタビューを行う。
- インタビューは個人個人が行う。
- できる限り相手と一緒に写っている写真を集めて、ポスターに貼ろう。
(ただし、お断りされた場合は、建物の写真など)
- 提出方法
 - A3用紙(縦)にまとめて提出→廊下に掲示
 - 9月10日GRITにて発表。提出(ポスター作成時間はありません)。

目的

- 1・2年生のGRITで学習する「環境」「開発」「人権」「平和」の4分野について、身近な人にインタビューを行うことにより、実社会の中でどんな4分野に関する活動が行われているのかを学ぶ。
また、身近に存在する4分野を考えるきっかけにする。
- フィールドワーク(インタビュー)を行うことにより、研究や分析に必要な調査の基礎を学ぶ。

ロールプレイ(役言練習)

- 2人(3人)一組で、以下のように役割を決めて、インタビューの予行練習をしてみましょう。その役割になりきって、「上手な尋ね方」「上手な答え方」を考えよう。
- 質問の
- また、グループの他のメンバーは、そのインタビューをチェックして、良かった点、改善したほうがよい点をコメントしてください。

Situation 1

- Aさんは、関西創価高校を受験しようかどうか迷っている中学3年生。Bさんは、高校受験で入学した高校2年生です。Aさんは「先輩が創価を目指した理由」「実際の学園生活で一番楽しいこと」「()」を知りたいと思っています。
- 〈 〉の材料は自分たちで考えよう
・2分：内容検討 5分：インタビュー 3分：コメント・評価

Situation 2

- Cさんは、新入生で、どのクラブに入るか迷っています。そこでD先生に相談に行きました。D先生はクラブの担当者で、ご自身も高校時代に「○○部」で活動していた経験があります。Cさんは、「クラブをすることの意味」「D先生の高校時代のクラブ活動の思い出」「()」について聞いてください。
- 〈 〉の材料は自分たちで考えよう
・2分：内容検討 5分：インタビュー 3分：コメント・評価

⑭⑮ 10/8 テーマ：人権「世界の人権問題ポスターツアー」

GRIT人権の初めは世界の人権問題のインプットを行うことを目的とした。

まずはノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさん紹介ビデオと、国連でのスピーチを視聴した。

今回はたくさんあるテーマを生徒が説明する形にするため、ジグソー法を発展させたポスターツアーの形式で発表を行うことにした。

まず生徒はグループをつくり、グループごとに国際NPO「アムネスティ」のホームページの人権

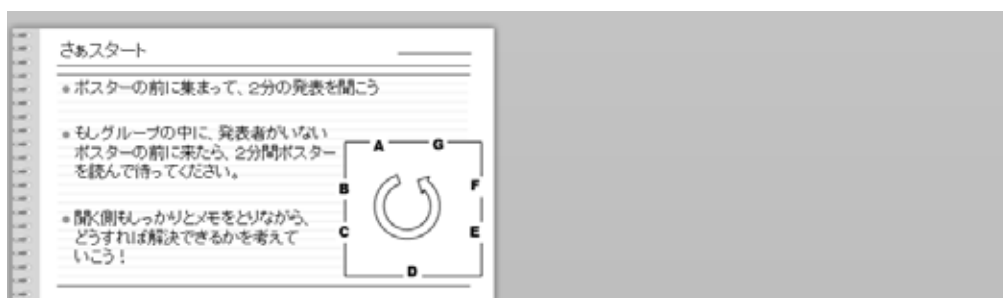
問題をグループごとに違うテーマで読ませ、それをポスターにして、発表ができるようにした。ポスターといっても、項目ごとに付箋で内容をまとめたものである。そのポスターが完成したら、グループを作り直し、新しいグループには最初の違うグループのメンバーが集まるようにした。時間を区切って、ポスターを回り、自分の作成したグループのポスター前ではそのグループ員が発表するようにした。

したがって、全員が必ず発表を行うようにした。2年生でも行った。

○GRIT 用 PowerPoint：人権問題ポスターツアー（抜粋）

The image shows a sequence of 6 PowerPoint slides from a presentation titled "GRIT 人権①・②".

- Slide 1:** Title slide: GRIT 人権①・②
- Slide 2:** 今日GRIT人権①・②
 - 2学期最初のGRITは人権について考えていきます
 - 世界で起きている人権問題
 - 身近な人権感覚を考えていきます
 - ところで、みなさんは「人権」って大切にしていますか？
 - 何をすることが「人権」を守ることになりますか？
 - 世界ではどんな「人権」問題が起きているかを知っていますか？
 - 1時間目の青春対話では「人権」とは何か？というテーマを話しました。さらに、具体的を考えていきましょう。
- Slide 3:** ビデオ マララ・ユスフザイさん スピーチ
 - 2014年ノーベル平和賞を17歳の年齢で受賞したマララ・ユスフザイさんのビデオを見ます
 - 「クローズアップ現代」(2014年1月8日(水))抜粋
 - 「国連でのスピーチ」(2013年7月12日)抜粋
 - パキスタン北部で、女子が教育を受ける権利を訴え続けたマララ・ユスフザイさん。タリバンによって銃撃を受けたが、奇蹟的に一命を取り留めました。それでも彼女が訴え続ける権利とは？と考えながら見てください。
- Slide 4:** 世界の人権問題を学ぶ
 - グループごとに世界の人権問題を学んで、ポスターを作ります。
 - 資料は国際人権NPOアムネスティによる内容です
 - まずは、各グループごとに配布されたプリントの内容を理解してください。(必要があれば、タブレットで調べてみよう)
 - ポスターにして全員が2分で説明できるようにしてください！！
 - 全員に説明してもらいます！！
- Slide 5:** ポスターの作り方
 - それぞれの人権問題に対して、A3用紙にふせんを貼ってポスターにしてください。
 - きれいなポスターではなく、内容がまとまっているものというポスターです。
- Slide 6:** ポスター 内容
 - ポスターにはそれぞれの人権問題について、「概要」「現在」「対策」などの項目ごとに、ふせんをはっていく。
 - 項目は自分たちで変更してかまいません(資料ごとに内容が違いため)
 - 「対策」の項目は必ずつくろう。
 - ぜひ自分たちの意見も書いていこう。
 - 休憩を含め、11時20分までに完成してください。
- Slide 7:** 新グループ作成!
 - 各グループから1人ずつになるような新グループをつくってください(担当の先生の指示にしたってください)。
 - ポスターはホワイトボード、壁、窓にはって、そのまわりに新グループごとに集まってください。
 - もしグループの中に、発表者がいないポスターの前に来たら、2分間ポスターを読んで待ってください。
 - 聞く側もしっかりとメモをとりながら、どうすれば解決できるかを考えていこう！
- Slide 8:** ポスターセッション様子
 - Students are shown in a classroom setting, standing around a table and looking at posters.



⑩⑪ 10/29 テーマ：人権 「いじめといじりディベート」

これも昨年度からのプログラムである。日々当たり前に使っているあだ名もエスカレートし、本人が嫌がるといじめにつながる。「いじり」と「いじめ」の境界線を考え、今近くにいる友達の人権を考えるためにディスカッションを行った。

まずは、NHK「いじめをノックアウト」あだ名は禁止するべきですか？の回を視聴し、あだ名を嫌がっている子、あだ名は禁止すべきであるという意見を紹介した。その後まずは個人でメリット・デメリット・あだ名がいじめにならないための解決策3か条を考え、グループごとにディスカッションし、グループごとに解決策を考える、それをクラスで発表し、またグループでディスカッションし、クラスのルールを1つ作成した。

スムーズにディベート風ディスカッションができるように、ワークシートには穴埋め形式のシナリオを準備した。

できる限り全員一致のルールがつかれるように、GRIT リーダーに進行役を依頼した。

このプログラムは2年生でも同時に行われた。

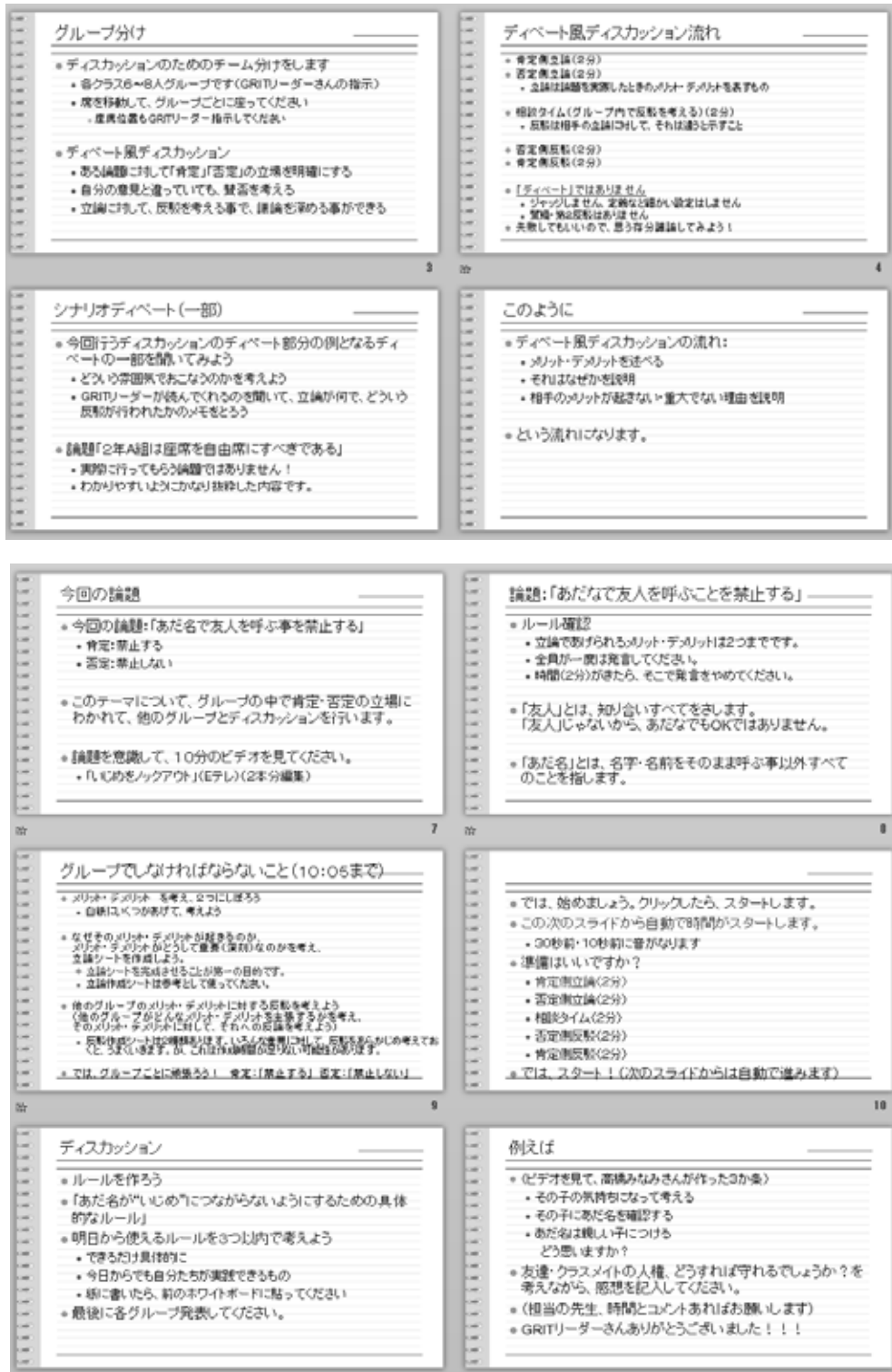
○GRIT 生徒用プリント：「いじり」と「いじめ」グループワークシート

GRIT 人権 「いじり」と「いじめ」

○あだ名が「いじめ」につながらないようにするための具体的なルール

○GRIT 用 PowerPoint：「いじり」と「いじめ」ディスカッション（抜粋）





○GRIT 生徒用プリント:「いじり」と「いじめ」グループワークシート内容 (抜粋) GRIT 人権 肯定側立論シート

○これから肯定側立論を始めます。
○それでは、「あだ名で友人を呼ぶ事を禁止する」ことから発生するメリットを2点(1点)述べます。
メリットは、1つ目に _____
2つ目が _____ です。

○第1のメリット _____ について説明します。
「あだ名で友人を呼ぶ事を禁止」します。すると(発生過程の説明)、

こうして、メリットの_____が発生します。
○なぜこのメリットが重要かというと、
ですから、このメリットは重要です。以上で、肯定側立論を終わります。

GRIT 人権 否定側立論シート

○これから否定側立論を始めます。
○それでは、「あだ名で友人を呼ぶ事を禁止する」ことから発生するデメリットを2点(1点)述べます。
デメリットは、1つ目に_____
2つ目が_____です。
○第1のデメリット_____について説明します。
「あだ名で友人を呼ぶ事を禁止」します。すると(発生過程の説明)、
こうして、デメリットの_____が発生します。
ですから、このデメリットは深刻です。以上で、否定側立論を終わります。

GRIT 人権 肯定側反駁 シート

○これから肯定側反駁を始めます。
○否定側は第1(2)のデメリットの発生過程(深刻性)で、
といいました。しかし、それは違います。
○なぜなら、

だからです。
したがって、このデメリットは発生しません(深刻ではありません)。
以上で肯定側反駁を終わります。

⑩ 11/5 テーマ：平和 「現在の戦争・紛争：ソマリア・南スーダン」

平和の回の最初は、今世界で起きている戦争・紛争の様子をVTRでみてもらう回にしました。まずは、数多くの現在の戦争・紛争をリストアップし、その戦争・紛争を知っているかどうかに関心を持って行いました。また、クローズアップ現代「“破綻国家” 衝撃の潜入ルポ ～混迷するソマリア・南スーダン～」の回を視聴し、平和な国日本にあって気づかないところもあるが、世界ではまだ紛争が起きており、子どもたちが巻き込まれていることを実感しました。

そして、TED「テロリストの子どもに生まれて」の回を視聴し、どうやったら差異を乗り越えられるかを考えた。

この回は2年生のGRITでも同様に視聴した。

○GRIT用 PowerPoint：現在の戦争・紛争（抜粋）



現在の戦争・紛争 ・さて、みなさんは、21世紀に入ってから起きている戦争・紛争について、どこまで知っていますか？ ・21世紀に入ってから戦争・紛争についてワークシートの一題に → 知らない ✕ → 聞いたことがある △ → どういう戦争か知っている ○ → 説明できる ◎ → 調べてみてください。	ビデオ1:「クローズアップ現代」(抜粋) ・実際に現在起きている紛争のうち、2つ「ソマリア」「南スーダン」の現状をビデオで見たいと思います。 ・“破綻国家”衝撃の潜入ルポ～混乱するソマリア・南スーダン(NHK、2016年9月20日放送) ・ビデオを見ながら、新たに知ったこと・気づいたこと・疑問に思ったことを書いていこう。
ビデオ2:「TED」ザック・エブラヒムさんの講演 ・前知識 → 1993年2月26日、ニューヨークの世界貿易センタービル(WTC)の地下駐車場で爆弾を結んだ車が爆発。爆発により6人が死に、少なくとも1,040人が負傷したという ・彼が自分の友人だとして、話を聞いてみよう	ビデオを見て、ワークシート記入 ・感想を書こう ・あなたは彼の友人だとします。スピーチを聞いて、彼の話を初めて聞きました。スピーチのあと、何をするか考えてみよう。 ・GRIT平和では、さらに付録などを考えていきます。戦争・紛争について、平和について、どう取り組んでいくか考えてみてください。

⑨ 11/19 テーマ：平和 「被爆体験朗読会・核兵器について学ぶ」

核兵器について学ぶ回を行うために、広島フィールドワークの際に国立広島原爆死没者追悼平和祈念館行われている「被爆体験朗読会」を行った。広島フィールドワークに参加した生徒が全クラスを分担して担当し、フィールドワークのときの報告が行われた。その後、原爆被害の概要をまとめた「被爆の爪痕」のビデオを視聴。その後 GRIT リーダーさんが被爆体験を2つ朗読した。

次に4つの原爆詩を全員で音読、その後グループごとに1つずつ音読した。そして、その様子を思い浮かべながら、感想を話し合った。

休憩をはさんで、原爆の問題点がかかれたプリントを学び、ジグソー法をつかって、新しいグループでそれぞれが発表した。さらに NHK スペシャル「スミソニアン展示」を視聴し、アメリカの意見を学んだ。

進行は GRIT リーダーさんにお願いした。

○GRIT 生徒用プリント：原爆詩朗読会（抜粋）

GRIT 平和 ワークシート

- ① ビデオ1の感想
- ② 朗読会をしてみて思ったこと
- ③ 自分たちの班の内容を1分で発表できるようにまとめよう
- ④ 他の班のメンバーの発表をメモしよう
- ⑤ 学んだこと・感想

○GRIT リーダー用進行プリント

11/19 2・3限 GRIT リーダー会1・2年平和用

よろしくお願いします。シナリオ付き PowerPoint は木曜日の帰りの HR で担任の先生から配ります。今日は流れと、あらかじめ準備しておいてほしいことをお話しします。

GRIT テーマ：核兵器

核兵器の悲惨さを広島での体験談を使って学び、問題点を資料によって、ジグソー法で学ぶ。2限（GRIT の1時間目）は広島 FW メンバーが全クラスに入って、思いなどを話してくれます。（各クラスに担当の広島 FW メンバーがいます。他クラスからくる場合もあるので、進行は基本的に GRIT リーダーさんがお願いします。もし可能なら、あらかじめ打合せができると素晴らしいです）

GRIT リーダーの役割

- ①. GRIT 進行役（シナリオ付き PowerPoint を準備中）
- ②. グループワーク用グループ（1 グループ 5 ～ 6 人）作成（途中で解体します）
（公欠がないかなど担任の先生とあらかじめ相談しておいてください）
- ③. 体験談の朗読（一人ずつ）

GRIT（2・3限）流れ 波下線はあらかじめ GRIT リーダーが準備すること

2時間目:

- ①. 導入説明（教員）・プリント配布・グループ移動（5分）

グループをあらかじめ作成しておいてください。

- ②. 広島 FW メンバーによる一言（5分）
- ③. ビデオ（PowerPoint 内にあります）（10分）
- ④. 被爆体験記朗読会（20分）：別紙参照

被爆体験記を渡しますので、それを1人ずつ読んでください。（ぜひ最大限気持ちを込めて読んでください）

- ⑤. ディスカッション・感想記入（10分）

3時間目(グループは変えても変えなくてもかまいません)

- ①. 説明+資料配布（5分）
- ②. 資料をグループごとにまとめ、全員が1分で説明できるようにする。（10分）
- ③. グループ移動（5分）

全グループがばらばらになるように移動をさせてください。（前回のポスターツアーの方法を思い出して、担当の先生と相談してください）

- ④. 新グループ内で前グループでまとめた内容を発表（10分）
- ⑤. ビデオ（10分）
- ⑥. ディスカッション・感想記入（10分）

○GRIT 用 PowerPoint：原爆詩朗読会（抜粋）

	GRIT 平和「核兵器」 - 今日のGRITの2時間では、「平和」に対して最も脅威となる「核兵器」について、学び、考えていきます。 - 今日の進行はGRITリーダーさんです。よろしくお願ひします。 - また、この時間は広島フィールドワークにいったメンバーも各クラスに入ってくれます(もし、まだ担当クラスに行っていないフィールドワークメンバーがいたら、移動してください)。 - ワークシート・朗読用紙を配布して、グループになってください。
大切なもの、愛するものを守る？ - 人間には、愛するものを守りたいという感情があります。 - 大切なもの、愛する人々を守りたいという思いが、軍事技術を開発する動機にもなってきました。 1945年、核兵器が開発され、使用されるまでに至りました。 - ここで実際に広島を訪れたフィールドワークメンバーから一言あります。	どう思いましたか？ 1945年8月6日、9日、原爆によって、日本は大きな被害をおきました。その様子を見て、どう思いましたか？ - 感想を記入してください。 - ここで被爆体験に関する朗読会を行います。 - まずはGRITリーダーが、被爆体験を本朗読します。目を瞑って、心で聞いてください。

続いて、原爆詩の朗読 ・原爆詩を読みたいと思います。 ・まずは、全員で声合わせて読んでいきます。 ー広島フィールドワークメンバーは満足があれば随時お断りします。 ・次に、各班代表が(男女交互になるように)、4つのうち、心に残ったものを1つ選んで読んでください。 ー同じものが選んでもかまいません。 ・(時間があれば)グループで「原爆詩を読んだ感想」「自分がその場にいたらと思うこと」「自分の家族を思い浮かべて感じたこと」を話してみてください(感想用紙に書いてください)。	・さっきの時間では、原爆被害にあった人たちの声を読んでみました。 ・この8時間は、いかに「原爆」が問題があるのかをグループごとに学んで発表するようにしたいと思います。 ・各グループ別に資料を配って下さい。 ・グループごとに配られた資料を全員が1分で話せるようにまとめてください(10分間)
新しいグループ ・新しいグループで、前のグループでまとめたことを1分ずつで発表してください。 ・(1分は担当の教員(もしくはGRITリーダー)が1分はかってあげてください) ・聞いている人はメモをしっかりとろう。 ・(発表が終わったら)なんでこんな兵器が必要だと思っているのか、保有国の立場で考えて、ワークシートに書いてみよう	・原爆を落とされたときのアメリカ側の様子を見てみよう 「アメリカの中の原爆論争 スミソニアン展示の道徳」(1996) ・どう思いましたか? ・(時間があれば)ビデオの感想・これから核兵器をどうしていいのかがグループで話をしてください。 ・0年生のGRITで、さまざまな立場で核兵器を拒否する交渉をしています。 ・(担当の先生)一言あれば、お願いします。 ・GRITリーダーさんおつかれさまでした!

② 12/17 テーマ：平和 「平和のためにできること」

GRIT 平和最後の回では、2016年に国連で核兵器禁止条約に日本が反対をしたということから、そのことに「賛成」「反対」の立場の意見を読み、同時に12月に行われた「国連軍縮会議」の様子、「核廃絶を訴える高校生たち」とのビデオを見て、じぶんたちができることは何だろうかと考えた。

○GRIT 用 PowerPoint：平和のためにできること（抜粋）

GRIT 平和④ 平和のためにできること	GRIT 平和 ビデオ1 ・GRIT平和も4回目です。 ・今日で1年生でのGRITの学びも最後です。 ・まずは、12月12・13日に長崎で行われた「国連軍縮会議」の様子をまとめたビデオを見て下さい。 (NHKニュースと長崎でのニュースをまとめたものです)
核兵器禁止条約、日本はなぜ反対したのか ・資料をグループで読んでみてください。 ・なぜ日本が反対したのかを考えてみよう。 ・そして、ワークシートに「日本が反対したことに対して、賛成点、反対点それぞれの立場から考えて書いて、自分はどうか思ったかも書いてみよう。 ・それをグループの中で発表しよう。	ビデオ2 平和のためにできること ・キャッチ！世界のトップニュース(2015年) ・「核兵器廃絶」を訴える日本の高校生たち」 ・国連平和大使の活動を紹介しています。 ・「自分にできることはなんだろう?」と思いながら、できることを書き込みながら、観てください。

○ 12/17～2017/2/18 プレゼンテーション準備・発表

6人グループを作成し、1年間学んできたことをまとめ、学園生からの提言という形でまとめて、保護者の前で発表した。この発表では、パソコンを使わず、寸劇・紙芝居・模造紙によるまとめ・パネルディスカッションなどの手法を使うことにより、どう発表したいことをまとめるのか、表現するのかを学んだ。

5.2 2年生 テーマ：「人権」「平和」「課題研究」

2年生の GRIT ではグループによる課題研究が行われた。「人権」「平和」の GRIT の内容は1年生と同様なので割愛。

日付	回	テーマ	詳細
2016/4/16	1	ガイダンス	ガイダンス
4/30	2	課題研究	研究計画作成
	3	課題研究	研究計画作成
5/28	4	課題研究	研究計画作成
	5	課題研究	研究計画作成
6/25	6	課題研究	振り返り
7/19	7	課題研究	リサーチ
	8	フィールドワーク	フィールドワーク計画
9/10	9	フィールドワーク	国内フィールドワーク報告
	10	フィールドワーク	各自フィールドワーク報告
10/8	11	人権	世界の人権問題
	12	人権	人権問題ポスターツアー
10/29	13	人権	いじめといじりディベート
	14	人権	いじめといじりディベート
11/5	15	課題研究	リサーチ
	16	課題研究	リサーチ
11/19	17	平和	被爆体験朗読会
11/19	18	平和	核兵器の現在
12/17	19	課題研究	大学院生へのプレゼン
	20	課題研究	大学院生へのプレゼン
2017/1/14	21	課題研究	大学院生へのプレゼン
	22	課題研究	大学院生へのプレゼン
	23	その他	タブレット配布
1/21	24	平和	平和のためにできること
2/4	25	課題研究	プレゼンテーション
	26	課題研究	他クラスへのプレゼン
	27	課題研究	他クラスへのプレゼン
2/18	28	課題研究	準備
	29	課題研究	保護者への発表
	30	課題研究	保護者への発表

○ 創価大学研修に向けて

6月に行われた創価大学研修において、グループごとにプレゼンテーションを行った。そのための調査・発表準備を行った。

創価大学研修において、大学教員の前でプレゼンテーションを行い、質疑を受け、内容を深めた。

○GRIT 生徒用プリント：大学研修に向けた課題研究ワークシート内容（抜粋）

○創大研修 GRIT 研究発表について

いよいよ創大研修に向けて、研究発表の準備をスタートします。昨年度 GRIT で学んできたことをもとにして準備を進めても、はじめから調べて準備を進めてもどちらでも構いません。世界で起きている諸問題について自分なりの意見を持つことができる一人ひとりへと成長するためのステップであると捉え、積極的に挑戦していきましょう。

■発表の内容

○発表時間は15分。（発表10分 ＋ 質疑応答3分 ＋ 準備・片づけ2分）

○発表の構成

- 1) 問題の提起…具体的な global issue をあげ、概要を説明する。
- 2) 背景…問題が起きている背景には何があるのかを指摘する。

- 3) 本質…問題解決のためにはどうすることが必要なかを指摘する。
 - 4) 提言…3を受けて具体的な提言を行う。
 - 5) 今後の方向性…3学期の最終発表に向けて、どう研究を深めていくか決める
- 発表の方法はパワーポイント、模造紙のどちらでも可。

■研究発表のポイント

- 企画は現実をしっかり把握してから計画を立案。実現可能な範囲で考える。
- なんらかの「目新しさ」があること。
- 裏付けを提示しながら主張を行うこと。
- 予想される質問に対して回答例を考えておくこと。

テーマ決定のプロセス

1年間皆で格闘する「テーマ」です。掘り下げがいがあるものを考えましょう。
 とは、いうものの1年間深めていく内に、さらに新たな問題が発見されるということも十分に予想されます。テーマが「バージョンアップ」したり、より「深い」テーマになったりすることは仕方ないでしょう。

○テーマ決定までの道のり

- ①まず、それぞれの分野に沿ってイメージを膨らませる。

例) 環境分野 → 水質汚染、空気汚染、土壌汚染、温暖化、酸性雨など

- ②膨らませたイメージを絞り込んだら、具体化の作業をする。

例) 「水質汚染」について深めよう。

水域の種類 (海? 川? 湖?), どこの水 (日本? そのほかの国? 比較?)

汚染の種類 (ゴミ? 重金属? プランクトン?)

- ③そのテーマの可能性と価値を考える。

例) 「日本の湖におけるプランクトンの異常発生について」調べるとすると、それが深まる可能性は?

④プランクトンの異常発生「原因」とテーマを設定すると、文献を調べて「原因」にたどり着けば、そのテーマは終了。(自分たちで原因を探るところまでは難しい)

⑤プランクトンの異常発生を「防ぐ」には?とテーマを設定すれば、上記の「原因」を調べた上で、さらにそれに対して現在行われていることを調査し、それを踏まえた高校生目線の新しい「アイディア」を提案することができるかも知れない。(その実現可能性について大学教授の意見を聞くこともできるかも)

※ある程度の研究のゴール地点を予想することが大切です。

○テーマ例

環境	水質汚染とその改善	ゴミを減らすためには	地球温暖化
開発	開発途上国の教育問題	世界の水問題	シリア難民の開発援助
人権	LGBT と私たちの未来	子どもの権利	ハンセン病について
平和	核廃絶	中日友好について	テロについて

○生徒の感想：短い準備期間でしたが、グーグルスライドやパワーポイントを使って、大学教授の前で、各班しっかりとプレゼンができていました。大学教授も、真剣に聞いて、パワーポイントの内容、今後加えるべき研究内容、改善点を具体的にアドバイスしてくださり、準備は大変でしたが、想像以上に良い機会となりました。

○ 研修後・大学院生の発表・最終発表（保護者前）

研修後は、創価大学での発表を振り返り、夏休みにフィールドワークとして、各人が更にテーマについて掘り下げて調べてこられるところを調べてくることになりました。それを、休み明けの9月10日に発表しあい、各班のプレゼンに取り入れていきました。

さらにまとめていき、12月17日、1月14日 大学院生の前で発表を行いました。各クラスに

一人ずつ、大学院生に入ってもらい、各班のプレゼンを見てもらいました。大学院生からは、内容に関する質問、加筆、修正、追加で調べることや、パワーポイントの文字や図の入れ方、発表の仕方など、具体的な細かなアドバイスもしてもらい、有意義な時間となりました。

2月4日には、大学院生のアドバイスを受けて、2時間の GRIT の時間、またグーグルクラスルームを活用して、各自での分担作業での修正を行いました。

そして、2月4日、クラスをシャッフルして分野ごとに集まりリハーサルを行いました。

他のクラスの発表を見て、お互いに刺激を受け、発表の仕方や、スライドの文字の見やすさなど、お互いに気付いたことを確かめあうことができました。

2月18日には保護者の前で発表を行いました。優秀グループは最終研究発表会で発表を行いました。

○GRIT 発表（開発分野）「トイレの有様」（抜粋）



なぜトイレ問題は
解決されないのか？



1. 政府にトイレが重要であるという認識がない
2. 開発のための資金が十分でない
3. 長期的な健康よりも、今日を生きること

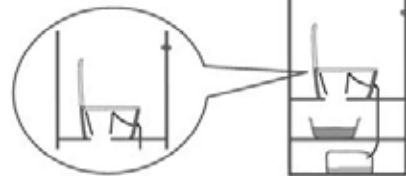
創価大学研修までのゴール

1. 『見えないトイレ』活動の推進
2. SNS特設ページ『トイレの有様』開設

トイレ問題への認知・関心UP

Proposal

コンポストトイレの推進



Proposal

コンポストトイレの推進

1. 低コストでシンプルな構造
1. 水を使わない
1. 糞尿の再利用



Action Plan: コンポストトイレ普及のために

場所: サハラ以南アフリカの農村部

目的: 農村部への持続的なトイレの普及
地肥による農業生産性の向上

主な材料: レンガor木材・トタン
ポリバケツ・ホース・便器



Action Plan: コンポストトイレ普及のために

5年間のサイクル



今後の課題



Conclusion



参考文献

- コンポストトイレの普及事例集: <http://www.thelibraryoftheglobalinfrastructure.com/construction-compost-toilet/>
 コンポストトイレの作り方: <http://www.earthlink.net/2012/02/24/>
 世界トイレの現状: http://www.unicef.org/press/2014/06/20140620_01227.html
 発展途上国のトイレについて: <http://www.earthlink.net/2012/02/24/>

5.3 3年生 テーマ：「模擬国連」「論文・英語サマリー」

日付	回	テーマ	詳細
2016/4/16	1	ガイダンス	ガイダンス
4/30	2	模擬国連	核軍縮交渉シミュレーション
	3	模擬国連	核軍縮交渉シミュレーション
5/28	4	模擬国連	核軍縮交渉シミュレーション
	5	模擬国連	決議
6/25	6	模擬国連	国連についての説明
7/19	7	模擬国連	模擬国連立ち上げ
	8	模擬国連	各国リサーチ
9/10	9	模擬国連	ポジションペーパー作成
	10	模擬国連	ポジションペーパー完成
9/17	11	模擬国連	各国クローズ作成
	12	模擬国連	クローズ提出
10/8	13	模擬国連	地域討議
	14	模擬国連	地域討議
10/21	15	模擬国連	JICA関西・出前講座
	16	模擬国連	JICA関西・出前講座
10/29	17	模擬国連	第1回学年模擬国連
	18	模擬国連	第1回学年模擬国連
11/5	19	模擬国連	ワーキングペーパー確認会
11/19	20	模擬国連	第2回学年模擬国連
	21	模擬国連	第2回学年模擬国連
12/17	22	論文	論文書き方説明
	23	論文	内容あらすじ検討
	24	論文	内容あらすじ検討
2017/1/14	25	論文	輪読・ルーブリック評価
	26	論文	輪読・ルーブリック評価
1/21	27	論文	英語サマリー作成
	28	論文	英語サマリー作成
	29	論文	英語サマリー作成
2/4	30	論文	英語サマリー作成
	31	論文	英語サマリー完成
	32	論文	プレゼンテーション

○4/30・5/28 テーマ：平和「核軍縮交渉シミュレーション」

模擬国連を行うにあたり、昨年度に引き続き核軍縮交渉シミュレーションを行った。生徒を各クラス12のグループにわけ、架空の国という設定で、模擬国連風の交渉を行った。広島女学院高等学校の教材を教えていただき、時間数などにアレンジを加え、授業をさせていただいた。

12のグループにはそれぞれの立場と指令が配られ、自分たちが果たしたい目的が示される。それを利用し、交渉と作戦をたてて交渉していく。

クラスによっては、1国の力が強く、交渉をリードするところがあれば、同盟を組んで、交渉を行ったクラスもあった。

本年度は昨年度より1時間多く時間を取り、交渉がじっくりできるようにした。進行の様子などは昨年度報告書を参考にしてください。

○GRIT 用 PowerPoint：核軍縮交渉シミュレーション（抜粋）

GRIT 平和Ⅱ－① 核軍縮交渉シミュレーション	核軍縮交渉シミュレーション ・ 今日から核軍縮交渉シミュレーションを行います。 → このクラスは一つの「(地球ではないとある)世界」です！ → この「世界」には12の国が存在します。 → 今日は12の国が集まって、核軍縮に関する会議が行われます。 → この会議で決まったことがこの「世界」の約束事になります。 → あなたは各国の「特命全權大使」です。みなさんの肩に自分の「国」の徽章が貼られています！ → 自分の「国」の大統領からの指令をもとに、それぞれの「国」にとって有益になるように「核軍縮」会議の内容を交渉していきましょう。
目的 ・ 多様化する世界でのコミュニケーション能力 ・ 立場の違う国の主張に耳を傾ける ・ 自らの考え方を確固たるものにする ・ 目標の達成に粘り強く努力する力 など身に付けよう！	交渉について ・ 各国大統領からの指令がこのあとです ・ 指令には 1. 「絶対に譲れないこと(妥協できないこと)」 2. 「成功のために譲ってもいいこと(妥協できること)」 がある。 ・ 何を公表し、何を伝えるのか、逆に伝えないのかの判断が大切 ・ 「交渉で達成したい目標・理想」 「交渉で絶対に譲れない最低ライン」の区別をつけよう
今回の議題となる条約 ①. 核実験禁止条約 成立条件: 核兵器保有国2か国 かつ 非核兵器保有国5か国の参加 ② 核兵器拡散防止条約 成立条件: 核兵器保有国2か国 を含む 9か国以上の参加 提案できる条約は以上2つのみ 細かい内容はそれぞれでしっかり読んで理解すること。アレンジすることは自由	出すべき成果 ① 核実験禁止条約 ② 核兵器拡散防止条約 の2つをなんらかの形で成立(あるいは成立阻止)という成果を残すこと。 → 例: ①核実験禁止条約の成立は阻止しつつも、自国の利益(指令書)に照らして②核兵器拡散防止条約の成立を目指す。
交渉の進め方(ルール) 1. 各国に配られる指令書は他国に見せてはならない。 2. 核兵器を1000発以上保有している国は、「核兵器を保有している」ということを必ず公表すること (交渉内容発表のときに公表する) (保有数については、具体的に公表しなくてもよい) 3. 交渉中、うその情報を流すことは禁止する。	交渉ペーパー ・ 条約案を提案する際には「交渉ペーパー」に記入し国連事務局(先生)へ随時提出 ・ 他国と共同で提出することも可能 ・ 成立条件は、条約によって異なる ・ 各グループ1枚交渉ペーパーを配布 ・ 4回の交渉のあと、5月28日のGRITで決議 → 今日は2回の交渉が行われます → 条約を記入したペーパーに基づいて、決議が行われます
作戦タイム ・ 他国の情報を聞いた結果、どの国と交渉するかを考えよう。 ・ 交渉中に他国と共同提案包してもかまいません。そのときは担任の先生に交渉ペーパーをもらい、書き直して、ホワイトボードにはってください。 ・ チャイムまで → 休み時間中の交渉は禁止 → 他国に指令を見られないように心がけよう	第1回交渉(10分) ・ 交渉ペーパー(提示用)をホワイトボードにはった国から交渉スタート → ホワイトボードに提示していない国は他国との交渉ができません ・ 交渉の方法は自由！(ルール3つは守ること)
作戦会議→発表→作戦会議 ・ 一度交渉してみて、うまくいったこと、しなかったこと、交渉内容などを考えよう ・ 各グループ1枚交渉ペーパーを配布 ・ 交渉内容を再確認していただき、変更してもしなくてもかまいません → 交渉中に変更してもかまいません ・ 交渉内容はこのあと発表します。 → 変更しない国は「変更ありません」でかまいません → 他国と共同提案の場合は10の国と共同で、ご自身の提案をしますと説明してください。	振り返りシート記入 ・ GRIT時間以外の交渉禁止 ・ 他国に指令書が見られないように保管すること ・ 次回 5月28日 いよいよ決議！ ・ 残る交渉は2回！！

核軍縮交渉シミュレーション

- 今日はいいよ決議です。
残り2回で交渉をまとめて、この会議を成功させよう！
-この会議で決まったことがこの「世界」の約束になります。
-あなたは各国の「特命全權大使」です。みなさんの願に自分の「国」の運命がかかっています！
- ルール
 1. 各国に配られる指令書は他国に見せられません。
 2. 核兵器を1000発以上保有している国は、「核兵器を保有している」ということを必ず公表すること
 3. 交渉中、うその情報を流すことは禁止する。

決議について

①. 核実験禁止条約
成立条件: 核兵器保有国2か国 かつ 非核兵器保有国6か国の参加

②. 核兵器拡散防止条約
成立条件: 核兵器保有国2か国 を含む 9か国以上の参加

- ・決議は①・②、それぞれの賛成・反対を記録します。
- ・もし、付帯事項(〇〇での実験はしない)などの内容があれば、他国との認識の共有をしておいてください。
- ・条約の付帯事項が2種類以上になった場合は、いずれかの条約に賛成、もしくはどちらも反対で決議を行います。
例: A国、B国、反対 のどれか、「A国も賛成 B国も賛成」はなしなので、あらかじめ交渉でまとめておきましょう。

前回の振り返り・作戦会議

- ・作戦会議中の交渉禁止
- ・条約案を提案する際には「交渉ペーパー」に記入し国連事務局(先生)へ随時提出
- ・他国と共同で提出することも可能
- ・成立条件は、条約によって異なる
- ・まずは、各グループに1枚交渉ペーパーを配布します
- ・今日は2回(10分ずつ)の交渉のあと、決議を行います

最終交渉(10分)

- ・交渉の方法は自由！(ルール3つは守ること)
- ・最後の交渉時間
 - ①. 核実験禁止条約
成立条件: 核兵器保有国2か国 かつ 非核兵器保有国6か国の参加
 - ②. 核兵器拡散防止条約
成立条件: 核兵器保有国2か国 を含む 9か国以上の参加

それぞれの条約について付帯事項を確認してまとめよう。

決議①: 核実験禁止条約

成立条件: 核兵器保有国2か国 を含む 9か国以上の参加

- ・付帯事項を聞きます。案がある国は発表してください。
- ・付帯事項なしの案に賛成したい国がいるかを聞きます。
- ・各国賛否をのべてください。
「A国に賛成」「反対」など
賛成案(付帯事項が数種類の)が提出されているときは、どれが1つに賛成もしくはすべて反対のどちらかをのべてください。
- ・核兵器保有国、非核兵器保有国の確認をします。

決議②: 核兵器拡散防止条約

成立条件: 核兵器保有国2か国 かつ 非核兵器保有国6か国の参加

- ・付帯事項を聞きます。案がある国は発表してください。
- ・付帯事項なしの案に賛成したい国がいるかを聞きます。
- ・各国賛否をのべてください。
「A国に賛成」「反対」など
賛成案(付帯事項が数種類の)が提出されているときは、どれが1つに賛成もしくはすべて反対のどちらかをのべてください。
- ・核兵器保有国、非核兵器保有国の確認をします。

結果

- ・各国の状況を確認するシートを配ります。
- ・実は他国はこういう案件で交渉していました。
- ・各国に一度、案件をもう少し詳しく開示してもらい、達成できたかも開示してもらいましょう。
- ・そして、実はこの国々にはモデルとなる国があります。
→ただし、本当の国とは状況が違います。あくまで仮想の内容です。
- ・みなさんがつくりあげた世界はどんな世界になりましたか？
→核軍縮交渉が実現しましたか？
→核兵器保有国は今より減ってはいませんか？
→一番交渉が大変な最中だったのが...
→「とり組」でした！お疲れ様でした。
- ・他の国も頑張って交渉お疲れ様でした(拍手)
- ・振り返りシートを書いてください。

ところで

- ・核拡散防止条約(NPT)再検討会議が行われました。
→しかし、最終文書が採択できず決裂、閉幕しました。
→そのときのニュース記事を読めるので、読んでみてください。
- このニュースを知っていましたか？そして、どう思いますか？
- ・夏休み前のGRITから今度は実際に調べて、模擬国連を行います。
- ・平和に向けてできること
→未来対話「平和のためにできること」、平和宣言を読んでみましょう。

○模擬国連（流れ）

テーマ：「飢餓の終息に向けた農業分野での国際協力」

6月25日（土）

国連についての説明（TV放送で模擬国連部によるガイダンス）

- ・模擬国連の説明（20分）
- ・模擬国連世界大会出場報告（15分）
- ・今回の模擬国連のテーマについての説明

『飢餓の終息に向けた農業分野での国際協力』（15分）

7月19日（土）

立ち上げ作業

- ① グループ決め、国割り、
- ② ポジションペーパー配布、各国のリサーチ

9月10日（土）

ポジションペーパー完成

- ・自国の基本状況、議題における自国の現状を認識

9月17日（土）

各国クローズ（3つ程度）を提出

- ・議題における自国の現状を認識
- ・世界における自国の関わり方を確認

10月8日（土）

地域討議（各クラス、それぞれの地域ごとに国を振り分けている）

- ・自国の地域の問題を近隣諸国と討議
- ・自国のある地域の問題を確認し、改めて、自国のクローズ（1つ程度に絞る）を検討

10月21日（金）

JICA 関西・出前講座（講師の先生方にアドバイスをいただく）

- ・各講師の先生方によるプレゼン
- ・代表生徒による地域ごとの課題をまとめたプレゼン
- ・自国のクローズを再検討（講師の先生方にアドバイスをいただく）

10月29日

第1回 学年模擬国連

- ・各地域の現状をプレゼン
- ・ワーキングペーパーの作成

11月5日

学年模擬国連を経て、WPに自国クローズをどう組み込むかを検討

- ・ワーキングペーパーの確認（各WPごとに集まり検討）
- ・第2回学年模擬国連での自国の作戦会議

11月19日

第2回 学年模擬国連

- ・ワーキングペーパーの討議
- ・学年模擬国連として決議

○担当国一覧

	1組	2組	3組	4組
	南米	西アジア	東・東南アジア	北中米
1	ブラジル	サウジアラビア	日本	アメリカ
2	アルゼンチン	イスラエル	中国	カナダ
3	コロンビア	カタール	韓国	メキシコ
4	エクアドル	ヨルダン	モンゴル	コスタリカ
5	パラグアイ	シリア	インドネシア	ジャマイカ
6	ウルグアイ	アゼルバイジャン	インド	ハイチ
7	ペルー	トルコ	タイ	キューバ
8	チリ	イラク	ベトナム	パナマ
9	ボリビア	イラン	シンガポール	ホンジュラス
10	ベネズエラ	アラブ首長国連邦	ミャンマー	グアテマラ
11	ガイアナ	バーレーン	パキスタン	ニカラグア
12		レバノン	マレーシア	ドミニカ共和国
	11ヶ国	12ヶ国	12ヶ国	12ヶ国

	5組	6組	7組	8組
	東欧	西欧	アフリカ	オセアニア
1	ブルガリア	イギリス	ケニア	オーストラリア
2	チェコ	フランス	タンザニア	ニュージーランド
3	ハンガリー	スペイン	ルワンダ	フィジー
4	ポーランド	イタリア	南アフリカ	サモア
5	ロシア	ドイツ	ナミビア	バヌアツ
6	ルーマニア	オーストリア	ギニア	キリバス
7	ウクライナ	ギリシャ	セネガル	パプアニューギニア
8	スロバキア	ベルギー	シエラレオネ	ミクロネシア連邦
9	セルビア	オランダ	ナイジェリア	トンガ
10	モンテネグロ	スウェーデン	エジプト	
11	ラトビア	デンマーク	カメルーン	
12	エストニア	ノルウェー	ザンビア	
	12ヶ国	12ヶ国	12ヶ国	9ヶ国

学年合計・・・92ヶ国!!! 92ヶ国で模擬国連を、大々的に開催します(^)/

○（配布資料）模擬国連の用語

○アウトオブアジェンダ (Out of Agenda)

議題との関連性が薄く、今会議では話すことが不適切と判断されるもの。

不適切だと判断された場合には、その内容を議場で話し合うことはできなくなり、決議案からも削除される。

○アmend (Amendment)

修正案。決議案が公式になった後、提出期限までに各国大使と交渉しあい、決議案の文言に変更・削除を加えたものを言う。アmendには提案国すべての支持を得た「友好修正案」と全提案国の支持を得ていない「非友好修正案」の2種類が存在する。

○棄権 (Abstention)

投票行動の一つ。「賛成」にも「反対」にもカウントされない。

○議長 (Chairperson)

議場の議事進行を司る。全体会議の場では、議長の指名がなければ発言することはできない。また、円滑に会議が進行できないと議長が判断した際に行使される権限を「議長裁量」と呼ぶ。

○グループ

会議で複数の国によって構成される集団。政策の似た国々が作る政策グループ、所属する地域機構が同じ国々や同じ地域の国々が作る地域グループ（←クラス）などが主。

○クローズ

決議案に含まれる個別の条項のこと。

関連する幾つかのクローズをまとめて「決議案」が作られる。

○決議案 (Draft Resolution)

各国大使の主張を文言化して記載したもの。これを基にアmend（修正案）交渉などが行なわれる。

○公式討議 (Formal Debate)

議長が議事進行を行ない、各国大使がスピーチを行なう。発言は発言録に記録され、国際世論に公表される。

○コーカス (Caucus)

会合の一時停止の動議によって行なわれる休憩時間のこと。すべての大使はこの間席を立てて移動し、自由に話をするができる。→非公式討議を行ってもよい。

○コンセンサス (Consensus Adoption)

無投票採択。積極的反対がない場合にのみ用いられる採択方法。法的拘束力はないが反対の立場を明確にしていなかったため、道義的拘束力が強い。

○コンバイン (Combine)

2つ以上の決議案を交渉の結果1つにまとめること。

○シグナトリー (Signatory)

署名国のこと。スポンサーとは異なり、決

議案に記載された文言に対して説明責任を負わない。

○スピーカーズ・リスト (Speakers' List)

発言者名簿のこと。議長が募集をかけ、これの則った順に公式スピーチを行なう。

○スポンサー (Sponsor)

決議案の提案国。決議案に記載された文言に対して説明責任を負う。

○動議 (Motion/Point)

文言提出、会議の停止・終了など、会議中の議事進行に伴い各国大使が挙げる提案。

今回の模擬国連では、動議は採用していない。

○非公式討議 (Informal Debate)

各国大使が着席し、議事進行を議長、もしくはインフォーマル動議を挙げた国に任せ、交渉や全体での話し合いがなされる。

○モデレート (Moderated Caucus)

会議を停止させた上で、コーカスの時間中に非公式討議の形態で行われる個別交渉。

○文言 (Tenor)

各国大使の主張を反映した文章を指す。前文と主文から構成される。

○ワーキングペーパー (Working Paper)

各国大使が自国の主張を記述し、議場に公表するもの。決議案の原案となるもの。

○（配布資料）リサーチとは

大使となったみなさんは、これから会議までの間に会議に向けた準備をすることになると思います。その準備を模擬国連では「リサーチ」と呼びます。そこで今回は、リサーチを進める上での前提や、そもそもリサーチとは何なのか、何を目的とすればよいのかということを説明したいと思います。

【リサーチの目的】

「担当国の理想と現実のギャップを認識し、ギャップを埋める方法とその理由を明確にすること」、これがリサーチの目的です。

「担当国の理想」とは、議題について担当国が最も望む状況です。国の立場によって、同じ議題であっても望む状況は異なります。

担当国の理想と現実が明らかになります。すると、理想と現実のギャップが明らかになると思います。このギャップを埋めるための方法（政策）を実現するために、会議では行動します。ギャップを埋めるための方法を実現するには、方法とその方法を行なう理由を明確にすることが必要です。



【リサーチの5段階】

リサーチには大きく以下の5つのステップがあります。以下に挙げた方法がすべてではありません。必ず上から順番にやっていく必要もありません。あくまでも一例として考えていただければと思います。

1. 国を知る

国に関する情報としては、場所や人口といった基礎的な情報や、国連決議に対する投票行動、国連への拠出金負担額やPKO 要員の派遣状況などの議題に関係する情報があります。

2. 議題を知る

議題を知ることは、担当国に利害があってより深く調べたいところが出てくると思います。その際には、議題概説書の巻末にある参考文献リストなどを参照しながら、本やウェブサイト調べてみるとよいでしょう。また、議題に対する過去の国連における話し合いを調べることも重要です。国連の会議は基本的に1度だけではなく、過去の話し合いを踏まえて継続的に審議が行なわれます。従って過去の議論でどこまで話し合いがなされて決定したのかを知ることで、議題に対する国連の取り組みの現実を知ることができます。

3. 政策立案

担当国における理想と現実のギャップを埋めるための方法が政策立案です。最初は大まかなものしか思い

つかないかもしれません。しかし、政策の理由を考えていくうちに徐々に具体的になることもあります。従って、まずは大枠だけでも考えて、理由付けを考えながら具体的にしていこうように意識して下さい。

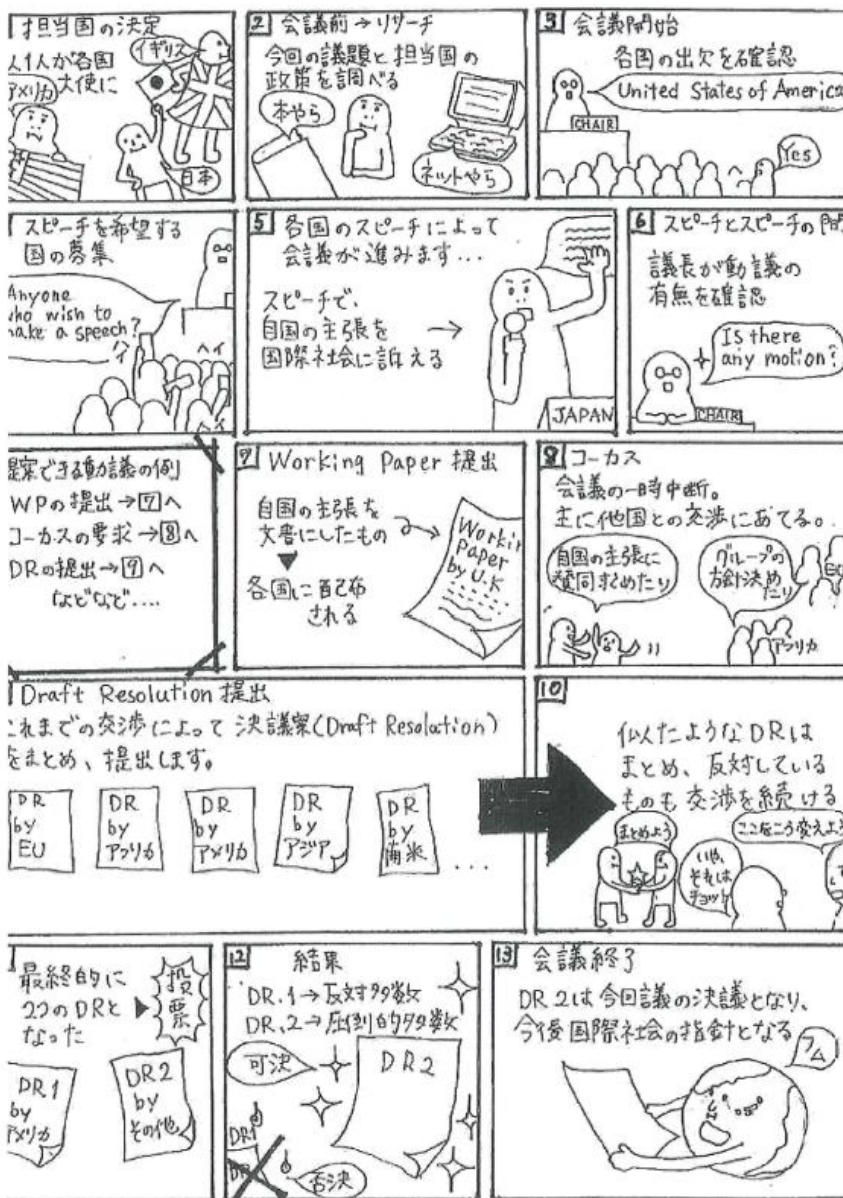
4. 政策立案の理由付け

政策を考えたら、他国になぜその政策を行なうかを説明するための理由を考えます。しっかりとした政策の理由がないと他国を説得することができません。他国を説得することができなければ、その政策が載った決議は採択されません。採択されないと、その政策は実行に移されることはありません。また、採択されるときも多くの国の賛成を得られれば、より政策の実効性が増します。他国を説得する際には、政策の必要性だけでなく、自国の政策が他国にとっても利益になることが明確にできればより望ましいです。

5. 他国を知る

余裕があれば他の国の状況も自国と同様に調べてもよいでしょう。しかし、時間的にすべての国を調べることは難しいです。従って、例えば自国の主張と真向から対立する国や、逆に自国と状況が似ていて協調できそうな国に絞って調べておくことが考えられます。

○（配布資料）模擬国連の流れ説明



Position Paper

国名：

国旗

メンバー：

1. 自国の基本情報

首都	
人口	
政治体制	
政治中心者	
気候	
主な宗教	
言語	
内政状況	
所属する国際 地域機構	
1人当たりの GDP	
貧困率	

主要産業	
主要貿易物	(輸入)
	(輸出)
主要貿易相手国	
平均年収 (ドル換算)	
援助を受けている またはしている 主要相手国	
基本的な外交方針	

農業従事者人口	(%)
主要農作物	
食料自給率	
穀物生産量	
主な輸入食物	
主な輸出食物	
主食	
飢餓人口	
栄養不足人口	
栄養不足蔓延率	
5歳未満児死亡率	
1日の食料消費量	
肥満率	
肥満人口	

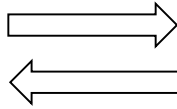
自国周辺略地図

リサーチして感じたこと

2. 条文づくり

☆自国が抱える問題点(現状)

☆自国の今後の方向性(理想)



☆現状と理想との間を埋めるための解決策

☆解決策を基にした条文(3 個以上)

○ 国連総会 1 日目の流れ

【国連総会 1 日目を迎えるまでの状況】

- ・地域別クローズ案が完成している。
- ・地域別クローズに含まれているいないにかかわらず、自国として実現させたい最終クローズ案が 1 つ決定している。

【国連総会 1 日目の目標】

- ・各地域クローズを出発点として、ワーキングペーパー (WP) を完成させ、これを提出すること。

<ワーキングペーパーとは>

- ・国連総会 2 日目に採決にかかる決議案の原案のこと。
- ・各国大使が自国の主張に関しての意見を記述し、議場に公表するもの。
- ・互いに矛盾しない複数のクローズ（条文）を含み、議題を包括的に解決に導くことのできる総合的な対策案となっているもの。

＜ワーキングペーパーの提出条件＞

- ・地域にかかわらず 18 カ国以上がスポンサー（共同提案国）となっていること。
- ・1つの国は、いずれか1つの WP のスポンサーにしかねれない。

＜ワーキングペーパー提出までの流れ＞

- ・トレニア 2 台の上に MacBook を 6 台配置したワーキングブースを、8 カ所設置する。
- ・WP 提出を目指すグループは、議長団に申請してワーキングブースを 1 つ借りる。
- ・Google ドキュメント文書として WP の作成を開始。（まずはサマリーから）
- ・WP の冒頭部分に、その時点でスポンサーになっている国のリストを明記する。
- ・WP のサマリーを iPad で提示しながら交渉を進め、スポンサー国を集める。
- ・スポンサー国の大使を、WP ドキュメントの共同編集者として招待する。
- ・WP 提出締め切りまでに、スポンサー各国の大使と協議しながらサマリーを具体的な条文としてまとめていく。
- ・WP 条文化の過程で、当初のスポンサー国が抜けて他の WP グループに移動することも可。脱退する国は、その旨を WP グループの中心国大使に宣言し、WP のスポンサーリストから外してもらうこと。
- ・WP 作成途中で、スポンサーが集まりそうにないグループは、WP 提出を断念してもよい。その時点でワーキングブースを離れ、議長団にグループの解散を宣言する。
また、所属していた各国は、自国の判断に基づき、他グループとの交渉を開始できる。
 - ・できあがった WP は、スポンサーリストに 18 カ国以上あることを確認した上で、全体で共有される Google ドライブ上にアップし、公開する。
 - ・WP のドキュメントが公開された時点をもって、WP の提出とみなす。

【Time Schedule】

- 10:00～ 2、7 組移動開始 ※各国は、待ち時間を使って最終打ち合わせを行っておくこと
- 10:05～ 3、6 組移動開始
- 10:10～ 4、5 組移動開始
- 10:15～ 1、8 組移動開始
- ～10:30 集合完了
- 10:30～11:10 地域クローズ基調講演（各地域 5 分以内）
- 11:10～11:20 休憩（講堂内）
- 11:20～11:30 会議の進め方の確認
- 11:30～11:35 会議の開会宣言、出席確認（ロールコール）
- 11:35～12:30 討議（非公式討議＝ロビー活動）開始
- 12:30～12:40 ワーキングペーパー提出締め切り、提出された WP の確認・タイトル読み上げ、
会議の閉会宣言

○各国クローズ例

ブラジル

アマゾンの熱帯雨林などが森林伐採により減少し、世界的な気候変動の恐れがあるので、農業が可能な環境を守るため、先進国はアマゾン保護に全面的に協力する。

アルゼンチン

灌漑・焼畑などの地力が低下する農業方法の横行が問題になっており、安定した食糧生産・輸出が困難になるので、持続可能な農業を普及するため、先進国は途上国に関連の技術を提供、経済援助をする。

コロンビア 生産した作物を流通するルートが存在せず、食糧を供給が難しい地域が数多く存在するので、農業関連の流通を円滑にするため、その地域に先進国はインフラ開発に協力する。

○Working Paper 各国クローズ例

Working Paper -B-

Sponsor: Azerbaijan Republic / Republic of Korea / Socialist Republic of Viet Nam / Federated States of Micronesia / Republic of Honduras / Republic of the Fiji Islands / Kingdom of Norway / Kingdom of Saudi Arabia / Republic of Haiti / Republic of Guatemala / New Zealand / Independent State of Samoa / Republic of Vanuatu / United Kingdom / Islamic Republic of Iran / Republic of Lebanon / Republic of Nicaragua / Republic of Bulgaria / Czech Republic / Hashemite Kingdom of Jordan/Panama/Spain/Romania/Indonesia /Thailand / Romania / /Montenegro /Ratbia/ India/ Israel Republic of India State of Eritrea State of Israel Dominican Republic Greece French Republic Republic of Austria Germany Malaysia Estonia

1,発展途上国が発達した農業技術を自国の農業に取り入れて、生産能力を向上させることにより貧困率を減少させるためにFAOと各国が協力し、またFAOの働きを強化して技術交流の効率化を図る仕組み(機関)を導入する

(Republic of Korea Socialist Republic of Viet Nam Federated States of Micronesia Kingdom of Saudi Republic of Australia Kingdom of Norway Republic of the Fiji Islands Independent state of Samoa Republic of Haiti Republic of Honduras Republic of Guatemala Azerbaijan Republic New Zealand United Kingdom Islamic Republic of Iran Republic of Austria)

2,小規模農家が自立して利益を生み出していけるように小規模農家の協力体制を作ること推進する、小規模農家同士で集まり、その自国の土地にあった作物を作り、他国と共有することによって利益を生み出す。

(Republic of Bulgaria Czech Republic Romania)

3,世界的に増加している耕作放棄地を有効活用するため、国際的に統一された農地貸借のシステムを

つくる

(Republic of Lebanon)

4,主に若年層・難民をターゲットとして農業教育の拡充を図り、農業従事者の増加を促進、援助することを推進する

(Republic of Vanuatu Hashemite Kingdom of Jordan Republic of the Fiji Islands)

5,包括的に食糧問題を解決していくための世界食糧安全保障サミットの年一回開催を提案する

(Republic of Nicaragua)

○（配布資料）Working Paper 検討シート（一部）

グループ	クローズ	賛成	条件付き賛成	反対
WP-A	1 世界中の技術（土壌、穀物に関する）を専門の機関に集めて商品化し、それを技術を求める国に売る。また、そこで得た利益の一部を技術提供国に戻す。また、その専門の機関で技術を新たに開発する。それをまた同様に商品化する。			
	2 もっと便利な海上輸送手段を作るため各国が話し合う。			
	3 農業従事者の拡大と技術者の育成への協力。			
	4 食料自給率の向上を目指し、アジア諸国の相互発展に貢献する組合を結成する。（農業また農業関連分野における地域に提供することにより、その代わりに資源の見返りしても良い。さらに農業技術の豊富な地域にも技術提供してもらい、中東地域の協力をはかる。）			
	5 難民を受け入れてもらう代わりに金銭的・技術的に支援を行う。			

グループ	クローズ	賛成	条件付き賛成	反対
WP-B	1 発展途上国が発達した農業技術を自国の農業に取り入れて、生産能力を向上させることにより貧困率を減少させるためにFAOと各国が協力し、またFAOの働きを強化して技術交流の効率化を図る仕組みを導入する。			
	2 小規模農家が自立して利益を生み出していけるように小規模農家の協力体制を作ることを推進する。			
	3 世界的に増加している耕作放棄地を有効活用するため、国際的に統一された農地貸借のシステムをつくる。			
	4 主に若年層をターゲットとして農業教育の拡充を図り、農業従事者の増加を促進、援助することを推進する。			
	5 包括的に食糧問題を解決していくための世界食糧安全保障サミットの年一回開催を提案する。			

当日までに、しておくこと

- ① 最終WPIに自国のクローズが間違いなく文面化されているかを確認する。
- ② 各WPにあるクローズ1つ毎に、自国としての態度を決めておく。（該当欄に○をつける）
WPが決議案となり本会議で採択されると、その中にある全ての条項について承諾したことになります。
→「条件付き賛成」の場合、その条項の著作権国をグループリーダーに確認して、修正の交渉をおこなう。
→「反対」の場合、削除できないかの交渉をおこなう or 成立阻止のため反対国を集める、をおこなう。
- ③ グループごとに集まって、新たにコンバインされてきたクローズへの理解を深めておく。
他グループのWPを見た感想を共有し、自グループ内での役割分担を決めておく。
→自国の決議案を完成させるチーム
→他国の決議案を研究し修正の交渉をおこなうチーム
→自WPの決議案を他WPグループに賛成してもらえるよう、他グループの各国大使の所へ交渉に行くチーム
（情報をできるだけ集めるため、一つの国の中に異なるチームに所属するメンバーがいた方がいい）

○ 国連総会 2 日目の流れ

9 : 00～ 2,7 組移動開始

9 : 05～ 3,6 組移動開始

9 : 10～ 4,5 組移動開始

9 : 15～ 1,8 組移動開始

※待っている間に国ごとに他のグループの WP へのコメントを共有しておく

～9 : 30 集合完了（軽く休憩等もしておいてもらう）

9 : 30～

プロシージャー（会議の流れ）の確認、質疑

9 : 50～

グループごとに集まって新たにコンバインされてできたクローズへの理解を深めるとともに他のグループの WP を見た感想を共有、

グループ内での役割分担を決める（自国の決議案を完成させる、他国の決議案を理解し修正する、自分たちの WP の決議案内容他 WP グループに賛成してもらえよう、他グループの国の大使に交渉しに行くなど。一つの国の中にどちらもいたほうがいい）

←最終 WP に自国のクローズが間違いなく文面化されているかの確認。他グループの WP で賛同できないクローズをピックアップし妥協点を考える。なるべくみんなが納得できるものに。

10:20～ 休憩

10:30～ 校長先生のお話

10:35～ 前回のビデオ

10:40～ 会議の再開を宣言、出席確認（ロールコール）←正式名称でのロールコールにするためにわかるように徹底しておく

10:45～11 : 10 公式討議・非公式討議（着席）

2 グループの代表が公式討議として 3 分以内のプレゼン

5 分間の非公式討議（着席討議）

を 2 回繰り返す

←改めて他グループに対して WP のアピールをし、疑問点があればここで。

11 : 10～ コーカス（非着席討議）の開始 ←交渉重視

11 : 30～11 : 40 一度着席し、会議の進行状況を確認、国ごとに作戦会議

←外交した上での対立軸をグループで共有し作戦を練る。

11 : 40～ 非着席討議の再開←最高の WP 完成のため最後まで交渉を行う。全員合意での可決を目標に。

12 : 00 決議案提出締め切り

12 : 00～ グループの代表者が自分たちの決議案について 1 分 30 秒のスピーチ→投票
を 4 回、3/4 以上の賛成で決議案の可決

※決議した結果をまとめ、海外フィールドワークの際に、チョウドリ元国連事務次長の前でプレゼンをさせていただいた。

OSGH 報告会での生徒の発表 PowerPoint（抜粋）

関西創価高校 模擬国連

Jun. 2016~Nov. 2016



ポジションペーパー

リサーチの助けとなるもの
基本的な自国の情報を調べる
例) 食料自給率、主要産業、外交など

↓

自国の強み、また自国が抱える問題を知る
どうすれば解決できるか? 解決策を考える



模擬国連会議 1 日目

目標 ワーキングペーパー（仮決議案）の作成、及び提出

- 各クラスが、地域クローズをプレゼンする
- グループ形成
- Macを使用し、共有ドライブ内のワーキングペーパーのフォーマットをコピー
※地域クローズ、また地域クローズに入れられなかった自国のクローズを入れる
- 1.8か国以上**のスポンサー(共同提案国)を得たワーキングペーパーは、議場に提出する

模擬国連会議 1 日目に向けて

- 模擬国連の紹介
- グループ割
各クラスを地域ごとに割り振る
各クラス12グループ程度（12ヶ国）に分かれる
- 自国についてリサーチ
自国の基本情報、自国が抱える問題について調べる
- クローズ作り

クローズ（政策）

- 各国3個までクローズつくる
- 地域討議
 - 各国がクローズ紹介する
 - 質疑応答
 - 似ているクローズは合体させる
 - 8個までに絞り、地域クローズとする
- Google classroom** 内で、全クラスのクローズ閲覧可能
- 他のクラスの地域クローズを見て、自国の利益となるか、また協力できそうな国、対立しそうな国調べる

模擬国連会議 2 日目に向けて

- ワーキングペーパーに、自国のクローズが入っていることを確認
- ワーキングペーパー内でクローズを合体させ、6~8個のクローズまで絞る
- 他のグループのワーキングペーパーを**google classroom**内で見て、コメントを書きこむ
※他のワーキングペーパーの内容が自国にとって不利益となるか確認、質問等の準備

模擬国連会議 2 日目

目標 決議案を作り、可決する

- ワーキングペーパーを作成したグループ内で作戦会議
- 公式討議
- 着席討議(質疑応答)
- 非着席討議
- 決議案提出
- 投票 3/4以上の賛同国で可決**

関西創価高校のMUNを通して

世界で起こっている問題を、どうすれば解決できるのか?

クラス、また学年全体で、リサーチや議論

↓

多角的な視野に立ち、情報を発信する力
リーダーシップ
国際問題を身近なものとして捉えられる

○論文・英語サマリー

GRIT 学年模擬国連で学んだこと、調べたことについて自分自身のクローズ（提言）を考え論じた。論文のタイトルは「飢餓の終息に向けた農業分野での国際協力」である。冬休みの前にループリック表を用い、各国のグループ員と相談しながら、各自立案、構成を考える。それをふまえ、冬休みを使って、論文作成を行った。

説明の際には、「NHK 国語表現」「論文作成法」の動画を参考にし、模擬国連の国別のグループに分かれ、代表者が持参した Position Paper・国別クローズ案をもとに、手元の用紙に必要事項を書き

写した。「模擬国連決議」を見ながら、国ごとに決議を実現する上で必要となる国内政策などについて話し合っ、作成した。

さらに論文の英語でのサマリー（要約）を、英語の授業を使って作成した。

○論文用ルーブリック（抜粋）

■日本語論文作成(11/19～1/14)に対する評価の観点(事前確認用)

項目	不十分な状態(1点)	やや不十分な状態(2点)	やや満足のいく状態(3点)	満足のいく状態(4点)
資料収集	インターネット資料のみを活用している。	論文・書籍を資料として活用している。	複数の論文等を活用している。	複数論文の活用に加え、インタビュー等も行っている。
論文の量	1600字を大きく下回っている。	2000字を下回っている。	2000字以上2500字程度書いている。	2500字以上書いている。
言語表現	文体が整っていない。また、引用の仕方や参考文献の書き方が適正ではない。	文体がある程度整っている。また、引用の仕方や参考文献の書き方がほぼ適正である。	文体がほぼ整っており、内容にあった表現になっている。また、引用の仕方や参考文献の書き方が適正である。	文体が整っており、内容に合った効果的で正確な表現になっている。また、引用の仕方や参考文献の書き方も完全に適正である。
論文の型	型を理解せずに書いている。	「表紙」「目次」「序論」「本論」「結論」「参考文献」の体裁が、ある程度指定通りである。内容に応じた章立てや段落分けがなされていない。	「表紙」「目次」「序論」「本論」「結論」「参考文献」の体裁が、ほぼ指定通りである。内容に応じた章立てや段落分けがなされている。	「表紙」「目次」「序論」「本論」「結論」「参考文献」の体裁が、指定通りである。論理的な構成に応じた章立てや段落分けが適切になされている。
論文の質 (論理展開) ×2	単なる感想文や、調べ学習にとどまっている。	根拠が資料に基づいておらず、論理的でない論文になっている。反論への視点もない。	適切な資料に基づく根拠を、ある程度の考察のもとに取り入れていて、結論に至るまで論理的な論文になっている。反論への視点も意識されている。	適切で豊富な資料に基づく根拠を、十分な考察のもとに取り入れて、結論に至るまで論理的で説得力のある論文である。多角的な視点や反論への視点も意識されている。
論文の質 (状況改善への意欲) ×2	課題改善に関する記述がない。	課題改善のための先例を記している。	課題改善のために、オリジナルではないが説得力のある提案がなされている。	課題改善のために独自の提案がなされている。

6 GRIT 生徒アンケートより

○GRIT で学んだこと

- ・世界に視野を向けるようになった
- ・今、日本は平和かもしれないが、世界はまだ平和じゃないし、日本が平和でないとするという考え方もあるということ
- ・世界が平和であることのすごみを感じた
- ・自分とは違う意見を持っている人がいっぱいいて、それを受け止めあって実行していくと素敵な世界になるんだろうと思った
- ・日本の高校で学んでいる今の私たち自身も世界市民であるということ
- ・日本と世界のギャップがすごい
- ・世界の問題と言われて「戦争と平和」しか思い浮かばなかった自分が、開発や人権にも興味を持てるようになりました

- ・世界で起きている問題が今までは他人事のように思っているところがあったけれど、それを解決していかなくやならないのは私たちだと思うようになった
- ・入学前と現在では世界の問題に対する知識量の差が全然違い、将来世界の問題に少しでもかかわって改善していきたいと思いました。
- ・世界は広いけど、近くに感じていたい、感じないといけないのだと思った。同じ人間がという意味でも、利害という意味でも、外国の事情へと目を向けさせてもらった。
- ・自分たちにできることは何かを考えるようになった
- ・まだまだ世界中の人々が視野を広げ、人任せでなくみなでいい社会をつくりあげなければ

意味がないのだと思った。

○後輩へのアドバイス

- ・GRITに関する本なんでもいいので一冊読んでほしい
- ・GRIT リーダーした方が成長できる
- ・あまり固いものにとらえず、楽しんで積極的に取り組んでほしい
- ・グローバルキャンプ行った方が絶対にいい
- ・GRIT リーダーをする友達が毎回変わると参加しやすい
- ・学園のなかにもいろんな考え方の人がいます。
- ・興味のないことでも耳を傾けて理解しようとすることで自身の成長につながる
- ・初めてのスタイルの授業だと思うので、初めはとまどうかもしれません。ですが、成長できるので積極的に参加してください。
- ・しっかりと考えていかないと理解できないです。
- ・ニュースを日ごろから見る方がいい
- ・わからなくても自分の意見を持とう
- ・あたえられてるだけではこなすだけになってしまう。自分で興味をもっていこう。

(2年生)

○大学教授からのアドバイスをまとめてください。

- ・実体験を紹介しよう
- ・アンケートの結果をのべるときは、まずは事実を伝えること
- ・さまざまな視点からみてみよう
- ・意見を押し付けない
- ・もっと詳細に調べる
- ・自分たちにできる対策を考えよう(具体的に・現実的に)
- ・身近な問題からきていることを考えよう
- ・スライド(原稿との関係・順序・見やすく・端的に・写真・グラフ)
- ・データ(新しさ・出所の明示、信頼性・的確さ・客観性)
- ・テーマとの関連あることを伝えるように

- ・相手をひきつけよう・面白み
- ・質問を想定しておこう
- ・なぜ?を考えよう
- ・テーマを決めた理由を明確にしよう
- ・焦点を明確にしよう
- ・対になる関係を考えよう
- ・世界に興味を
- ・参考文献(出所・真偽の確認)
- ・しゃべり方(視線・間・原稿を見ない・問いかけから入る・声の大きさ)
- ・初めての人にもわかるような説明
- ・意見と事実の分離
- ・対話以外にできること

○後輩にアドバイス

- ・①参考文献を必ず記入 ②相手(聞き手)の立場に立ってプレゼン作りを③良いプレゼンの技術はドンドン吸収して下さい。PowerPointは、文字と枚数は少なめの方が相手に伝わりやすいと思う
- ・あまり長く原稿を作ればいいのかというものでもない。
- ・いろんな視点から考えること。
- ・インタビュー等をすれば説得力などが増
- ・タイムマネジメントがんばろう。
- ・テーマ決めをしっかりとしないと、ぶれてしまうので、一番始めの、テーマをしっかりと考えたほうがいいと思う
- ・なるべく原稿を見ないで話せるととてもよいと思う
- ・ネットで調べた物を鵜呑みにしない
- ・プレゼン作成前に綿密に展開を練ること
- ・プレゼン発表にあたり、チーム全体で団結し協力・しあうことは大切だと思いました。
- ・マスコミ参考にしないでください
- ・まず最初に自分たちの伝えたいことを明確にしてから調べていく。
- ・やってるうちは大変なことの方が多く、めんどくさいと思うこともあると思うが、カッコつけずに必死でやれば、終わった後に自分の自信にもつながるので、しっかりと取り組んで

ほしい。

- ・やるなら徹底的にやる方が面白い！！
- ・一つ一つの調べることはなぜ調べているかなどが大事だと思った。
- ・何回も発表の場はあるから、いっぱい工夫して失敗とかも繰り返しながら改善していつてください！！
- ・協力して、難しく考えないこと
- ・根拠をはっきりと
- ・最終的にはプレゼンの表現力が一番大事だと思います。
- ・作業できる時間が少ないので、てきぱきするようにしてください
- ・自分が興味ないこと調べる方が面白い
- ・自分で自分の発表に質問して、足りないところがないか、本当に主張とまとめが繋がっているのかを最後まで調べていくといいと思います。「人の発表をしっかりと聞く」ことが大事だと思います。
- ・質問があるのでよく調べといた方がいい！
- ・出来たプレゼンを自分で見直して、少しでも疑問に思ったことは調べる。
- ・人に伝えるということを意識して頑張ってください
- ・世界の問題の説明より自分たちの考えを言うべき
- ・最後の方にやる気を出しても、時間がないから、やるなら初めから本気で！でも、やってるうちに楽しくなっちゃうから、皆初めから本気で！"
- ・内容も大事かもやけど、できるだけ原稿みない、滑舌、声色とかのプレゼンテーションスキルがけっこう大事なかなと思う
- ・分かりにくいことを分かりにくく、真面目にプレゼンするのは誰でもできる。そこをどうやって相手が興味を持てるよう、プレゼンを進められるかが大事だと思う。世界のこととか大きな視点で見ることも大事だけど、身近なことでも他の人が思い付かないことを提示することで、おもしろくなると思う。
- ・聞いてて飽きない、魅力のある発表内容と発

表態度でプレゼンしてほしいです

(3年生)

○模擬国連のアドバイス

- ・1つの国に関して深く調べて学ぶと何かと自分のためになる
- ・頭を柔軟にして、自分と違う意見を一度受けいれたらよい案ができると思う
- ・下調べが大切、その国の問題点をグループでしっかり話し合おう
- ・自国だけでなく、周辺国も考えていくとたくさん意見が出せる
- ・相手のことを尊重しながら話をすると、うまくいくと思います。
- ・自国の意見を統一しておくことが大切
- ・わからないのは当たり前。「わからない」からやめてしまうのではなく、「もっと知りたい」に変えていくことが賢い。
- ・自国の状況を調べたあとに、自国の抱える課題が何なのかが特定・定義できるようになってほしい
- ・グループにいろんな人がいて、意見があわなかったり、やる気がない子がいたりしても、1人が真剣に頑張っていたら、周りも一緒になって考えてくれるようになるし、一生懸命な人に「ついていこう」と思ってもらえる
- ・その国のことを好きになってください
- ・たくさんアイデアが生まれ、決断力が問われる。2つ以上あわせるのか、切り捨てるのか、即決力が磨ける
- ・自分の意見をどれだけ明確に他の国に伝えられるか、自国によってよい方にできるように誘導していくかが大切
- ・あきらめず、絶対に自分と関係ない人と思わずに頑張してほしい。
- ・難しくても英語の文献も探そう。自分の国に誇りがもてるまで調べることが大切。
- ・とりあえずわからなければ、どこかの国と国の対話に入ってみる。そこから、自国ができること、すべきことが見えてくる。
- ・全体会前のエリアミーティング(根回し)が

大切。

○論文のアドバイス

- ・言いたいこと、自分が主張したいことをしっかり書いてほしい
- ・内容をあまり理解してないうえでまとめようとすると本当に大変
- ・論理的で現実的か考えよう
- ・まずは大まかな道筋をつくっておこう
- ・すべてのことに根拠が必要で、調べるほど自分の提言が間違っていると思うけど、しっかり意見を述べてほしい。
- ・解決策を考えても、次に問題が出てきて、調べるの繰り返しで難しい。具体的にイメージして書いていこう。
- ・根拠のないネットの情報はプレゼン等には絶対に使わないこと
- ・矛盾点がないように気をつけよう
- ・よく調べないと論文は書けないので、直前にやるのではなく、時間をかけてゆっくりとやろう
- ・まず、広い内容から入って考えること。そしてだんだん深い内容、自分の興味のあることに入っていくこと。
- ・論文作成自体初めてなので、間違いを恐れずに作っていこう。
- ・ただの感想文にならないようにしていこう

○後輩への全体的なアドバイス

- ・段々理解するのであきらめずにうけつづけてほしい
- ・GRIT で知って、少しでも興味をもったことは自分で調べる、本を読む。GRIT に感心をもてないのであれば、なぜなのか、自分にはどんなことが興味あるのかを考え、自分を見つめたり、積極的な友人に国際問題を学ぶきっかけを聞いたりしてほしい。
- ・はじめて GRIT にとりかかったときは、ディスカッションやプレゼンでいやになったこともあった。でも、3年の今になって入学前とはだいぶ世界に目を向けられる自分になっ

た。

- ・GRIT は私たちがつくりだしていくプログラムです。どんどん積極的に。
- ・1つ1つの GRIT の時間が大切だったと思う。4つのテーマのどれかを見極めて、他のテーマとの関連性も考えよう。
- ・やる気は出そうと思えばいくらでも出せる。最初は難しくても、飛び込んでみれば意外にやりやすかったりする
- ・「なんで?」とか「どうせ私なんか」とか「GRIT 必要ない」とか思う前に、真剣に取り組んでほしい。自分の興味があることに気付くし、夢が広がる。
- ・GRIT をきっかけに自分の興味をもったものをどんどん調べてみてください。より楽しくなると思います。

グローバルシチズンシップセミナー

関西創価高校では、グローバルリーダーの育成を目指して、全校生徒を対象に、国内外より講師をお招きして、グローバルシチズンシップセミナーを実施しており、2016年度は4回実施した。毎回の講演では、最後に質疑応答の時間を取る。生徒からは質問が続々と飛び出すなど、大きな触発を与える機会となっている。

【第1回 2016年4月16日 織田 友理子氏】

NPO 法人 PADM 代表（遠位型ミオパチー患者会）で、車椅子ウォーカー代表の織田友理子氏をお迎えし、「今を生ききる 難病・障害をバネに」とのテーマで講演を行って頂いた。

織田氏は、大学在学時に遠位型ミオパチーという筋力が低下する病気を発病。希少疾病のため、現在も治療法・治療薬が一切なく、進行する病気に立ち向かいながら、シンポジウム開催や署名の実施など、患者の声を届ける取り組みを続けておられる。

織田氏は、講演で生きていること自体が奇跡で、与えられた命に感謝することの大切さ、自分にできることや自分にしかできないこと、今しかできないことを見つけ、挑戦して欲しいとお話してくださった。終了後は、希望者との懇談会も行われた。



【第2回 2016年5月7日 ケビン・クレメンツ博士】

ニュージーランドのオタゴ大学教授で、オタゴ大学国立平和紛争研究所所長を務める、ケビン・クレメンツ博士と、ヴァレリー夫人をお迎えした。

「21世紀の平和を担う君たちへ 愛と勇気と希望を」と題した講演では、「愛」「勇気」「希望」が新時代の平和を築く一人一人に必要であり、この3つは、成績にも才能にも関係なく、どんな人にも持つことができることを通し、次の平和建設を生徒に託してくださった。

終了後は、ラーニングクラスターの生徒とのワークショップが行われた。異なる考えの人とどのように調和していけばよいかとの質問に対して、大事なことはまず、違いを認め合うこと、そして更に共通点から建設することと教えてくださった。



【第3回 2016年10月15日 羽賀 文湖氏】

創価大学キャリア科目講師の羽賀文湖氏をお迎えし、「未来をつくるキャリアデザイン」とのテーマで講演を行って頂いた。自分の人生を振り返り、今の自分に影響を与えた経験を挙げ、どのような力が身についたのかを考えた。そして自分が行動を決定する上で大切にしている価値基準について、ディスカッションを行った。

自分の特徴や、今までの経験を通して得たことを見つめ直す、よいきっかけとなった。



【第4回 2016年11月17日 マリア・グアハルド博士】

創価大学よりマリア・グアハルド副学長補をお迎えし、「The Future Begins Here—Great Dreams Taking Flight」とのテーマで講演を行って頂いた。自身の体験を通し、世界市民として必要な要件を提示され、今こそ英知を磨くときであると話を結ばれた。また、終了後には代表生徒との質問会を実施。

「大きな決断をするとき、何を大切にしているか？」との質問に対して、「私の人生にとって一番価値を創造できる生き方何か」と問いかけたことを通して、「勇気で決断したことには後悔がなく、またその決断が一番よかったと言えるようにすること」と教えてくださった。



(※講師の所属・役職は講演当時)

ラーニングクラスター

東京フィールドワーク実施報告

■目的 ラーニングクラスターの生徒が研究を進める 4 分野（環境・開発・人権・平和）について、1 学期間かけ学んできた地球的課題の理解や考えてきた解決のための提案を専門家へプレゼンテーションを行い、また専門家の方々とのディスカッションを通して、理解をさらに深化させるとともに、地球的課題への具体的な提案作成の準備をする研修とする。

■期間 2016 年 7 月 21 日（木）～7 月 23 日（土）

■参加者 高校 2 年生 13 名、高校 3 年生 11 名 計 24 名

■事前学習・準備

・6 グループに分かれ、国連が提唱する「持続可能な開発目標」（SDGs）よりそれぞれが探究したい目標を 1 つ定め（下図参照）、その目標に関連するグローバルイシューを 1 つ選び、全て英語で学び、現状把握に努めた。また、ディスカッションやリサーチを通し、可能な限り具体的に解決案を模索した。
・訪問先での現状と解決案のプレゼンテーションの準備を行った。

グループ	SDGs	探究課題
1	No Poverty	Child poverty in Japan
2	Zero Hunger	Food deviation: Cases of Zambia and Angola
3	Gender Equality	Promoting gender equality through school education in Japan
4	Decent Work	Child labour
5	Peace and Justice	Terrorism
6	Quality Education	Peace education on Hiroshima and Nagasaki

■行程

< 1 日目 >

7 : 3 0 に新大阪駅に集合し、7 : 5 0 の新幹線で品川駅へ移動。品川駅で 2 グループに分かれ、1 つのグループは国際連合の機関の一つであり、女性の地位向上のために活動している UN Women を訪問し、食料問題に取り組んでいる NGO 団体の Hunger Free World (HFW) を訪問。

UN Women では駐日代表である福嶋代表の前で、Gender Equality グループがジェンダーの平等と女性のエンパワーメントについて研究成果のプレゼンを披露。その後、代表とディスカッションを行い、探究に向けてのアドバイスを頂いた。福嶋代表は、「女性だけが女性のために活動するだけでは、ジェンダーの平等は達成されない。だからこそ、男性のジェンダーの平等に対する意識の向上が大事。」と何度も強調されていた。参加した生徒は、「初めて人の前でプレゼンを行って、調べるたりするだけでなく、それらを発信していくことにとても意味があると感じました。ディスカッションをする中で、今まで自分たちになかった発想や、知らず知らずのうちに自分たちの周りにも男女問題が存在することを改めて深く感じ、知ることが出来ました。」と語り、大いに学びを深めた。

一方、Hunger Free World では、Zero Hunger グループがプレゼンを行い、青少年育成担当の熊坂真輝さんよりプレゼンの内容に関するフィードバックと講義をしていただいた。講義を通じて、世界の食にまつわる現状や、HFW の活動の様子を学ぶとともに、慢性的飢餓、つまり継続的に食糧を手に入れない人々に向け、どのようなサポートをする必要があり、できるのかを考えさ

せられる内容だった。参加した生徒は、「私達のグループは飢餓問題で苦しんでいるザンビアと飢餓問題を解決しつつあるアンゴラを通して、食糧偏差について調べ、プレゼンを行いました。熊坂さんからのフィードバックや講義から、私たちのリサーチで目につけていなかった観点を発見し、自分達のリサーチの新たな目標を見つけることが出来ました。」と語り、更なる課題を発見することができた。

午後からは国連大学を訪問し、近藤哲生 UNDP 駐日代表と田口晶子 ILO 駐日代表とセッションを行った。近藤代表は国連の3つの目標（平和、開発、人権）、基本的価値観（整合性、プロ意識、多様性の尊重）に関してのことや UNDP の歴史や活動などに関して講義をされ、2000年に発表されたミレニアム開発目標（MDGs）が「人間の安全保障」に基づいて発案されたこと、また、サハラ砂漠より南のアフリカ地域では望んでいた結果が出なかったことや妊産婦の健康改善に関しても同じく結果が出なかったこと、昨年2015年に発表された持続可能な開発目標（SDGs）には、これまで注目されてこなかったことも新たに加えられたということに言及。その話に生徒からは「実際に、世界平和の実現のために最前線で戦われている近藤代表の、このようなたくさんの貴重なお話を聞かせて頂いたことは、私たちがこれからリサーチを進めていくにあたってかけがえのない財産になりました。」とコメントした。

また、ILOの駐日代表の田口晶子さんへは、まず Decent Work グループがプレゼンを行い、フィードバックをいただいた。その後、ILO の歴史や方針、世界の失業率など、ディーセントワークに関するさまざまな問題や課題について講義をしてくださり、多くの発展途上国では若者が働いているのに貧困に苦しんでいるという現状があり、この理由として、内的な要因である性別による格差や非正規労働者の賃金が低いというような様々なことが問題になっていると語られた。Decent Work グループの生徒は、「私達が問題点として挙げた労働者の持っている技術と要求される技術との不一致については深刻な問題ではなく、会社に入ってからそのような技術を鍛えることが大切ということをお教えました。講義を通して、仕事の質に関する問題は外的要因と内的要因が相互に作用しあって引き起こされており、それらは国によって異なることを学びました。だから、これからの学習ではより深く様々な方向から考え、全ての人が働きがいのある人間らしい仕事を獲得できるような方向を探求していきます。」と新たな方向性を見つけ出すことができた。

< 2日目 >

2 日目は市ヶ谷にある JICA を訪問し、ワークショップに参加。5 つのグループに分かれ、カカオ栽培の経営者や労働者、日本のチョコレート会社社長などの役になりきり、経済的損得から、チョコレート生産がいかに不平等に行われているのかを体験的に学習。生徒からは「カカオの収穫は児童労働により安定しており、生産国の子ども達の未来を奪っている事実を知り、先進国の私達に解決義務があると感じました。また、知識だけでなく実際に体験することの重要性を実感しました。」と熱意あるコメントが聞かれた。

午後からは創価大学に移動し、それぞれのリサーチグループ毎に教授と少人数でのセッションを行いました。各セッションでは、まず生徒からプレゼンを行い、それに対するフィードバック、その後、担当教授とディスカッション形式で学びを深めた。事前に担当教授の方々は参考資料や改善すべき点のまとめなどを準備してくださっており、話の内容は非常に深いところまで達し、用意されていた1時間では足りず、延長するグループが続出した。

例えば、Gender Equality グループを担当された坂本辰郎教授は生徒のプレゼンに対し、女性の内面的力の開花という点において、「では男性の内面的力の開花は？」と質問され、男女平等な社会を作るためには女性だけでなく男性の力も大切だという点を指摘。生徒からは「この問題を根本から解決

するには、男性の意識の改革も欠かせないという新たな視点を得ることができました。」との感想が寄せられた。

17:00からは前国際教養学部学部長のマリア副学長補の講義を拝受。現在はデンバー大学の理事もされているマリア副学長補の講義は座学ではなく、他のグループとディスカッションをするアクティブラーニングの形で行われた。このアクティビティを通し、自分たちの要求と相手の要求を同時に満たすことの難しさや、それを叶えるためにグループ（協定）を作ったりしてうまく取り入れることの重要性を学び、これが実際に世界のあらゆる国と国との間で行われていることを知り、改めて外交の難しさを学んだ。生徒は「国際化は良い、悪い関係なくそこにあり必要不可欠であること、さらにその為には信頼、創造性、コミュニケーションなど、人と人との間で大切なことが重要であるといった、新しい発想も学ぶことができました。」と感想を述べた。

< 3日目 >

午前中を学習のまとめの時間に充て、午後の新幹線で新大阪駅と帰阪し、解散した。

■東京フィールドワークを終えて（生徒談）

私達はこの3日間、先生方の事前の準備と協力のもと多くの国際機関、組織を訪問させていただきました。このフィールドワークを通し学んだことが2つあります。

1つめは、「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことをしない」ことが、いかに難しいことであるかということ。レクチャーを受ける中で、今、この時でさえ 誰かの不幸の上に私達の生活の安定が成り立っていることを痛感させられました。更に、私達の多くはそのことに気付かず生活をしているのです。私達にはこの格差を解決する義務があると感じました。

2つめは、「Youth」である私達「青年」が、世界平和実現の可能性を信じることからすでに世界平和は実現の方向へ向かっているということ。私達は、時に、世界的課題とは、とてつもなく大きく、解決するのに一体どれだけの時間を要するのかと疑問に思う時があります。しかし、今回の研修で、本当に沢山の人が世界的課題の解決に取り組んでいる事を実感し、また皆さんが世界平和実現の可能性に確信をもち働いていらっしゃいました。

色んな講師の方が、若者は想像力、また創造力豊かであり、皆がこの力を使い新たな解決策を作っていく余地がある、と教えてくださいました。そして何よりも創立者池田先生は青年に期待を寄せ、青年の力を誰よりも信じて待って下さっています。

3日間、お世話になった学園の先生方、各機関、各組織、大学、講師の方々、そして池田先生、奥様に感謝申しあげます。ありがとうございました。

東京フィールドワーク

7月21日～23日まで、抽選で選ばれた20名で東京でのフィールドワークを行い、JICA、国連開発計画（国連大学）、創価大学、国会、外務省などを訪問した。

1 事前準備

事前準備として、20名を5グループにわけ、「国連人道サミット」「国連開発計画」「JICA」「SDGs」「外務省」を調べた。その内容をジグソー法で4グループの中での発表を行った。さらに、一人ずつのテーマを設け、調べたいことを考えた。

2 7月21日（1日目）

ここからは生徒の報告をもとに、毎日を振り返っていく。

（JICA）

JICA地球ひろばを訪問し、職員の北島さんによるプレゼンテーションが行われた。また、昼食は世界のランチを食べ、さらに展示の見学の研修を行った。

「私たちはJICAを訪問し、JICAの北島さんが私たちにプレゼンを行ってくださいました。プレゼンの中で、JICAの行う国際協力を魚釣りの話の例を通して、途上国の人々自らの手による努力を支援すること、すなわち自助努力支援であるとの話をされていました。また北島さん自身も青年海外協力隊としてエチオピアに体育教員として行かれた話もしてくださいました。」

「JICAの北島さんが私たちにプレゼンを行ってくださいました。プレゼンの中でJICAの行う協力を魚釣りの名人の話の例を通して、途上国の人々自らの手による努力を支援すること、すなわち自助努力支援であるとの話をされていました。また北島さん自身も青年海外協力隊としてエチオピアに体育教員として行かれた話もしていただきました。」

「JICA地球ひろばのたくさんの展示がある会場では様々な世界中の問題、例えば貧困や学校に行けない子供たちのこと、発展途上国においての女性差別問題をクイズやゲーム形式で楽しく学べる展示がありました。クイズラリーのように、会場をまわっていく中で、楽しみながらも真剣に世界中の様々な問題と向き合うことができました。」

「研修後の昼食は主に世界の料理のランチでした。バターカレーやクスクスといった食べたことのない料理でしたが、新感覚で食べやすく、とてもおいしい料理でした。また、この昼食でフィールドワークの仲間たちと友情を育むことができました。」

（国連開発計画（国連大学））

移動し、国連大学にある国連開発計画を訪問、近藤代表による講義や国連大学のライブラリーのツアーを行った。

「UNDPとは、いい国を作るための手伝いをする国連の機関で、このUNDPについて講義してくれました。目標をたてて貧困層を半分以下にしたり、民間企業と協力して新たなビジネスモデルを作ったりしているそうです。」

「国連開発計画（United Nation Development Program）では、開発途上国の方に技術を教え、実際に行動を起こすことができるように支援を行います。また、その国の可能性を引き出して、開発によってよい連鎖と価値の連鎖を生むために活動しています。」

（UNDPの魅力とは？）

もともと外務省に努められていた近藤哲夫駐日大使は語ってくださいました。『国連の方が、JICA・外務省に比べて忠実に働くことができる。また、紛争国や発展途上国、貧しい人に寄り添える、現場で実際に肌身に感じながら活動できることが素晴らしい』と。

（今後のUNDP）特に女性のエンパワーメントを中心に考えられているようです。」

「1975年国連大学が始まる 国連総会の記録が1946年からあり、公式記録は9巻までである。公用語は英語とフランス語。国連大学は14か国にある。英語中心の本。電子書籍は7万冊あり、メリットは海外にある研究所を借りることができること。」

あることを知りたいと思ったとき、この本にその情報が正しく載っているとは限らないから、関連する本を選び、その情報源が正しいのか見極めることが大事だと教えていただきました。」

(創価大学)

夜は宿泊先である創価大学において、G C P (グローバルシチズンシッププログラム) で学ぶ本校卒業生と懇談を行った。

「夜には創価大学で、関西学園の卒業生である G C P の卒業生にお話を伺いました。質疑応答形式で G C P のほかにも学園生時代や留学について、また、専攻している経済学についてなど、貴重なお話をおききすることができました。」

「G C P とは学部横断型で看護、国際教養以外の学生によって、2年間は英語を徹して学ぶ授業でプレゼンや統計学を学ぶ。3年次に自分が行きたいと思った国に留学ができる。」

G C P に入る前、自分の将来の夢が明確ではなかったが、G C P でやりたいことを見つけられ、国語の教師を目指している。G C P で英語力を身に着けたことで、格段と視野が広がったといわれた。」

3 7月22日(2日目)

(創価大学)

創価大学、看護学部佐々木諭教授、山口寿男客員教授による講義が行われた。

「ボスニアやザンビアなどで従事されてきた経験から国際保健について教えていただきました。保健・医療サービスの整っていない国では、自分たちの健康は自分たちで守る「住民参加」型のサービスを実施していると知りました。また、難民については「自国に帰ること」がゴールと知り、そのためには政治的・治安的に安定した国づくりが必要と学びました。」

「佐々木先生が実際に訪れられたボスニアとルワンダの国の現状やN G Oでの活動を通して、現地の今の状況や貧困の深刻さを身に染みて知ることができ、貧困地域には先進国の技術を教えることが一番大切だということを学びました。」

「創価大学1期生で、外務省に入られた山口先生にお話を伺いました。まずは創大1期生として、たくさんのお話を聞くことができました。外務省時代のイラク大使をしていたときの最前線のお話もしていただきました。」

(国会)

国会に移動し、参議院の杉久武議員との懇談会と議事堂見学をした。

(外務省)

外務省の見学と、国際会議室でS D G sについて対応された職員の伊藤さんのお話をきかせていただいた。

「私は事前学習で外務省について調べましたが、改めていかにすごい職業か感じることができました。みんなのやりたいをサポートするために、日本と世界の平和を守る仕事をしているというのに、すごく感心しました。国と国の外交を担当するだけでなく、日本の利益を守り、日本人の保護もおこなっていると知り驚きました。」

「(S D G s とは) 持続可能な開発目標の事ですべての国を対象とした国際社会全体の目標です。17の目標とそれに属する169のターゲットで構成されています。1から6までの目標はM D G s をより大きな目標にしたもので7から17までの目標は新たに設定された目標です。外務省の伊藤さんのお話では16の目標が最も難しいとおっしゃっていました。目標達成のゴールは今も討議されています。」

4 7月23日(3日目)

(平和記念展示資料館)

3日目は新宿にある平和記念展示資料館を訪問、展示を説明していただき見学を行った。

「平和記念展示資料館では主に兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の3つの労苦について展示されていました。シベリア抑留などの今まで詳しく知らなかったことが学べ、平和への思いが高まりました。」

(戸田記念国際会館)

最後に、戸田記念国際会館に移動し、世界人道サミットの際に展示活動などを行ったS G I の浅井さんのお話を聞かせていただいた。

「戸田記念国際会館では、世界人道サミットについて、いつ、どこで、何のためにサミットが行われたのか。また、当日になるまでの準備期間の活動や背景についても詳しく教えていただきました。その中でも SGI は、取り組みの一つとして人道展「人間の復興」という展示会を開き、多くの団体と協力して、高い評価を得ました。他の宗教団体や NPO とは違って、地域や 1 人 1 人をベースに活動を行っていることに感銘しました。」

5 生徒レポート

現在、世界が置かれている開発問題を見据え、国際貢献のために将来自分に何ができるのか・何をすべきなのかを探究する。

1 年 3 組 10 番 田中義幸

1. テーマに関しての具体的な説明、理由

貧国地域で人々が、平和で最低限の生活を送ることが出来るようになるまでには、まだまだ解決しなければならない課題がたくさんある。例えば、水や食料の不足、難民問題、衛生環境の問題などがあげられる。

今回のフィールドワークに参加するにあたり、こういった開発問題をメインにこれらの諸問題を見定め、この機会を通して、世界が何を求めているのか、その求めに対して自分がどのように問題解決に関わって取り組んでいくことができるのかを考えたいと思い、このテーマを設定した。

2. 行く前に知っていたテーマに関する知識

貧国地域での課題を事前学習で調べていく中で、難民問題が大きな割合を占めていると感じた。

難民問題は開発問題に隣接しており、近年特に注目を浴びている。

難民問題を解決することによって、難民をかかえている国は頻発する紛争を減らすことができ、治安を安定させることが出来ると考えられる。

また、昔から一般的に知られる開発に関わる問題として環境問題がある。

開発途上国が発展するためには産業を興し、国の利益となるものを生産しなければならない。外国との貿易や国内での商品・サービスの売買などが増えて経済が潤う。

しかし、経済の発展する過程では公害という困難に見舞われる。日本も 1960 年代から 70 年代にかけて公害が多発し、その影響で計り知れない数の生命が奪われたり公害病の後遺症で苦しむ患者が多発したという悲しい歴史的事実がある。

近年では中国が同じように公害問題を抱え、日本にも毎年のように光化学スモッグがおこるなどの被害をもたらしている。

この問題を解決するためには、公害問題に苦しむ国が自ら努力するだけでなく、日本を含めて先進諸国や国際機関が資金や技術面での支援をすることが必要となってくる。

3. フィールドワークで聞こう、学ぼうと思っていたこと

・ JICA (北島さん)

自分の希望した国に行かれたのか。エチオピアに渡って感じたこと。

・ 国連大学・国連開発計画 (近藤さん)

UNDP として実際にした行動は何なのか。持続可能という言葉の意味。

・ 国会 (杉さん)

高校生がさらに国政に関心を持ち、世間に混在している間違った情報と正しい真実とを見極めていくためにはどうすれば良いのか。

・ 外務省 (伊藤さん)

必要とされる外交政策の例。世界津波の日がなぜ 11 月 5 日なのか。

・ 創価大学 (GCP 生の方)

なぜ GCP に入ろうと思われたのか。GCP に参加してメリットになったこと。

・ 創価大学 (講義/佐々木先生、山口先生)

発展途上国に安全な水を供給するための方法。IS と難民問題の繋がり。

・ 戸田記念国際会館・世界人道サミット (浅井さん、森本さん)

サミットが開催されるまでの背景。参加された難民の方々がサミットで行ったこと。

4. テーマに関して、現地で聞いてみようと思ったこと、見ようと思っていたこと

JICA や平和記念展示資料館を訪問するにあたり、展示物から貧しい生活をしている人たちの願いや希望というものを感じ取りたいと思った。

また、国会を見学するにあたり、日本が国際社会に寄与する取り組みとともに、どのような場所で国内の発展のための政治を行っているのかを見ようと心掛けた。

テーマの内容を直接聞くことはしなかったが、中東アジア地域周辺での水不足やまだまだ未整備のインフラの現状を見て、どうすることがその地域を豊かにすることに繋がるのか聞いてみようと思った。

さらには、実際に途上国で活動された実績のある方々のお話を伺って、国際貢献とはどのようなものだと考えておられるのか聞いてみようと思った。

5. フィールドワークで聞いたこと、学んだこと、そこから提案できること

JICA：世界の人口（約 73 億人）のうち 60 億人以上の人（約 8 割）は開発途上国に住んでいると聞いた。また、その中のほとんどは若者だということも知った。言い換えれば貧困に苦しむ人たちの多くが若者だということだ。

このことから教育制度を改革し、さらに促進していくべきだと思う。確固たる教育環境が築かれれば、教育を受けた若者が将来政治的にその国をリードしていく指導者、又は病気で苦しむ人々を助ける医師となり、国の発展に寄与してくれると考えられる。

また、井戸を掘ったり道路や橋を架ける技術者や学校の先生など、途上国を支えるあらゆる職業の人たちの能力が向上して、国を発展させてくれるだろう。

教育を受けない若者は、単純な労働をするぐらいしかないが、たとえば農業に従事して作物をつくるにしても、単に作物をつくるだけでなく収穫量を上げる技術や作物を害虫の被害から守る農業の知識などを身につけることによって、収穫量が増え、栄養価が高い作物がとれるようになる。質と量の向上や生産性の向上のためにも、教育を受ける機会を増やすことは重要だと思う。

国連大学：チャドなどでは女性が胎児を生むだけで亡くなってしまうというケースが数多くある。このことを妊産婦死亡といい、アフリカなどの貧国では妊産婦死亡率の高さが重大な問題と化している。

その理由としては、医者が少ない、教育が良くない、紛争や内戦が相次いで発生しているなどがあげられる。また、早期婚する女性が多く、結婚したら学校をやめて家事をしたりする。そのため女性の社会進出がばまれ、女性は育児・家事などの家庭内労働者としてしか見なされないケースが多い。

女性が教育を受ける機会が少ない家庭は「女は家事や育児をやっていればよい。学校なんかに行く必要はない」というような考え方をする親が増える。その親はまた子供たちが教育を受ける機会を奪う、というように、親から子へ教育の機会を奪う連鎖が起こる。

その結果、女性の人権侵害がおこり、基本的人権が脅かされつつある。このような負の連鎖を止めるためにも、教育を受ける機会の増加と共に、女性のエンパワーメント（内発的な力の開花）を促進していくための新しい法律を確立していくことが必要であると確信する。

創価大学講義[佐々木先生]：ザイール（現在のコンゴ）の難民キャンプでは穴を掘っただけの原始的なトイレを使っており、難民キャンプで生活する人たちはとても不衛生な状況で生活を営んでいる。

このような不衛生な環境が原因で子供たちは、下痢や栄養失調、マラリアや麻疹といった病気にかかっている。これらの病気は、衛生状態の改善によって予防出来るものであると分かっているが、それでも現実には改善されていない。

自分は、衛生状態の改善には上下水道の整備が大切なのではないかと考えた。トイレが不衛生な状態から改善されることはとても大事であるが、それと共に、できるだけそのまま飲めるような、細菌の入っていない飲み水を確保することが大事だと思ったので「安全な水を供給するためにはどうすれば良いか」と質問した。この質問に答えてくださったことがすごく嬉しく興味深かった。

講師の先生が教えてくださった回答によれば、難民の生活を向上させるために必要となる基本は、誰でも考えるように、まず彼らに技術やシステムを伝えるということ。しかしただ伝えるだけでなく、なぜそれが必要なのか、その技術やシステムがあることによって、どのようなメリットが自分たちにもたらされるのかを理解してもらうことが大事なのだそうだ。

たとえば、日本から技術指導に行って貧国に水道を作るとする。水道が開通してよかったよかったと喜んで帰国するが、数年後に見に行ってみると、水道が使われていない。汚い井戸から水をくんで生活し病気が蔓延する生活に戻っている。こんな不思議な話が実際にあるそうだ。

だから、水道というハードを作るだけでなく、その水道を使うことによって生活がどのように変わり、衛生状態が向上して病気にかかりにくくなるのか、というソフト面を教えて教育し、現地の人たちが水道を使

いこなせるようになるまで面倒を見てあげるところまでやって、はじめて技術指導が完結する。

失敗した過去の事柄から、技術指導しに行く側は教育を受けていない貧国の人たちでも分かるくらい丁寧に指導して理解を得た上で、後世に残るように目に見える形で技術を残していくことが肝心なのではないか。

創価大学講義[山口先生]：2006年7月～2007年3月。この時期に、イラクのバグダットで武力衝突があった。銃弾は空気を切り裂く乾いた音を立て、爆弾は煙を出したり雲をつくった。日本からは自衛隊が派遣され、武器を装備しながら人道支援の活動をおこなった。

このとき、山口先生は外交官として現場に行き、情報を集めていた。日本は英国や米国に嫌がられないようにタイミングを計って立ち退こうとした（出口戦略）。当時の首相、小泉純一郎は反対も多い中でこの政策をとった。最終的には成功し、これを機に日米の関係はより強固になった。

また、国際情勢についても教えていただいた。先日イギリスがEUを脱退し、テロがヨーロッパやアメリカで相次いでいる。その背景は、イラク問題から考えていくと分かりやすい。民主化した武装勢力が混在していた中で、民族や思想の違いから争いが生まれた。イスラム国（IS）が事件を起こすとイラク・シリアなどから逃げようとする人々が出てくる。

亡命した人々はヨルダンやトルコへ難民として移住する。しかし移住した先で安定した食料や水を得られず困難な状況に陥った場合、先進国に第三定住しようとまた移動を開始するが、外国人嫌悪（ゼノフォビア）の国はそれを受け入れない。それが近年でいうイギリスである。

もし自分が日本国政府に意見できるならば、中東地域の様子を見て恐れるのは分かるが、国際社会に投資する資金をもう少し難民の受け入れにまわして、難民問題に協力的になっても良いのではないかとやりたい。

外務省：SDGsは3～4年かけて交渉されたのち採択された。採択された2015年9月当日はニューヨーク全体が祝して建物やカフェの看板、Googleがデコレーションされた。そのような中でイギリスがEUを離脱し、会議では金融の不透明さが表れた。

アジア欧州会合(ASEM)の外交政策では開発協力、所得の低い国の女性の地位を向上させることなどが確認された。貧困区では治安が悪化しやすく、お金を所持していると思われ、宗教的考えからテロが発生しやすくなる。国際機関が財政的に裕福であればそれを未然に防ぐことも可能であるかもしれないが、実際それだけの資金はない。

日本は現時点で、国際機関に多額の投融資をしていると聞いた。

金銭面で考えると、これ以上はどうすることも出来ないかもしれないが、創立者池田先生がおっしゃるように対話で平和の波を広げていくことは出来るはずである。

これは日本に限らず世界中どの国でも実行できると感じる。

国会：現在の国会議事堂は昭和11年（1936年）に建てられた。中央塔から向かって左側が衆議院、右側が参議院と左右対象になっている。

参議院第一会議室は、昨年の安全保障関連法案の際に議会在荒れてマスメディアにも取り上げられた有名な場所である。

参議院本会議場では参議院本会議が行われ、議員全員が出席し、議院の意思が決定される。

御休所は天皇陛下が国会の開会式当日などにお入りになられる場所である。御休所製作経費は当時の総予算の1割が投入されており、入り口の大きな石は大理石の一枚板を丁寧にくり抜いて造られている。

中央広間は中央塔の真下にあり、天井まで約32メートルで吹き抜けになっている。これは奈良法隆寺の五重塔がすっぽり入る大きさである。また、日本国の議会制度の基礎をつくった3人の政治家「大隈重信、板垣退助、伊藤博文」の銅像と、銅像のない台座が1つある。政治は常に理想を追求すべきであり、まだまだ道半ばということ、それとともに銅像になっている3人を超える政治家が出てくることを期待して台座があげられているようだ。

平和祈念展示資料館：戦時中・戦後、幾多の激闘を乗り越えた体験者の証言と労苦を感じさせる写真付きパネルが何枚も展示されていた。「兵士」「戦後強制抑留者」「海外からの引揚者」と大きく3つに関連する事柄が描かれていた。戦争が始まった初期は20歳男子を中心に徴兵が行われていたが、後期になると40代（当時の高齢者）までもが戦場へ行くこととなった。赤紙を「おめでとうございます」と渡されると家族を残し、国のために戦う義務を課せられた。家族は、千人針の日の丸といったお守りを作り、泣く泣く見送った。

戦後になると、戦場に残された人々や移り住んだ人々は57万5000人にまで及んだ。その人達は、シベリアなどの酷寒の地で乏しい食糧で生活していた上に、強制労働まで強いられていた。また、暖かい毛皮を売ってまでしないと食料不足で餓死してしまうほどだった。

資料館の方から伺った話によれば、約355万人が海外に取り残され、最終日本に生還できたのは約320万

人。栄養失調で女性や子供が苦しんだという。飯を貰っても嬉しい顔をする余裕もなく、子供は皆やせ細っていた。

現在、日本の生活水準は世界的に見てとても裕福である。戦時中の生活を思えば、毎日三食ご飯を残さず食べることは当たり前なのではないだろうか。さらに感謝していく必要があると思う。

戸田記念国際会館：本年 5 月 23 日・24 日にトルコのイスタンブールで史上初となった世界人道サミットが開催された。準備は 3 年前から開始された。当日は世界中から約 9000 人が集まり、国際機関や NGO 関係者、難民や避難民など人道危機の影響を受けている人々が参加した。SGI も招待され、「人間の復興」と題して人道展をしたり、ワークショップでは熊本地震の報告をしたりした。SGI の地域をベースとした活動、人対人の対話などが評価され、マーシー・マレーシアという NGO のジェミラ マフムード元代表も訪れた。

サミット自体は『長期化した人道危機のなかで、どのようにすれば一人でも多くの人を救っていけるのか』ということを中心に議論が進められた。コミットメント（公約）の表明を促した場でもあった。いくつかコミットメントは発表されたが、難民の発生地、起源となっている元々の国が会議に来ていないことが問題視された。次は 9 月の国連総会に向けて準備が進められるそうだ。

しかし、宗教や民族に関係なく議論できるのは良いことであり、そのような場が設定できたこと自体が大きな前進だろう。今後も継続してサミットを開き、世界全体を通じて同じ目標を決めていくことが問題解決に繋がると思われる。このような機会をさらに設けて平和を推進していくべきだと提案したい。

6. 自分が思っていたことが正しかったか、間違っていたか、自分の今後についての意見

テレビのニュースなどを見ると、難民や貧困という言葉をよく耳にする。カカオ農園で働いていてもチョコレートを食べることができないガーナの子供達、1 つ 15 円のサッカーボールを 1 日に 2〜3 個売って生きているパキスタンやインドのストリートチルドレン。悲しそうにしている映像を見ると自然と悲しみに同調してしまう。だから、生きることを幸せに感じていない人々が多いのだと思い込んでいた。

しかし JICA や国連大学で伺った話によれば、開発途上国は着実に発展し続けていて、何もないのに大人までもがなぜか笑っているという。このような現実には、自分が想像していたのとは全然違っていった。

本当の幸せ・幸福とは、お金や資源があって豊かに暮らせるということだけではなく「今いる環境で精一杯生きていけること」が本来の意味なのではないかと思った。人間は相互に依存し合わねば生きていけない。だからこそ将来は困っている人の支えになっていきたい。また、苦しむ人を救っていきたい。

7. フィールドワーク、全体の感想

事前学習から念を入れていろいろ調べていたので、難しい講義も割にすんなり理解できました。東京都内での歩行距離が長かったので結構疲れましたが、とても有意義な三日間でした。

また、開発・国際貢献の分野に興味を持てた最高の機会となりました。この切っ掛けを与えて下さった方々、フィールドワーク中お世話になった全ての方々に対して感謝の気持ちが尽きません。

今回新しく知ったことを忘れないように、自分が学んだことのすべてを周りの人たちに伝え広めてまいります。

難民問題をはじめ、深刻な現実問題の数々を知って衝撃も受けましたが、これらの問題の中のたった 1 つであっても、何か問題解決に貢献していきたいと決意できました。

本当にありがとうございました！

2016 年広島フィールドワーク実施報告

- 目的 オバマ大統領の広島訪問が実現し、核廃絶への機運が高まる中、被爆 71 年となる広島を訪れ、広島女学院主催の Peace Forum に参加し、核兵器廃絶について、ハワイ、沖縄、広島から集った高校生たちと共に考え、友好の輪を広げる研修にする。また、先発隊はかつて日本軍の毒ガス製造の場であった大久野島に、後発隊はユダヤ人を中心とした大量虐殺「ホロコースト」に関して展示されているホロコースト記念館を訪れ、非人道的な歴史を学び、平和実現の為に自分たちができる事を考える研修にする。そして最終的には反核・反戦の強い精神を持ち、その精神を周囲に広げていくためのフィールドワークとする。

- 期間 先発隊：2016 年 8 月 5 日(金)～8 月 7 日(日)
後発隊：2016 年 8 月 6 日(土)～8 月 8 日(月)

- 参加者 先発隊：高校 1 年生 5 名、高校 2 年生 2 名、高校 3 年生 3 名 計 10 名
後発隊：高校 1 年生 7 名、高校 2 年生 4 名、高校 3 年生 3 名 計 14 名

■ 事前学習

- 共通**
- ・ DVD「ヒロシマナガサキ」を視聴。
 - ・ 全校生徒での千羽鶴作成・核廃絶の署名。
 - ・ 関西創価中学生を対象とした学園内での署名活動。
 - ・ 河内磐船駅付近やイズミヤ交野店前での署名活動。
 - ・ NPT について調査し、問題点とその解決策に関するプレゼンを作成。
 - ・ 広島の前爆で被爆したアメリカ人捕虜に関する DVD を鑑賞。

先発隊 ・ 大久野島の歴史などについての資料学習

後発隊 ・ ホロコーストの歴史学習。
・ アンネ・フランクの一生についての DVD を視聴。
(ホロコースト記念館より貸出)



千羽鶴の作成



核廃絶の署名活動

■ 行程

8月5日(金)

【先発隊：新大阪駅】 7 時 40 分頃に全員集合し、先発隊リーダー二人による決意発表の後、新幹線に乗り込んだ。9 時 34 分に福山駅に到着。忠海港へ向かうため、バスに乗り込む。

【先発隊：大久野島】

忠海港から大久野島行きのフェリーに乗って、大久野島に向かった。到着後、島内の毒ガス資料館を見学した。資料館内の会議室で、毒ガス製造に関するDVDを鑑賞し、その後に展示を見学した。

軍馬用の防護服や、当時毒ガスの製造所で働いていた方々の証言集などが展示されており、毒ガスの悲惨さを身をもって体験できるようにとの配慮されていた。

資料館を見学後、行動班に分かれて昼食をとり、島内の遺構を見学した。全員がレンタサイクルを利用し、遺構を順に見学した。遺構の中には、立ち入り禁止のものもあり、毒ガスの悲惨さを現代でも実感できた。

他方、島内には数百匹のウサギがおり、餌を持つと跳ねて近寄ってくる姿はとても愛らしかった。最後に全員で記念写真を撮り、フェリーで島を後にした。

【先発隊：碑めぐり】

忠海港から、バスに乗り広島市内のホテル法華クラブ広島に向かった。

ホテルに荷物を預けた後、平和記念資料館へ向かい、広島女学院の学生と合流。二班に別れ、女学院の学生と平和公園内の碑を巡り、碑についての説明を受けた。

韓国人の原爆犠牲者の碑や、生存者がいた爆心地近くの建物の地下室、爆心地の碑など10前後の碑を見学した。2歳で被爆し、その後平和を訴え続けた佐々木貞子さんの碑では、世界平和への思いを込めて、鐘をならした。また、その碑の横にある折り鶴奉納所で、学園生で作成した千羽鶴を奉納し、30秒間の黙とうを捧げた。碑めぐり終了後、再度資料館に集合し、記念撮影後、解散した。



毒ガス資料館展示室にて



広島女学院の学生による碑めぐり

【先発隊：まちづくり市民交流プラザ】

夕食後、まちづくり市民交流プラザで、Peace Forum、広島平和委員会との交流に備え、プレゼンテーションの練習を行った。また、第1日目を振り返りディスカッションを行った。

その後ホテルに戻り就寝した。

○生徒の感想

・大久野島では、ウサギがたくさんおり、本当に戦時中に毒ガスを作っていた島なのかと驚いた。しかし、当時の従業員の方、そのご家族の思いや辛さが見学していた時に身にしみてわかり、深い悲しみ、憤りを感じた。戦争とは誰にも幸福を生まず、本当に無意味なものだと改めてよく感じた。碑めぐりでは、広島女学院の方のわかりやすい説明のおかげで平和への思いをさらに強めることができた。広島の人々の心から平和を求めている様子に感動した。オバマ大統領が今年広島訪問をしたように、各国の首相などにももっと広島を訪問してほしいと思った。

・大久野島では、毒ガス工場があった跡が残されているが、戦争を体験した方や被害に遭われた方の声が少なくなってきている今、実際使われていた建物などを未来に残していくことが本当に大切なことなのだと感じた。目で見て、学べることはたくさんある。直接感じる恐怖感は、同時に私の心で戦

争は絶対にいけないという正義感に変わっていった。直接学ぶことの大切さを改めて実感した。碑巡りでは、今まで知らなかった 碑の意味などを学ぶことができ、大変良い経験となった。また、 朝鮮の方の碑も建てられていて、日本人以外の被爆者の方に思いをはせることも、忘れてはならないことだと思った。

8月6日(土)

【先発隊：広島平和祈念式典】

6時30分から広島平和記念公園に入り8時から広島平和祈念式典に参加した。原爆が落とされた8時15分に黙とうを捧げ、その後内閣総理大臣の話や、子ども代表の誓いを聴いた。式典の最後は参加者全員でひろしま平和の歌を歌った。

【先発隊：広島平和祈念資料館】

式典終了後、広島平和祈念資料館に行った。資料館には原爆が落とされた時の写真や被爆者の衣服や持ち物、原爆の熱で溶けて変形した瓦などが展示されていた。また、今年の5月に広島を訪問したオバマ大統領の折り鶴も展示されていた。資料館には、子どもや外国人もたくさん訪れていた。見学終了後、グループに分かれて外国人にインタビューをした。様々な国にインタビューでき、核兵器廃絶や、オバマ大統領の広島訪問について質問をした。



広島平和記念式典



原爆慰霊碑の前で黙祷

【後発隊：新大阪駅】

8時10分に新大阪駅に集合し、出発式を行った。その後、新幹線に乗り、福山駅に向かった。福山駅からはタクシーに乗り、ホロコースト記念館に向かった。

【後発隊：ホロコースト記念館】

ホロコースト記念館は、同館長がアンネの父オットー・フランクさんに出会ったことがきっかけとなって作られた。記念館では、なぜホロコーストが起こったのかを学び、平和のために私たちには何ができるのかを考えた。その後、タクシーに乗って福山駅まで戻り、再度新幹線に乗り、車内で昼食をとりながら広島駅へ向かった。



ホロコースト記念館にて

【Peace Forum 1日目】

後発隊は、14時に広島駅に到着し、路面電車でホテル法華クラブまで移動。荷物を預けて広島女学院へ出発。

15時に、広島女学院にて、先発隊10名と後発隊14名が合流し、Peace Forumに参加した。関西創価、広島女学院、盈進学園、武田高校、沖縄尚学高校の生徒それぞれ2、3名ずつのグループを作り、中東の先生方を交え、数種類のゲームで交流した後、自己紹介や学校のこと、それぞれの夢について英語でディスカッションを行った。その後、各学校の代表によるプレゼンテーションがあり、関西創価学園からは、ラーニングクラスター（LC）の2人が「核廃絶に向けてどのように核の歴史を学ぶべきか」について発表した。



中東の先生方を交えての交流



LCメンバーによるプレゼン

【広島平和会館】

広島駅で各自夕食をとった後、19時から広島平和委員会の方々と交流会を行った。その後、NPTについてのプレゼンを先発隊と後発隊の日本語グループが行い、核廃絶への思いこめて発表することができた。平和委員会の方を交えて平和についてディスカッションを行った後、広島フィールドワークのメンバー全員で学園愛唱歌『負けじ魂ここにあり』を歌った。交流後は館内の展示を見学し、その後ホテルへ向かい就寝した。



先発隊・後発隊代表が活動報告・決意発表



『負けじ魂ここにあり』の合唱

○生徒の感想

広島平和委員会の方々に真剣な発表をしました。この青年たちに任せたら大丈夫だとの思いになっていただくために皆で必死に試行錯誤を重ね、練習してきました。真剣にプレゼンテーションをするメンバーを見て感動すると同時に、自分がこれからも核なき世界へ、また戦争なき世界へと導いていくんだとの決意を新たにすることができました。お世話になった方々、本当にありがとうございました。

ホロコースト記念館では、今まであまり学ぶことのなかったアウシュビッツでの生活や、アンネの部屋の模型を見ることができ、とても良い体験ができました。私たちと同年代の子が何十万人も殺されたと聞いて、私たちの使命はこれからの時代にこのようなことが二度と起こらないようにすることだと改めて感じました。

8月7日（日）

【Peace Forum 2日目】

各行動班ごとに広島女学院へと出発。Peace Forum 2日目は、まず武田高校が NPT の背景や現状について携帯を例にわかりやすく劇で説明。国連の立場や各国の関係、態度が伝わってくる内容だった。その後、劇と NPT の共通点について他校の生徒と意見交換をした。続いて、各学校のプレゼンテーションとなり、関西創価高校からは、2班が英語で発表を行った。基調講演では土岐さんと荊尾さんが、学生からの質問に答えるという形で核廃絶を進める上で大切なことや自身の活動などについてお話された。その後、昼食を各自で食べ、沖縄商学高校のエイサーやプナホウスクールの学生による歌の披露があり、皆で楽しく鑑賞した。

午後は、事前に振り分けられたグループごとに、各校が発表した NPT の解決策について討論し、一番効果的な解決策を導き出した。その後、講堂に戻り、各グループの代表がディスカッションの成果を発表した。その後、講師からの講評があり、プナホウスクールのピーターソン先生の話で Peace Forum が締めくくられた。

【被爆体験朗読会】

Peace Forum 終了後、被爆体験の朗読ボランティアをされている3人の方を招いての被爆体験朗読会に参加した。ビデオを鑑賞し、5つの体験記や詩の朗読を聴いた。1つ1つの朗読のあと、作者について、また、原爆投下後の広島の様子などの説明もあった。また、自分たちで原爆詩の朗読も行った。被爆者の方々の筆舌に尽くしがたい苦しみを、少しでも感じることでできた貴重な経験となった。



被爆体験朗読会



一言一言をかみしめ朗読

【先発隊：フィールドワーク終了】

先発隊は、会館を後にし、徒歩で広島駅に向かい、18時35分の新幹線で無事帰阪した。20時01分に新大阪駅に到着し、解散式を行った。全員が帰宅途中に、創立者池田先生からのご伝言を頂戴し、感動した気持ちで帰宅した。

創立者をはじめ、様々な方の努力で大成功のフィールドワークとなりました。ご尽力いただいた方々全員に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

【後発隊：まちづくり市民プラザ】

被爆体験朗読会終了後、各行動班で夕食をとり、ホテルに戻った。

その後、まちづくり市民交流プラザでこれまでの振り返りを行い、先生方の話を聞いて、最終日に向け、決意を新たにしました。それからホテルに戻り、入浴を済ませ就寝した。

○生徒の感想

2日目のPeace Forumで、NPTについていろいろと討議した中で自分が感じたことは、人それぞれに意見や疑問があり自分では考えつかなかったことがありました。その上で対話の大切さ、また周りの人と共有していくことの重要性を改めて感じさせられました。土岐さんやプナホウ高校の引率の先生の講演も、とても心に残っています。

ピースフォーラムはとても充実したものでした。英語班によるプレゼンテーションをはじめ、ディスカッションなど大成功の一日となりました。特にハワイのプナホウスクールのピーターソン先生は「平和を訴える場で広島人は広島、長崎人は長崎、沖縄人は沖縄の戦争のことしか訴えず、真珠湾のことは全く訴えていない。アメリカが起こしたことだけでなく、日本がもたらした被害についても考えを持つことで、初めて日本人の訴えたいことが相手に伝わる。だから、海外へ行って、海外の視点からも日本を見るべきだ」と言っていて、その言葉が一番印象に残りました。確かに自分たちは今まで広島の原因爆による被害についてしか考えていなくて、真珠湾攻撃がもたらしたハワイの人たちの痛みについては考えていなかったと思います。他の人のことを理解することで初めて自分のことも理解してもらえ、ということを学ぶことができました。相手を理解しようとする姿勢が平和をつくる。平和のためには対話が必要不可欠であると思いますが、対話というのはただ相手と仲良くなるというのではなく、まず自分が相手を理解しようとする。それができて、初めて対話というものが成立するのだと思います。

ピースフォーラムでは本当に色々な事を学べたり平和について深く考えさせられ充実かつ自分の為になったものでした。各校のスキットとプレゼンは完成度が高く平和実現を目指す姿に圧倒されました。関西創価の英語班のプレゼンでは、私たちの平和哲学を他校やプナホウスクールの人達に示せたと思いました。プナホウスクール校長のピーターソン先生が仰っていた広島だけ、長崎だけ、沖縄だけ語れるようでは不十分なこと、是非、海外から広島を見てみるという複眼的な視点を持つてほしい、という言葉聞き、広島・長崎・沖縄を学ぶのは良いと思うが、そこだけに目がいってしまい、他の国などの戦争の出来事などに視野を広げないことは良くないと思いました。この、ピースフォーラムで学んだ事を一喜一憂するのでは無く、多くの人にこの体験したことを広めていかねばならないと思いました。



関西創価高校のプレゼンテーション



グループディスカッション



Peace Forumの最後に記念撮影

8月8日（月）

【後発隊：被爆体験講話】

広島女学院の学生と共に、女性の被爆者の方による被爆体験を聴いた。原爆が落ちた場所は広島で2番目くらいの繁華街で、人が多く賑わっていたそうだ。その方は爆心地から4kmのところに住んでいたそうで、当時いた小学校の2階の一部がねじれたり戸棚が倒れたりしたことや、猫の白い毛が黒い雨によって黒くなったことなど、原爆の被害の大きさを学んだ。

【後発隊：碑めぐり】

広島女学院の学生の案内で、原爆犠牲者慰霊碑、レストハウス、原爆の子の像、原爆ドーム前、韓国人原爆犠牲者慰霊碑など11の碑、建物を回った。慰霊碑の前で黙祷をし、被爆者の事を思い浮かべ、胸が締め付けられる思いがした。



被爆体験講話



広島女学院の学生と共に

【後発隊：平和記念公園でインタビュー・リサーチ】

平和祈念公園を訪れていた外国の方々に核廃絶についてインタビューを行った。イギリス、スペイン、ベルギーなどをはじめ、多くの外国人の方々が訪れていて、オバマ大統領の広島訪問からの核廃絶へ向けた運動の高まりを感じることができた。またインタビューした方々は核兵器についてとても勉強されていて私たち日本人も核兵器についてもっと学んでいく必要性を感じた。同時に、高い語学力の必要性も感じた。今回インタビューをした方の多くは英語を母国語とする方ではなかったが、英語でコミュニケーションをとる中で、世界共通語としての英語の大切さを実感した。



英語でのインタビューに挑戦

【後発隊：広島平和記念資料館】

碑めぐりの後、広島平和記念資料館の見学をした。資料館には、原爆投下による被害が分かる遺品や写真などが展示されていた。原爆の熱線で皮膚が焼けただれている被爆者の等身大のジオラマ、原爆投下時刻で止まった腕時計、広島に投下された原子爆弾の実物大のレプリカなど広島で起きた悲劇を物語っていた。

【後発隊：小溝理事長による講演】

碑めぐりの後、広島平和文化センターを訪れ、センターの理事長であり、これまで外務省で核廃絶の為に尽力してこられた小溝理事長のお話を伺った。小溝理事長は市民運動と教育の重要性を訴えられた。特に教育に関しては、一人一人が無限の可能性を持っていることを理解し、お互いの差異を乗り越えることが大切だとおっしゃられた。また、私たち青年に期待することとして、核廃絶だけではなく他の問題にも目を向けることや、感謝の気持ちを持って行動することをあげられた。そして将来は学んだことを伝え、行動して欲しいとおっしゃられた。小溝理事長からの多大なる期待に感銘を受け、平和実現への決意を皆で固めた。



オバマ大統領の鶴



小溝理事長による大感動の講演

【後発隊：フィールドワーク終了】

記念資料館を後にし、広島駅に向かい、寮生・下宿生は解散となった。通学生は、17時35分の新幹線に乗り、19時01分に新大阪に到着。解散式をし、帰路に着いた。

○生徒の感想

実際に被爆された方から体験を聞くことは、本やインターネットで学習するのとは大きく違うことを実感した。“一度歯車がまわったらもう止められない”という言葉が心にささった。やはり、普通の人たちを巻き込む悲惨な戦争は絶対に起こしてはいけないと決意し直すことができた。これからをつくっていくのは私たち若者だけだと思うから、なにか少しでも行動していきたいと思った

3日目は実際に話をきいたり、見たり、体験する中で、改めて戦争は人を不幸にする絶対に繰り返してはいけない絶対悪だと感じました。被爆者の高齢化が進む中、今後、戦争の悲惨さを伝えるのは私たちであると確信しました。何を始めるにも必要なことは学習することです。学習し、学んで知らない人に伝えていく使命が私たちにはあります。この広島フィールドワークで沢山のことを学ぶことができ、人生の糧となる思い出を築くことができました。この経験を通してこれからの学園生活に活かしていけるように頑張っていきます。

■ 広島フィールドワークを終えて

今回のフィールドワークは、核兵器廃絶のための学びを深めることができた。多くの生徒が核兵器の廃絶に対して、NPTの問題点が多くあることで、当初は難しい面もあるのではと感じていたが、ホロコースト記念館に行き、多くの無実の子どもが亡くなった事実と直面した時、戦争そのものに怒りを隠せなかった。また、1日目と2日目には英語の必要性を強く感じた。多くの生徒が初めて英語でリサーチをしたので上手いかず、悔しさを感じたし、またもっと上手くなって、喋れる姿を見せつけてやりたいという生徒もいた。原爆の体験や、朗読会では誰

も声が出なくなるほど衝撃と悲しみを感じた。涙が止まらなくなっていた生徒もいた。3 日目には小溝理事長の話に多くの生徒が小溝理事長の強い期待を感じ、これから先に核兵器廃絶の戦いの厳しさ、何より強い決意の必要性を感じた。終わったあとも全員が自分がするのだ、ここからなのだという未来への思いを強めていた。今回私達を大きく成長させてくださった、広島平和委員会の皆様、土岐さん、荊尾さん、小溝理事長、またピースフォーラムに呼んでくださり、市内まで案内してくださった広島女学院の皆様、そして常に見守ってくださった創立者池田先生、本当にありがとうございました。私達は、この貴重な体験を忘れずに、これからの人生に生かしていけるよう、日々努力してまいります。

教育の重要性を感じたフィールドワークでした。生命の軽視が生んだホロコーストや広島・長崎の原爆投下のような悲劇を二度と起こさせない為にも、私たちには次の世代に伝えていく義務があります。また、単に事実だけではなく、「一人一人が無限の可能性を持っている」という根本の思想を伝えていくべきだと思いました。フィールドワークの中で、学年を超えた最高の仲間と出会い、広島の地で平和への誓いを共にできたことが私の原点になりました。誓いを果たす為に、勉学はじめ様々な所で頑張っていきます。本当にありがとうございました。



学園生、カリフォルニアに上陸！

California Trail

Vol. 1



煉瓦の色が青空に映える「Royce Hall」の前で、平和学・女性学の権威リズベス教授(前列中央)とともに

民主主義の国 —アメリカ

関西創価高校海外フィールドワークメンバー一行は、日本航空80便で定期通りロサンゼルス国際空港に到着、アメリカへの第一歩を記した。

空港のゲートから町中に出ると、澄み切ったカリフォルニアの青い空とともに、今TVニュースを賑わせているトランプ新大統領による「移民排斥命令反対」を叫ぶデモ隊の「歓迎」を受ける。民主主義の国—アメリカを肌で感じた瞬間だ。



石油王J・ポール・ゲティ氏の没後、財団によって運営される無料で一般公開されている全米屈指の美術館、ゲティ・センターを見学した後、1日目のセッションを行うためUCLAへと向かう。

平和学、女性学の権威であるリズベス・ガント・ブリン教授やUCLAの学生も交え、遅い昼食を取りながら、ラーニング・クラスタやGRITで各自が取り組んできたテーマについて、グループに分かれ活

発に意見 交換を行 った。

場所を芝生広場に移動した後、大塚君(3年)と川合君(2年)による「ジェンダーの平等」について

のフリックを駆使したプレゼンテーションを受け、リズベス教授による「緑陰講義」がスタート。

「歴史的に見て男女の『格差』が顕著になってきたのは近・現代になってからのことで、仕事や家庭の環境など社会事情の変化が大きく影響しています」などのお話を伺った。



《感想》

▼カリフォルニア大学の美しい自然に囲まれながら、リズベス教授や学生の方とディスカッションをした時間はとても有意義なものでした。男女平等について話し合いましたが、日本でもアメリカでも同様の課題があることを学びました。同じ女性として、リズベス教授が強い信念をもって探求されていることに感銘を受けました。自分の英語力をさらに磨き、男女共に輝く世界のためにもっと多くのことを学ぼうと決意しました。明日はさらに積極的に挑戦し、悔いのない研修にします！(3年・松山美華)

▼1日目を無事終えることができました。1日目は、空港のデモ隊から始まり、ゲティセンター、UCLAを訪れ、アメリカの生の雰囲気を肌で感じる事ができました。早速、僕たちのグループのプレゼンテーションがあり緊張しましたが、上手くいった良かったです。残り4日間も必ず無事故で終えられるように頑張ります。(2年・川合勇一)



南カリフォルニア大学でセッション

—世界平和実現に向けた宗教間対話の重要性とは—

California Trail

Vol. 2



宗教学の権威・南カリフォルニア大学のバルン・ソニ博士と、宗教間対話の重要性についてセッション

『平和の文化』 構築を目指して

二日目の午前中は、「VOV（ビクトリー・オーバー・バイオレンス）運動」など、非暴力による「平和の文化」構築に向けた活動を強力に推進してこられたイアン・マクレイス委員長をはじめとする平和委員会のメンバーとともにセッションを行った。ここでは「非暴力」が「暴力」に打ち勝つには「対話」が最重要である、との認識で一致。マクレイス委員長は「世界平和」といっても決して遠くにあるのではない。身近なところから広がっている対話の舞台をおろそかにせず、一歩ずつでも前に進み続けることが大切」と強調。使命に生きようとする学園生の姿に限りない期待を寄せてくださった。



カリフォルニアで人気のハンバーガーショップ「IN-N-OUT」で昼食を済ませ、南カリフォルニア大学（USC）へと向かう。



終了後もUSCの現役学生らと構内を回りながら意見交換を続け有意義な一日を終えた。

宗教学の最高権威であるバルン・ソニ博士とのセッションでは、まず人権グループのメンバーが「テロに向き合う対話の力」とのテーマでプレゼンテーションを行った。時折うなずかれる博士。「すばらしい内容だ」と絶賛された上で博士はなぜ差別は起きるのか、なぜ世界で紛争は絶えないのかについて、インド、パキスタン、9・11、宗教間対話の現状など、事例を次々と挙げながら「特別講義」を展開。最後には「あなたの方の意見はとても重要です。若い日本の学生たちが核廃絶を訴えることに意義がある」「一人の力はとても大きい。大勢で訴えれば更に力強い。自分を小さく見えてはいけない。君たちも世界に飛び出し、対話の渦を巻き起こしてください」と、大きな使命を持つ学園生を力強くも温かく激励され、セッションを締めくくられた。

《感想》

▼午前は平和委員会の方々の前でプレゼンテーションをおこない、「アメリカで心理学を学ぶために、必ず帰って来ます！」と宣言することができました。また南カリフォルニア大学でのバルン・ソニ博士との懇談では、質問の機会をいただき、「背景にある文化は違っても、全ての宗教が平和を目指していると知ることが、核廃絶のためには何よりも大切な」との答えをいただき、来年は反核グループがUSCでプレゼンテーションする機会を作ってくださいと約束していただきました。関西創価の新しい歴史を作っているとの自覚を持ち、明日も頑張ります。（3年・野口良美）▼2日目は、南カリフォルニア大学を訪ねました。「どんな分野の人でも宗教を学び続けるべき」とのソニ博士の言葉に、私は自らの目指すべき道が少し見えた気がしました。それは、科学者として人々の役立ちたいと考えている上で、宗教とどのように向き合うのかという疑問の答えに繋がったからです。これから仏教もまた他宗教のことも更に理解していきたいと思いました。（3年・樹山さくら）

学園生による“高校生平和提言”

—チョウドリ元国連事務次長をお迎えして—

California Trail

Vol. 3



快晴の空の下、待ちに待ったアメリカ創価大学（SUA）でのプログラムは、ハブキ学長の出迎えというサプライズから始まった。午前中は、シェタイナー教育の推進校であるオレンジ郡ウォルドルフ校の高校生と交流しながらキャンパスツアーに参加、昼食までもに過ごす。

午後は、一年間かけてリサーチに取り組んだ研究グループ毎に6人の教授の研究室に分かれて、1対2、3人の特別セッションに臨む。最高の教授陣と過ごした90分間は貴重な財産となったに違いない。

15時からは、ハブキ学長との懇談会。自身の悩みを吐露した学園生が、温かい激励を受け、涙ながらに決意する場面も見られた。

16時からは、フィールドワークの山場の一つであるチョウドリ国連大使とのセッション。冒頭の15分間は関西学園の中高全39教室と結んでのライブ中継も実現、大使は千七百人の学園生に「『平和の文化』に強い関心を持ち、未来の世界市民を目指す君たちの努力

を今後もサポートしていきたい」「20年前に池田先生がコロンビア大学ティッチャーズカレッジでスピーチされた『世界市民へのビジョン』を体現しているのは君たちだ」と呼び掛けられた。更に「世界市民になるために乗り越えねばならないこと」として『自分の無知を乗り越えること』『違いを乗り越えること』『2点に言及』『一人一人が『平和の文化』構築の主体者になってほしい』と激励し、再会を約束してくださった。

中継終了後、チョウドリ大使は2時間を超えるセッションにも引き続き参加してくださり、私たちの『平和提言』一つ一つに大きく頷きながら、国連での長い御自身の経験からコメントを寄せてくださった。

また、終了の時間が迫る中「もう質問はありませんか」と何度も聞いてくださり、記念撮影後にも一人一人のものを回り握手して下さる姿に「次代を拓く人材を何としても育てるのだ」との大使の気迫を感じずにはいられなかった。

夕食後には、SUAの現役学生と6グループに分かれてセッションを行い、今日の全プログラムを大成功裏に終えることができた。

《感想》
▼ずっとあこがれていたSUAを訪れることのできた今日は、晴天にも恵まれとても充実した一日となりました。ハブキ学長、チョウドリ大使と連続して3時間以上にも及ぶディスカッションでしたが、あっという間に時間が過ぎてしまうほど有意義なものとなりました。創立者と深く関わられているお二人の希望溢れるお言葉に、創立者の姿が重なり胸がいっぱいになり、改めて自身の使命の大きさを実感しました。折り返しとなる明日からも引き締めて頑張っていきます。

（3年・阿部羅良枝）
▼今日は創立者の築いてこられた友情や信頼があったからこそ、得られた出会いがたくさんありました。特にチョウドリ大使という、普通の高校生では決してお会いすることができないような方と時間を共有できたことはとても貴重な経験でした。またハブキ学長から激励の言葉をいただいたり、現地の高校生と交流すること、有意義で心に響く思い出ができました。明日も気を抜くことなく、色々なチャンスを自分のものにできるような積極的に行動します。（2年・和田勇希）



食事をしながら、ウォルドルフ高校の生徒と交流



ハプキSUA学長がサプライズで出迎えてくださる



「テロとの戦い」グループ、ピーター・バーン教授



「核廃絶」グループ、ジョン・ヘフロン教授



「ジェンダーの平等」グループ、サラ・イングラッド教授



「児童貧困」グループ、マイケル・ウィーナー教授



「児童労働」グループ、ホン・イ・チェン教授



「食糧政策」グループ、ジョージ・ブッセンバーク教授

平和を求める気持ちは世界共通！

友情の深さと過ごした時間は比例しないことを実感

California Trail

Vol. 4



価値ある一瞬に
未来は創られる

午前中は快晴の空の下、アメリカ創価大学(SUA)を訪ねた。時事問題に関して学生が自ら教員と共同で授業を用意・構築する3週間の独自プログラム『ラーニング・クラスター』の研究発表の場である『ラーニング・クラスターフェア』を見学した。学園生は各ブースをくまなく回り、SUA生に英語で質問。課題の解決法についてその場でデ



チョウドリ大使も再び学園生の激励に



インドの諸問題の展示前で

『宇宙・地球・環境』をひとつめるときを一同で満喫した。



木星の縞の成因を解説

短い時間だったが深い友情を築くことができた。夕食後、グリフィス天文台を訪ねた。展望台からはロサンゼルス夜景が一望でき、そのスケールに圧倒される。また池田勝利先生(理科)の解説付きで館内展示を見学し、



互に歌を披露し合うなど、

イスカッションするなど、積極的な学びを展開した。昼食後は、昨日一緒にキャンパスツアーに参加したウォールドルフ・スクールを表敬訪問。意気投合し『ケラスメイト』のような雰囲気の中、両校の紹介プレゼンテーションから交流がスタート。その後、ウォールドルフ生の案内で校内見学、リサーチ課題についてディスカッションする光景が随所で見られた。最後の交歓会では相互に歌を披露し合うなど、

▼今日は最初にSUAを訪ねました。参加したLCフェアでは、SUA生の皆さんがリサーチをポスターや映像を使ってわかりやすく説明してくださったのがとても印象的でした。そしてウォールドルフ高校へ行き同世代の高校生と互いの学校や自分たちのリサーチについて紹介し合いました。一日を通して強く感じたことは自分の言葉でどこまで相手にわかりやすく伝えられるかということです。学びを自分のものとし、他者にその学びを広げていけるようこれからも頑張りたいです。(3年・松本沙也香)

▼SUAのLCフェアでは積極的に行動すると決めてたくさん質問をし、私たちのリサーチにつながる情報を得ました。更に、SUA生に自分の考えへの意見を求めてディスカッションしたり、詳しくは知らない問題に関してどのような研究がなされているのかを知るなど、有意義な時間を過ごすことができました。またウォールドルフの高校生との交流にとっても刺激を受け、私たちも提言をまとめるだけでなく、実際の行動に移していこうと決意しました。(2年・細見桃花)

「君たちが果たしゆく使命」に感謝

—核時代平和財団デイビッド・クリーガー会長—

California Trail

Vol. 5



全米で最も美しいキャンパス

「希望があれば行動できる」
「行動すれば希望が湧く」
フィールドワーク5日目は、午前中より、全米で最も美しいキャンパスと言われている、カリフォルニア大学サンタバーバラ校（UCSB）を訪ね、キャンパスツアーを行い、昼食をとった。フィールドワークの期間中、訪問した大学はこれで4つ目となった。
午後は、今回のフィールドワークのハイライトとなる、核時代平和財団デイビッド・クリーガー会長とのセッションに臨んだ。
クリーガー会長は、私たち一行を包み込むような笑顔で迎え、クッキーとジュースで温かくもてなしてくださった。
セッションはまずクリー

ガー会長から、核廃絶に取り組んでこられた自身の足跡をお話いただいた後、学園生から学校紹介と核廃絶についてのプレゼンテーションを元気一杯に行った。クリーガー会長は学園生の目を見つめながら「素晴らしい学校の取り組みです。核廃絶のプレゼンテーションも素晴らしい」と賛嘆してくださり、「広島・長崎の訪問は人生を変えるものでした。多くの人はなかなか訪問できない場所です。そこでリサーチした広島島の証言を、どう世界と共有するかが君たちの使命でもあります。原子爆弾はテクノロジーのテストのために使われたのですが、そこに多くの人の犠牲があったこと、それこそが核兵器廃絶のために広めなければならぬ視点です」と話され、学園生の質問を受けてくださった。



核時代平和財団の質素な建物

《感想》
▼今日は各時代平和財団のデイビッド・クリーガー所長とのセッションでした。核兵器は絶対悪です。でも時々「本当に核兵器は廃絶できるのだろうか」と自信をなくすこともありました。しかし、自分の信念を強く持ち、未来を強く信じて「希望を選択」し続ければ必ず世界は変えることができるのだと心から感じました。「希望」とは自然と生まれるものではなく、自分から掴み取るもの。まずは自分のできることから、核のない世界への一歩を踏み出していきます。
（2年・小西沙織）
▼最終日を迎えた今日、思うことは、全ては私たち次第だということです。今日のクリーガー所長との懇談を通して、核廃絶という大きな問題の解決も一人の決意と行動から始まると知りました。世界平和への道の途中、諦めそうになったその時、いかに希望を見出せるか。ここにこの研修に参加したことの意味があると思います。5日間でお会いした全ての方々の期待を心に刻み、私達18人はこの研修を新たなスタートとして、挑戦をしてまいります。
（3年・阿部羅良枝）

東北フィールドワーク通信

in 石巻



「『私の故郷・石巻へようこそ』 最近、ようやくこう言えるようになりました…」語り部・高橋さんのお話が胸を打つ



震災前の町を3Dプリンターで再現

南浜つなぐ館

被災地・石巻に降り立った私たちを迎えてくれた「がんばろう！石巻」の看板。側に建つ『南浜つなぐ館』では、震災2年前の町並みを3Dプリンターで再現した模型や、VRで震災直後の様子を体感できるような展示があった。

ここ南浜町では539名が亡くなり151名が現在も行方不明とのこと。訪問前日には記念公園整備工事の着工がおこなわれ、3年後に完成予定とのことだった。

震災の経験を風化させないよう、最新技術を駆使して次の世代につないでいこうとする取り組みを体験させていただき、メンバー全員で使命を再確認し合った。(植本)

語り部と歩く3・11

「あなたの故郷はどこですか？」という問いから始まった1時間。ここ南浜町の出身で、ご両親を津波で亡くされたという高橋さんのお話を聞きながら「もし自分の故郷が一瞬のうちに津波で跡形も無くなってしまったら」と想像すると、背筋の凍る思いがした。

高橋さんが語ってくれた当時の様子を伺いながら南浜町「だった場所」を歩く。一面に生い茂る背丈より高い葎の根元には、津波で流された服やプラスチックが今も残っていた。

「この木材や瓦も、元は私たちの大切な故郷の一部。だから『がれき』とは呼べなかった」と語る高橋さんの表情が脳裏に焼き付いて離れない。

「明日が来るこの方が奇跡。だからこそ、ここに皆と生きている『今』を大切にして欲しい」魔校となった母校・門脇小学校を背に、お母さんの大好きだった校歌を歌ってくださった高橋さんの思いの「パトーン」を、私たちは受け取った。(佐藤・芳村・福田・大松)

黒澤健一さんのお話



黒澤健一さんのお話

「がんばろう！石巻」の看板を製作された黒澤健一さんのお話を伺った。

あの日、押し寄せてくる津波を目の前に木に登って九死に一生を得た体験を、ご自身で撮影された映像も交えて真剣に語ってくださる。津波は真つ黒な壁のように見えること、とにかく寒く物音一つしない真つ暗な夜など、当時の状況が頭の中でリアルに再現される。

なぜ「がんばろう！石巻」の看板を作ったか。それは「近所の人を励ましたかった。自分も震災に負けたくなかった。店も失って絶望しなかったけど、少しでも希望を送り続けたい」との強い一念からだ。人の力で、思いを形にして伝えることが一番大切とも。この石巻で聞いたこと感じたことを、今度は私たちが「伝える」責任を担うのだと決意できた30分間だった。(佐藤)

《クロスロード》

選択を迫られる場面を想定しYES・NOで答えていくもの。今回は津波災害の経験に基づいた石巻版を体験し、「なぜそのように考えたか」を話し合い、多様な価値観をシェアするとともに、災害が起こる前から考えておくことの重要性に気づかされた。「災害対策を究極的に言うとうと、各家庭の中で命を救う活動ができるかどうか」と言われていた黒澤さんのお話に、私たちもしっかり行動に移せるよう家族と話し合っておくことが大切だと感じた。(齋)

交流会

石巻文化会館に着いた私たちを、地元の方々が大勢出迎えてくださった。笑顔を見せようと思っていたのが、逆に笑顔を見たい形となり、その温かさに胸が熱くなる。「花は咲く」「負けじ魂ここにあり」を合唱した時、一緒に口ずさんでくださった方もおられ、初対面なのに会場にいる全員の気持ちが一つになったように感じられて、とても嬉しく感じられた。(仙田)

東北フィールドワーク通信

in 東北大学

環境科学研究科 「環境問題をディベートで考える」

《エコラボ見学》



ディ
ベート
会場は
CO₂
の排出
を減らす最新技術と、日
本の伝統建築の技が共存
するエコラボ。エコ+コ
ラボの意味を持つ。室内
のわずかな風や屋根から
落ちる雨水を利用した発
電、太陽光パネルを利用
して電力を自給してい
る。図らずも東日本大震
災の際には留学生支援セ
ンターとして活用される
など災害時に有効なシス
テムとして見直され、宮
城県内外に広がりを見せ
ている。(芳村)

《環境ディベート》
はじめに環境科学研究
科の和田山教授から「デ
ィベート・視点の置き方
と相互関係」と題した講
義があり、「テーマが同
じでも、視点が異なれば
全く違う結論になる」と
して、ディベートでは「他
人がどう考えているかを
理解した上で自分はどう
考えるかを主張しなければ
ならない」と教えてい
ただいた。

次に1、4班が「既存
の原子力発電所は積極的
に再稼働すべきである」
2、3班が「CO₂の地
下貯留を推進すべきであ
る」との論議でディベ
イトをおこなった。原発の
再稼働ではコスト、電力
供給の安定性、再生可能
エネルギーの可能性など
が、CO₂の地下貯留で
はコスト、安全性、将来
性などがそれぞれ争点と
なり、活発な議論がおこ
なわれた。結果はいずれ
の論議も肯定側が僅差で
勝利したが、様々な視点
から物事を考えることの
大切さを学ぶ貴重な機会
となった。

(大松、植本、好井)



《水環境システム学》

水文学全般が研究対象
で、特に地の利を生かし
た雪に関する研究が盛
ん。また実験棟内には水
理学実験用の大きな水路
があり、学生実験によく
使われているとのこと
興味があった。(好井)

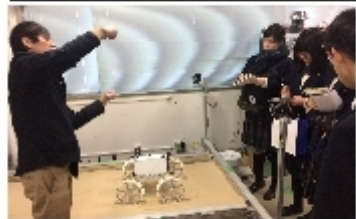


《環境生態工学》
生態系の機能を強化・
修復・利用することから生
態工学。また土木とは、
豊かで持続可能な人間社
会を構築するための学
問。東北大学では、環境
と土木を融合させた研究
をおこなっている(齋)

工学部研究室訪問

《新エネルギー変換工学》

「白い光」と言っても一
種類ではない。それを応
用して太陽光発電の効率
を上げる研究をおこなっ
ている。東北大学では、工
学部とは発見し発明する
ところ」と定義し研究に
取り組んでいる。(石崎)



《宇宙探査工学》
ハクトという研究チー
ムで民間月面探査一番乗
りを目指している(AU
のCM)。月や火星では
通信によるタイムラグが
あるため、敢えてゆっく
り動くロボットを作っ
ている。(今元)

災害科学国際研究所

最後に訪問した災害科
学国際研究所は、東北大
学が東日本大震災のエリ
アにある国立の総合大学
として、防災と復興に役
立つ研究をおこない、そ
の情報を世界に向けて発
信していく使命があると
して設立された新しい国
際研究機関である。

ここでは「自然災害と
『ビルドバック・ベター』
をテーマにワークショップ
をおこなった。『ビル
ドバック・ベター』とは、
「仙台防災枠組み」の中
に全会一致で採用された
「復興に当たっては、そ
の地域が元々抱えていた
諸問題をも合わせて解決
していけるような形を目
指すべきである」という
考え方のこと。

まず「災害復興の国際
事例」2013年台風ヨ
ランタ後のタクロバン市
の復興について主題し、
建築が専門のマリ助教
と地域計画が専門の井
内准教授がフィリピンに
おける災害復興の事例を
紹介してくださる。

その中で「自然ハザ
ードと自然災害の違い」、
「自然災害への対応とし



東北フィールドワーク通信

in 仙台二華中学校・高等学校

SGH生徒交流会

フィールドワーク最終日となった22日、平成26年度に文部科学省よりSGH1期校として認定された仙台二華中学校・高等学校を訪問し、交流会をおこなった。

最初に、仙台二華高校



先生より仙台二華が目指す人物像

「そこに生きる人びとに共感を覚え、将来自分が行動するときに困難を抱えた人びとの視点に立って行動することが出来る人物」と、課題研究の取り組みについて説明があった。



次に、双方の生徒代表がそれぞれ挨拶した後、1年生が関西創価高校を紹介するプレゼンテーションをおこなった。仙台二華生も興味深く聞いてくれ、「群読コンテストって、どんなことをするんですか？」などの質問も飛び出すなど、和気藹々とした雰囲気。

◇

ランチャミーティングでは互いに自己紹介をした後、双方の学校について話したり、大阪でのおすすみ観光スポットや東北フィールドワークではどんなことをしたかなど、いろいろなる話で盛り上がった。

交流会は全部で2時間余りに過ぎなかったが、すぐに打ち解けあうことができ、あっという間に時間が過ぎていった。この交流で築いた友情をこれから大切にしていきたいと思うし、ここで受けた刺激を4月から始まる次の探求活動に活かしていこうと決意することができ、本当に良かった。（福田）



主な取り組みは課題研究、フィールドワーク、言語活動の3つ。中でも『世界の水問題』をテーマとして、地元・北上川に始まり、タイ・ベトナム・ラオスなどメコン川流域にある東南アジアの国々でおこなうフィールドワークでの実地調査には力点が置かれている。また、模擬国連やケースメソッドを用いた言語活動を通して、より現実的な水問題の解決方法を探り、それを当事者や関係者に効果的に伝えることを目標にしていること。（仙田）



その後、関西創価と仙台二華の2年生が、それぞれ取り組んできた探求活動の成果をまとめたポスターセッションをおこなった。



SGH Learning Cluster Program

【Program Overview】

Kansai Soka High School's Super Global High School (SGH) Learning Cluster Program (LC) is a special extracurricular SGH program comprising of students from grade 11 and 12. The foundation of this program is created upon Founder Dr. Daisaku Ikeda's Annual Peace Proposal, which called out for global education based on the four fields of development, environment, peace and human rights. In the course of one year, students learn research skills in English to fully explore global issues related to Sustainable Development Goals (SDGs) proposed by the United Nations.

The purpose of this program is to provide students with the opportunity to deepen their understanding about current global issues that humanity faces and to nourish a sense of responsibility and hope through their research and autonomous learning. Through this program we hope that students will discover passion in their learning which will be carried out through their university studies, future career and lifework, which will lead to fostering the next generation of global leaders who will live contribute lives for the betterment of humanity.

【High School Peace Proposal (HSPP)】

As a yearly final research project of the Learning Cluster Program, students are divided into groups of four-five students to conduct their own research on one global issues topic. This project includes detailed analysis of one global issue from each group provided with a concrete action for solution based on student's research, discussion, presentations and fieldwork throughout the year.

【History of Learning Cluster】

1st Class (2014-2015, SGHA)

- 15 students selected from grades 10-12
 - Group Research Topics (4 Fields)
 - Development: Renewable Energy
 - Environment: Water
 - Peace: Collective Self-Defense Act
 - Human Rights: Refugees in Japan
 - Tokyo Fieldwork

2nd Class (2015-2016, SGH 1st Year)

- 16 students selected from grades 11-12
 - Group Research Topics (4 Fields)
 - Development: Bullying in An Education
 - Environment: Peace Proposal for Environmental Education for the Future
 - Peace: Actions for High School Students Towards the Abolition of Nuclear Weapons
 - Human Rights: Suggesting Concrete Actions to Provide Basic Human Rights to Syrian Refugees
 - Tokyo Fieldwork, Overseas Fieldwork



Picture: Students during LC class

3rd Class (2016-2017, SGH 2nd Year)

- 24 students and 2 student advisers selected from grades 11-12
 - Group Research Topics (SDGs)
 - No Poverty (SDG 1): Child Poverty in Japan
 - Zero Hunger (SDG 2): Equalizing Food Distribution to Achieve Zero Hunger
 - Quality Education (SDG 4): Education for Nuclear Abolition
 - Gender Equality (SDG 5): Gender Equality through Education
 - Decent Work (SDG 8): An Educational Program for Japanese High School Students against Child Labor
 - Peace and Justice (SDG 16): Using Dialogue to Counter Terrorism and Create Inclusive Communities
 - Tokyo Fieldwork, Overseas Fieldwork

4th Class (2017-2018, SGH 3rd Year)

- 25 students selected from grades 11-12
 - Group Research Topics (TBD)



Picture: Students during Tokyo Fieldwork: Tsukuba Space Center

Learning Cluster 2017: Yearly Course Outline

【Selection Process of LC Students】

All students from grades 11-12 are eligible to apply for Learning Cluster. Students are expected to have an English fluency level of Eiken 2 or above with a strong interest in global issues research. Completion of SP during grade 10 is also required. The selection process includes the following tests:

- **Paper Test:**
 - Assess: Basic English ability
 - Reading, listening, and essay writing questions (Pre-1 Eiken / TOEFL)
- **Group Interview Test:**
 - Assess: English speaking, discussion, creativity, and leadership skills
 - Students discuss together in English to solve a prompt question related to global issues.
- **Individual Interview Test:**
 - Assess: students commitment and responsibility
 - Students are asked questions about their reasons for joining LC, study habits, club activities, etc.

【LC Teachers】

- Ramon Paras (USA/ Philippines, MA: TESOL)
- Swati Raj (India, MA: TESOL)
- Louis Butto (USA, MA: TESOL; PhD Candidate in Applied Linguistics)
- Ritsuko Rita (Japan, MA: TESOL)
- Kazuhiro Iguchi (Canada/ Japan, MA: TESOL)
- Kazunori Yamagishi (MA: TESOL)

【Materials】

- 2016 Peace Proposal
- A Forum for Peace
- Newspaper Articles
- TED Talks
- Library Books and Online Resources



【2016 Yearly Course Plan】

1st Semester: Students acquired a broad understanding of current global issues through discussions, presentations and lectures on founder Ikeda's Peace Proposal, global news, and SDGs. Students then were divided into groups of 4-5 students, and chose topics from SDGs to research throughout the year (see above). Students were then taught how to write the literature review and research questions section for their own High School Peace Proposal. With a general understanding of various global issues, literature review of one research topic, and questions for further research, students participated in a fieldwork to Tokyo to present and discuss with experts (for more details see Tokyo fieldwork report).

2nd Semester: After gaining professional feedback from professors and experts during Tokyo fieldwork, students continued to complete their High School Peace Proposal by learning how to write the methodology and results sections. Based on the acquired knowledge, experience, and data collection, students create a proposal for the SDG global issues topic from the perspective of high school students.



Picture: After a special session with Dr. Kevin Clements, Foundation Chair of Peace and Conflict Studies and Director of the New Zealand National Centre for Peace and Conflict Studies (NCPACS) at the University of Otago, Dunedin, New Zealand

3rd Semester: Several students were selected to participate in our second overseas fieldwork to California where they presented their completed High School Peace Proposal to local high school students, university professors, and experts. After coming back from fieldwork, students shared their learning experience from fieldwork and their completed High School Peace Proposal through broadcasts to all classes, after school presentation sessions, open campus, SGH final presentations, and a final presentation session for the school.

【Overseas Fieldwork, January 29– February 4, 2017】

12 students (8 LC, 4 non-LC) had the opportunity of participating in our 2nd overseas fieldwork to California in 2017. The main purpose of this fieldwork was for students to share their SGH activities (i.e. GRIT, and all 3rd Year MUN Project) and the completed High School Peace Proposal with overseas experts and gain critique and further information, as well as learning from experts about their current research. The following are a list highlighted activities which took place during the fieldwork:

- University of California, Los Angeles (UCLA): Gender research group shared and gained critique about their research from Dr. Lisbeth Gant-Britton, and UCLA students.
- University of Southern California (USC): Counter-Terrorism research group shared their HSPP and gained feedback from Dr. Varun Soni, USC Dean of Religious Studies.
- Soka University of America (SUA): Each research group shared and gained critique about their HSPP from SUA professors specializing in each SDG fields. After this, each group presented their research to Former United Nations Secretary General, Ambassador, Anwarul Karim Chowdhury and gained feedback.
- Orange County Waldorf School: Each research group shared and discussed about their school and research to grade 11 and 12 high school students.
- Nuclear Age Peace Foundation: Education for Nuclear Abolition research group shared and discussed about their HSPP to President David Krieger.

After the fieldwork, students shared their learning experience and HSPP through broadcast presentations to all classes, after school presentation sessions, open campus, freshmen guidance, SGH final presentations, and a final presentation session for the school.



Picture: Students during their Overseas Fieldwork: Gaining feedback about their research from Former United Nations Secretary General, Ambassador, Anwarul Karim Chowdhury

UP (University Partnership) クラス

UP クラスは、高大連携を中心としたプログラムで、大学の先生や企業でお勤めの方をお招きし、本校がテーマに掲げる「環境」「開発」「人権」「平和」の4分野をさらに深められるよう授業をしていただくクラスである。

毎週木曜日の放課後を軸に、1～3年生の希望者を対象に実施し、2016年度は計24回の授業を行った。その一覧が下の表である。

回	日付	講師		内容
1	4/21	ガイダンス		
2	4/28	事前学習		平和
3	5/26	関西大学	小川 一仁 教授	経済学
4	6/2	創価大学	石井 秀明 教授 ※サテライト	平和
5	6/16	創価大学	石井 秀明 教授	平和
6	6/23	創価大学	石井 秀明 教授	平和
7	7/14	南カリフォルニア大学	藤井 大輔 博士	統計学
8	7/15	南カリフォルニア大学	藤井 大輔 博士	統計学
9	9/1	創価大学	佐々木 諭 教授	開発
10	9/8	創価大学	佐々木 諭 教授 ※サテライト	開発
11	9/15	創価大学	佐々木 諭 教授	開発
12	10/6	京都大学	山敷 庸亮 教授	環境
13	10/20	京都大学	山敷 庸亮 教授	環境
14	10/27	京都大学	山敷 庸亮 教授	環境
15	11/10	追手門学院大学	井出 明 准教授	人権
16	11/24	京都大学	学びコーディネーター	人権
18	12/14	アメリカ創価大学	エド・フィーゼル 副学長	平和
19	12/15	アメリカ創価大学	エド・フィーゼル 副学長	平和
20	12/16	アメリカ創価大学	エド・フィーゼル 副学長	平和
17	1/12	毎日新聞社	鳴神 大平 氏	人権
21	1/19	創価大学	神立 孝一 副学長補	人権
22	1/26	創価大学	神立 孝一 副学長補	人権
23	2/2	創価大学	神立 孝一 副学長補	人権
24	2/16	かたの環境フェスタ市民会議	山本 光二 氏	環境

【経済学：ゲームで学ぶ経済現象】

2016年5月26日(木)

講師：関西大学社会学部 小川一仁 教授

関西大学のK a n - D a i 1セミナーのプログラムから、本年度は、社会学部の小川教授をお招きし、「ゲームで学ぶ経済現象」のテーマで開催した。

まず、美人当てゲームでは男子生徒が選んだ女優を女子生徒が推理して当てるというもので、惜しいところで一致しなかった。この実験は大学でもされており、今回を含め7回中3回一致を見たということだった。次のゲームは数字を当てるゲームで、各々が1～100の任意の数を選び、その平均に3分の2をかけた数を選んだ人の勝ちというもので、2回行い、数値の違いを見てみると、1回目と2回目とで予測の階層が1段深まっていることが分かった。



2つのゲームを通して、他人の行動をどう予測するかが大事であることを学んだ。

美人当てゲームは、株式の売買をもとに作られたものであることを明かされ、株式で儲けるためには、自分の好みの株を買うのではなく、他人の行動を予測して株価が上がりそうな株を買うことが必要であることを教えていただいた。

また、具体例としてファストフード店の出店について考察し、ゲーム理論が実経済を動かしていることも学んだ。

講演後の質問に答えるかたちで、今回のゲームは人が「合理的かつ自己的」ならばという前提で考えられたものであり、実際の社会が上手く機能しているのは「合理的かつ利他的」「合理的かつ互恵的」な人がいるおかげであることも説明していただいた。

経済学の最新の研究を紹介していただき、社会学や経済学の奥深さを体験できる講義となった。

＜生徒の感想＞

- ・ゲームを通してこんなに深いところまで分かるなんて凄いなと思いました。
- ・自分の知識や主観だけでは、問題解決できないことを学びました。
- ・経済というととても難しいイメージでしたが、ゲームをしながら楽しく考えていくことで、とても身近に感じ、経済活動の奥深さを感じました。
- ・他者との兼ね合いが大切であり、それが人間関係にも繋がっていくのだと感じました。
- ・理論だてしていくこと、根拠をもって考えることは面白いなと思いました。
- ・経済と人間の心理や論理が深く結びついていて面白いなと思いました。

【平和：「軍縮・開発・平和」を考える】

2016年6月2日(木)、16日(木)、23日(木)

講師：創価大学平和問題研究所 石井秀明 教授

第1回目は創価大学と中継を結んで実施。第2回、第3回は来校していただき直接講義をしていただいた。

2日の第1回目は、さまざまなデータを使って、世界の現状を具体的に確認し、グラフから読み取れることなどを確認した。また、世界銀行の世界開発報告 2000/2001 の貧困者のとらえ方を通して、貧困は所得の低さというよりも、富裕者にとっては当たり前の行動と選択という基本的な自由が欠落していることであり、様々な変化に対してきわめて脆弱であるということを学んだ。

そして、「他者の尊厳を守るなかで、自分の尊厳が光り輝いていく」という姿勢で学びを深めていくことが大切であると教えてくださった。

16日の第2回目は、軍縮についての講義を行ってくださった。軍事費に予算を使うことにはメリットがないわけではないが、「軍事費は非生産的である」ことを示され、「機会費用」の考え方を通して、途上国が軍事費に多大な予算を使用することは、マイナスの機会費用が発生していると考えられるとしたうえで、軍事優先の資源配分が、人的資源、開発資源を枯渇させ、硬直した社会経済構造をもたらすことを教えていただいた。

23日の最終回は、まず、ジョディ・ウィリアムズのTED講演を見て、世界平和に向けた現実的なビジョンを整理した。また、国連のSDGsが「誰も置き去りにしない」世界の実現を掲げていることを紹介された。そして、貧困の撲滅のためには、軍縮・開発・平和をリンクさせなければならないことを力説された。さらに、「国家の安全保障」から「人間の安全保障」への転換が必要であることを示された。

地球市民の資質は、「智慧」「勇気」「慈悲」であることを強調され、21世紀を「生命尊厳の世紀」にするためには、関西創価学園の信条である「他人の不幸の上に自らの幸福を築くことはしない」という新しい地球倫理を確立するために、どう行動すればよいかを考えていってほしい、と期待を寄せてくださった。



<生徒の感想>

- ・たまたま生まれた国や環境によって、「命の格差」がおこっているという事実を知って衝撃を受けました。
- ・「人間として生きる」に格差があることは絶対にあってはならないことだと思いました。
- ・今日の講義で最も印象に残っているのは、「兵隊の数よりも教師の数を増やす」という言葉です。
- ・平和の定義について再確認しなければならなかったと感じました。
- ・無関心は最大の悪を生じる。難民や本当に苦しんでいる人たちがこの世にいる限り私は幸せではないという価値観を大事に、これからの高校生活を過ごしていきたい。

【統計学：数字を武器に世界で戦う！】

2016年7月14日(木)、15日(金)

講師：南カリフォルニア大学 藤井大輔 博士（本校28期卒業生）

1学期末のUPとして、2日間連続講座として開講した。



14日の第1回目、冒頭、統計学が「データ(数字)から何らかの関係性や法則を見つける技術」であり、あらゆる分野で使われるととても有用な道具であることを教えてくださった。さらに、モンティホール問題をクイズ形式で紹介してくださるなど、確率の有名問題を紹介しつつ、統計の土台となる確率を身近に感じるお話となった。

また、高校数学で学習するレベルの統計学の確認から始まり、具体例を通して、分布の読み方を教えてくださった。難解な計算等を使わずにエピソードを交えながらの講義に数学が苦手な生徒も楽しく理解することができた。

また、ご自身の経歴でもあるハーバード大学やシカゴ大学の違いなども教えてくださり、海外の大学への興味を深めた生徒も多くいた。

15日の2日目は藤井博士の専門である「経済学」をテーマに講義。経済学とは、お金儲けのための学問ではなく、「限られた資源を最適に使う人間の行動を研究する」学問であるとの説明から始まった。

「相撲に八百長はあるか？」を研究しているアメリカの統計学者の話を紹介されるなど、生徒たちの興味を引く話題も交えながらの分かりやすい講義であった。

また、ノーベル賞を受賞した経済学者の素顔や研究内容も分かりやすく紹介してくださり、世界の発展、開発のためには経済が必ず必要になるということも学ぶことができた。



＜生徒の感想＞

- ・「統計学」のことは知りませんでしたが、ゲームを通して興味がわいてきました。家に帰ったら調べてみたいです。
- ・統計学は生きていく上で役に立ち、ないとすごく不便だなと実感しました。
- ・講義を聴いて、ますますアメリカに行きたくなりました。
- ・「経済学」は、「限られた資源を最適に使う人間の行動を研究する学問」と言われると、すごく分かりやすかったです。
- ・何より一番驚いたのは、藤井先生がノーベル賞受賞者のもとで授業を受けていたことです。
- ・ナッシュ均衡の「相手の行動が自分の行動によって変わる」という考えが面白いと思った。

【開発：開発－貧困削減のための取り組み】

2016年9月1日(木)、8日(木)、15日(木)

講師：創価大学看護学部 佐々木諭 教授

第1回と第3回は本校で直接講義していただき、第2回目はTV中継で講義していただいた。

1日は、「開発－貧困削減のための取り組み」のテーマで、生徒の意見を募りながら、世界には共通の豊かさと貧困の定義と指標があり、様々な国際協力・支援により、貧困は減少したが、貧困の悪循環により、発展から取り残され、格差が広がっている国や人たちがいることを教えていただいた。SDGsが掲げる誰も取り残されない世界の達成が今後の課題であることを確認した。



8日は、「生命の格差－健康と開発」のテーマで、5歳未満児死亡率と妊産婦死亡率の格差を取り上げ、世界では生命に格差が生じている現状を学び、その解決策を考察した。



15日は、「将来の課題－持続可能なための開発」のテーマで、開発というのは歴史的に変遷してきており、パラダイムとしては経済主体から人間にフォーカスする、さらに一人一人の個人が主体者となるように変化してきていることを学んだ。そして、開発に関して私たちが持つべき理念として、「他国の人々の犠牲の上に、自国の幸福や繁栄を追い求めないこと」が重要であることを教えていただいた。

＜生徒の感想＞

- ・本日の講義で、国の発展と一人一人の発展は全く違うということが分かりました。そして、「誰も取り残されない」という言葉が、本当にキーワードだと感じました。
- ・今まで何となくしか捉えていなかった開発や貧困の問題について深く考えることが出来ました。
- ・こうして「知る」という教育を受けられない方々のために、私たちが出来ることはまだまだあるのだろうなと思いました。
- ・生命の誕生から成長という大切なプロセスに、多くの隔たりがあることを学びました。今後も、自ら考えて学びを深めていきたいと思います。
- ・国連のMDGs、SDGsを1度見直してみようと思いました。そして、ユニバーサル・ヘルスシステムのことを勉強してみようと思いました。
- ・「人間の安全保障」という言葉を知り、生命の価値を平等にするという視点からも、教育が与える影響、そしてその重要性は大きいと思いました。

【環境：水惑星地球】

2016年10月6日(木)、20日(木)、27日(木)

講師：京都大学大学院総合生存学館(思修館) 山敷庸亮 教授

6日は、太陽系の惑星群と準惑星の概要について講義して頂いた。地球が水惑星として存在するためには、多くの条件が必要であることをデータから教えて頂いた。私たちが生活している地球が、かけがえのない天体であることを痛感した。また、山敷教授が2016年9月に開発された、太陽系以外の惑星についての画期的なデータベースを紹介してくださり、系外惑星についてもお話しして頂いた。



20日は、科学的知見から温室効果について講義して頂いた。温室効果ガスの概要や、温室効果ガス排出のメカニズム、また、温室効果がさらに進んだ場合、暴走温室効果が起こると想定されており、地球がどのような状態になっていくのかをお話しして頂いた。一つ一つの身近な行動が、私たちが住む地球の未来を決めていくことを学んだ。



27日は、水資源工学・水環境工学の専門家である山敷教授が、長年取り組んでこられた研究について講義をして頂いた。山敷教授が訪問された世界各地の動画を通して、各地で人々が直面している水質汚染の現状を教えて頂いた。

3日間の講義を通して、私たちが住む地球が水惑星として存在することの不思議さや、私たちが直面している様々なグローバルイシューが、喫緊の課題であることを認識し、私達は何に取り組むべきなのかを考えさせられる講義となった。

<生徒の感想>

- ・宇宙は想像している以上にスケールが大きく、地球と大きく違う星であふれていて、地球という星に住んでいる私たちがすごいということを改めて感じました。
- ・今、暴走温室効果の前兆（地球温暖化や台風の大量発生）が起きているということで、人類の生存危機に関わることなので、自分たちができることを考えて生活していかなければいけないと思った。また、小さなことでもいいから、何かしていこうと思う人が、増えていってほしいと思います。
- ・「科学技術は必ずしも人を幸せにするとはいえない」という言葉が心に響きました。

【人権：ダークツーリズムという旅】

2016 年 11 月 10 日(木)

講師：追手門学院大学 井出明 准教授

「ダークツーリズム」の研究をされている、井出准教授をお迎えし、講義を行って頂いた。事前学習として、井出准教授が出演された番組の視聴と新聞記事を読み、当日を迎えた。

ダークツーリズムは、1996 年にイギリスの学者が提唱したもので、戦争や災害をはじめとする人類の悲しみを廻る旅のこと。ダークツーリズムは、現場の持つ圧倒的な力を体感し、記憶を受け継ぐことで同じ悲劇を防ぐことを目的としており、人格を形成する上で、あらゆるものには「光」と「影」があることや、悲しみを知ることの重要性を教えて頂いた。



次に、典型的なダークツーリズムの場所としてヒロシマの話をつなげとして、広島と長崎に原爆が投下された経緯が違ふことや、「核」というキーワードから「原発事故」のお話へという形で、井出准教授が「キーワード」をもとに、アウシュビッツ、スイス、長崎、サイパン、網走、第五福竜丸、ゲルニカなど、高校生も聞いたことがある場所で、井出准教授が実際に体験されたダークツーリズムについて、現場に足を運んだからこそわかったことを多面的に教えて頂いた。



また、遠くに行かなくても身近な場所でダークツーリズムを行うことができる、大阪府内や近畿圏内の施設を教えて頂いた。

＜生徒の感想＞

- ・「百聞は一見に如かず」知識や想像だけではなく「現場」へ行くことも大切に、グローバルリーダーを目指して、物事を考えていきたいです。
- ・「悲しみを知ることには人格を作る」という価値観をもって、その「影」を未来の「光」へつなげていく努力が必要だと思いました。
- ・負の歴史には影だけではなく光の部分もあると知り、少し勇気が出ました。
- ・ダークツーリズムを実際に行ってみたくて強く思いました。

【人権：あなたはテストにアンキパンを使いますか？】

2016年11月24日(木)

講師：京都大学大学院文学研究科 井保和也 研究員

本年度も京都大学の「学びコーディネーター」事業を申し込み、京都大学大学院の井保和也研究員をお迎えし、授業を行って頂いた。授業では、アンキパンを通して道徳的な問題を議論することを体験し、「エンハンスメント」について考えた。

スマートドラッグを含め、人間の能力などを科学技術的な介入によって増強することを「エンハンスメント」という。

はじめに、ドラえものの道具であるアンキパンを食べると、転写された内容を確実に暗記することができることが紹介された。もしアンキパンを入手することができれば、自分がテストにアンキパンを使うかどうかを考え、話し合った。次に、そもそもアンキパンを使ってもよいのかについて話し合った。



様々な意見が活発に交わされ、アンキパンをきっかけとして、議論が深まっていった。その後、社会的価値と人間的価値の観点から、反対派と容認派の意見を紹介して頂いた。そして、再び、自分がテストにアンキパンを使うかどうかを議論した。

続けて、「アンキパンは実在する」と講師の方がお話されると、生徒からは驚愕の声が上がった。その例として、スマートドラッグがあり、効果は科学的には実証されていないが、アメリカ等ではすでに流行していることが紹介された。

一つの事柄を多角的に捉え、議論を通して内容を深めていく楽しさを学ぶことができた。

＜生徒の感想＞

- ・様々な角度からアンキパンを議論したことがとても楽しかったです。本日はとてもおもしろい講座をありがとうございました。
- ・アンキパンについてこんなに話したのは初めてでした。毎日学校の授業がこういうテーマだったらおもしろいなと思いました。
- ・エンハンスメントの問題は身近な道徳的問題なのに、今まで考えてこなかったもので、これから考えていこうと思います。
- ・アンキパンを使わなくていいように努力したいと思った。

【平和 : Globalization : A Force for Peace or Conflict?】

2016 年 12 月 14 日(水)、15 日(木)、16 日(金)

講師 : アメリカ創価大学 エド・フィーゼル 副学長

学期末恒例となった連続講座。12 月はアメリカ創価大学からエド・フィーゼル副学長をお迎えして、3 日間の連続講座として開催した。

1 日め。まずはご自身が「貧困をなくしたい」との思いからハーバード大学を目指したこと。様々な苦難を乗り越えながらイエール大学に入ったこと、など赤裸々に語ってくださった。

また、生徒たちに「あなたの目標は何ですか?」と問いかけられ、夢・目標の大切さを訴えた。「夢というのは、暗闇の中でも光り続けるランプのようなもの」との言葉は、多くの生徒たちの心に刻まれ、皆が夢や目標について改めて考える機会となった。



2 日めは、グローバル化について、G00ds・Money・People という 3 つの観点から、今の世界の状況を教えてくださった。そして、グローバル化自体にも良い点と悪い点の両方を含むことが確認された。さらに生徒たちが考えを発表する形式で進められ、活気にあふれる授業となった。

最後に、価値観の問題として、Greed・Anger・Ignorance という 3 つの悪が High Grain Prices・War・Illnes を生んでしまう。そうしないためにも、Compassion・Courage・Wisdom の 3 つを基調とした世界にすることが SUA の存在理由であると語った。

3 日めは、前日に質問し切れなかった生徒の質問に答えるところから始まり、その誠実なお人柄に皆が感銘を受けていた。そして、「世界市民」になるためには何が必要なのか、について教えてくださった。また、創立者・池田先生がライナス・ポーリング博士と対談した場に同席したときのエピソードに皆が驚いた。最後に、SUA がグローバルリーダーを育成するために挑戦していることを通して、皆がグローバルリーダーとして成長してほしいと期待を込めて講義を締めくくった。

＜生徒の感想＞

- ・たくさんの人との出会いの中で、自分の目標や夢を持つ大切さが分かりました。自分の力を、ここまですべて決めてしまうことが一番いけないことなんだろうと思いました。
- ・世界市民への意識や考えを深めることができました。日本出身、アメリカ出身などではなく、地球出身。私の故郷は、この地球。このような精神が大切だと感じました。

【人権：新聞ができるまで 一大震災と新聞】

2017年1月12日(木)

講師：毎日新聞社 編集制作センター 鳴神大平 部長

NIEの推進でも大きく活躍されている毎日新聞社の鳴神部長をお招きして開催した。

「新聞記者には4種類あります。ペンの記者・写真記者・編集記者 とあと1つは何でしょう？」

「新聞記者の7つ道具とは何でしょう？」とクイズを交えながら始まった授業に、生徒たちも楽しみながら活気あふれる雰囲気。新聞記者が常に10円玉を持ち歩いていることや、50年前は伝書鳩を使っていたという話に驚きの声が連続した。



続いて話題は震災報道に。関東大震災に始まり、阪神淡路大震災の話。そして生徒たちの記憶にも新しい東日本大震災。毎日新聞社のカメラマンが撮った写真に小さく人影が写っていることから、その人を追いかけて、助かっておられたエピソードを紹介。「記者はネタを追いかけているんじゃない。人を追いかけている。その人の喜びや悲しみ、怒りを記事にする」という言葉に、生徒たちは感銘を受けていた。

また、「記事の書き方」として5W1Hが基本であること。また、新聞記事は一番大事なことを初めに書く逆ピラミッド型であることを押していただいた。続いて、事前課題として提出していた「桃太郎に見出しをつけると」「熊本地震の2枚の写真、どちらを載せるか」について、生徒たちの意見を紹介。1つの事象でも立場によって全く違う見出しになることを教えていただいた。



日常的に近くある新聞が、また違って見えるようになった講義だった。

<生徒の感想>

- ・私は毎日、新聞を読もうと心がけていますが、やはりネットやテレビを使って情報を得ることの方が多くなりがちです。自分の興味のあるものだけでなく、その他の情報をはやくすることができる新聞を、これからも毎日読んでいきたいと思います。
- ・新聞記者は人を追いかけて、その人の喜び、怒り、悲しみを記事にするという言葉が心に残りました。また、今日教えていただいた5W1Hをこれから作文やレポートを書くときに使ってみようと思います。
- ・見出し1つや内容1つにも編集者の思いがすごく入っていると思うと、明日から新聞の見方が180°変わると思います。記事を通して現場の人・新聞記者が読者に伝えたいことを、もっと読み取れるようになっていきたいです。

【人権：「人権」について考える】

2017年1月19日(木)、26日(木)、2月2日(木)

講師：創価大学経済学部 神立孝一 教授（副学長補）



3週連続講座として開催された1日め。「人権とは何か？」との問いかけから始まり、さっそく生徒たちに発言させながら話が展開していく。「人権」という概念自体が高々200年前に生まれたものであることを紹介され、17世紀の名誉革命に始まり、18世紀のアメリカ独立戦争、そしてフランス革命へと歴史を紐解きながら、単なる歴史の教科書の記載にとどまらず、当時の人々がどう感じたのか等に視点を置いて話が進められた。

2日めも「人権」という観点から歴史をたどった。その中で、配布された資料である「ヴァージニア権利章典」「アメリカ独立宣言」「人権宣言」に記載されている文言から、当時の人々がどういったことに不自由を感じていたかを読み取りながら解説してくださった。そして、「自由」と「平等」の二律背反について分かりやすく説明され、次回にディスカッションをしようと提案された。

3日めは、「自由と平等は両立できるのか？」をテーマに即興のグループをつくり意見交換。それぞれのグループに発表させ、皆の意見を共有した。どの意見も一理あり、しかし完全とは言い切れない意見ばかりで、何が正しくて何が間違っているのか、頭の中が大混乱した状態に。神立教授は「正解なんてないんだよ。みんなで一緒に考えていこう！」と優しく呼びかけられ、励ましてくださった。



<生徒の感想>

- ・最も頭の中がぐちゃぐちゃになった3週間でした。自由をとれば不平等になり、平等をとれば不自由が生じる。自由と平等は両立しうるのか。難題でした。少なくとも今、この瞬間の両立はあり得ないと思うので、基準はやはり自分自身だと思います。環境を「平等」にしたとしても、「自由」を感じられるかは自分次第です。私はいつも心の中に希望を絶やさず、太陽のような存在でありたいです。
- ・歴史を「人権」という視点でみた経験があまりなく、とても新鮮に感じました。「どうして疑問に思わなかったのか？」と思うことばかりで、すごく面白かったです。
- ・答えがないことを考え続けることの大切さを知りました。
- ・先生の人柄に感動しました。教室に入られて開口一番、「皆に会いたくてワクワクしていたんだよ」と言われていて、すごい方だなと思いました。
- ・学問をするのは何のためかを深く考えさせられました。理由はよく分かりませんが、とにかく心で得たものがありました。もっともっと成長し続けます。

【環境：木の声がきこえる】

2017年2月16日(木)

講師：日本樹木保護協会代表樹医 山本光二 氏

2016年度最後のUPクラスは、樹木医であり、かたの環境フェスタ市民会議の代表として本校の地元交野で活躍されている山本氏にお越しいただき講演をしていただいた。

冒頭、「私には師匠が2人います」と語られ、山本氏の父親と日本樹木保護協会創始者・山野忠彦氏のお2人を紹介。幼いころから弟子入りするまでのエピソードを紹介してくださった。特に山野氏は1900年生まれで、山本氏とは50歳近くも年が離れている。その中で築かれた師弟関係に、生徒たちも驚きを隠せなかった。



そして、「大阪以外から来ている生徒さんはおられますか？」と問いかけると、多くの手が上がり一人一人を指名。

「神奈川県です!」「逗子市のお寺にある樹がね・・・」

「長野県です!」「桜の木を治すために10年以上通いましたね」

「宮崎県です!」「宮崎には大きなクスノキがあつて・・・」

等々。その後も多数の生徒たちがそれぞれの地元を言えば、その地域でのエピソードを語ってくださった。日本全国あらゆる場所の樹を治して回っておられるお話に皆が感心した。

講演終了後も、個別にお話を伺うために生徒たちの列が。その一人一人に丁寧に、じっくりとお話をしてくださる誠実の人柄にも生徒たちは感動していた。

また、3種類のご著書を3冊ずつ、図書館に寄贈してくださるなど、生徒たちに大きな期待を寄せてくださった。



＜生徒の感想＞

- ・私たちは植物の立場からも現在の環境問題を考えていかなければならないと知りました。私もそのような見方で地球の問題や自分のライフスタイルを見つめなおしていこうと思いました。人間は植物の生命力、どんな環境にも適応してそのサイクルを何千年も続ける力を学んでいかなければいけないと思いました。
- ・「休んでも良い。疲れたら休みなさい。ただ、妥協をしてはいけない」「人の気持ちの分かる人間に」とのお話は、すべてのことに通じることだと思いました、私も最後まであきらめずにやり抜く力をつけたいです。

◆年度末アンケートより◆

3月、受講生徒を対象にアンケートを実施。

自分自身の変化についての5つの質問項目を1～4の4段階(値が大きいほど強い)で答えてもらった。
以下の表がその結果である。

	4	3	2	1
1. 自分自身が成長した、視野が広がったと感じる。	69%	29%	2%	0%
2. 世界で起こっている様々な問題への関心が高まった。	79%	19%	0%	2%
3. 国連が提唱する MDGs、SDGs の理解が深まった。	29%	45%	21%	5%
4. ものごとを色々な角度から見たり、考えたりすることができるようになった。	50%	50%	0%	0%
5. 地域社会や国際社会に貢献していきたいという気持ちが強まった。	69%	26%	5%	0%

「3. 国連が提唱する MDGs、SDGs の理解が深まった」については、高評価（3 もしくは 4）が 74%と全体の 4 分の 3 にとどまった。UP クラスの講師としてさまざまな分野の方をお迎えしたいとの考えが強かったせいか、MDGs や SDGs を UP で学ばせようとの意識が薄かったと反省している。

今後は、その意識も持ちつつ、さらに他分野の講師を招けるように尽力したい。

3. 以外の 4 項目についてはほぼ全員が高評価であった。特に「4. ものごとを色々な角度から見たり、考えたりすることができるようになった」は高評価が 100%であり、生徒たちのものの見方や考え方を広げること成功したと自負したい。

来年度以降も、さらによりよいものにしていきたい。

関西創価SGHにおけるNIEの取り組み

異なる価値観に触れる

■テーマ設定の理由

今日の地球的課題である「環境・開発・人権・平和」の4分野について、さまざまな教育プログラムを開発し、全校生徒が3年間をかけて学びを深めてきた。この取り組みを通してグローバルリーダーへと成長していく使命感を高めていく一方で、必要性をより一層強く感じるようになったものが「多様性」である。そこで、異なる価値観に触れること、自分の考えを持つこと、自分の考えを表現することをトレーニングする機会をつくっていくことはできないかと考えたとき、その最も有効な教材が新聞なのではないかと考えた。同じ事象であっても、新聞によって捉え方は大きく異なる。そこに新聞各社の価値観が表れている。この新聞社の価値観を比較しながら、異なる価値観に触れること、そして自分の考えを表現することを目指して、新聞を活用した取り組みに挑戦した。

■実践の概要

これまでのNIEの取り組みに加え、生徒の有志で新聞記事の読み比べに挑戦することにした。

まずは、NIE実践指定校として提供して頂いている新聞各紙から、価値観の違いが浮き彫りになる題材はないか、探すところから始めた。最も顕著に価値観の違いが表れるのは社説であると考え、在阪5紙を比較していったが、あいにくすべての社説に共通して取り上げられている時事がなかったため、比較が難しいと判断した。

さらに読み比べを進める中で、新聞各紙を比較するのではなく、記事の内容そのものについて意見が分かれるものを取り上げた方がよいのではないかという声が生徒からあがった。話し合った結果、高校生の関心も高まっていた「アメリカ大統領選挙」について取り上げることに決まった。

アメリカ大統領選挙に関する記事を収集し、誰が大統領に就任すると、その後どのような展開につながるかと考えているか、記事を読み比べながら探っていった。



▲学年によっても支持に差がでることを想定し
学年別に色を分けたシールを設置。

当初は新聞ごとで支持の違いが出てくるのではないかと考えて読んでいたが、目を通してみると中立な立場での報道を守っている印象であった。そこで、「あなたはどの新聞の主張に賛成しますか」という問いかけではなく、「あなたはどちらの候補を支持しますか」という分かりやすい問いかけに変更することにした。

そして全校生徒にも参加してもらえようという掲示物を作ろうと話し合った結果、記事を読んで賛同できるものにシールを貼るという参加型のポスターを作ることとなった。

完成したポスターを掲示してみたところ、わずか1週間足らずで多くの生徒がシールを貼って意思表示してくれた。連日のマスコミによる報道にやや偏りがあると感じていた生徒たちは、一方に支持が集中すると予想していた。しかし実際はどちらの候補にも多くのシールが貼られ、同じ学校に通い同じ教育を受けている生徒でも考え方に違いがあることを実感することができた。



▲支持の違いが視覚的に捉えられるものになった。

■考察

今回は「異なる価値観に触れる」「自分の考えを持つ」「自分の考えを表現する」を中心的な目標として取り組んだ。制作に携わった生徒たちが、この取り組みの目的を正しく理解していたことで、より目標達成に近づく方向へと軌道修正することができたと感じる。今回の取り組みは、こうした生徒の問題解決力を育む取り組みにもなった。

また、掲示物はともすれば一方向からの情報発信に陥ってしまう。そうではなく「参加型の掲示物」としたことで、より深みのある結果を得ることができた。こうした掲示物にしようと考えた生徒の感覚は、日頃のアクティブラーニングの実践で培われたものではないだろうかと考える。もしそうであるならば、NIE の実践と NIE 以外の実践は互いの教育効果を高め合うことができているといえる。

■成果と今後の課題

同じ学校に通う生徒であっても価値観の違いがあることに気付けた今回の取り組みは、グローバルリーダーへと成長していく上で大切な「多様性」について考える大きなきっかけになった。差異を乗り越え互いを認め受け入れる姿勢も、こうした気づきから始まるのではないだろうかと感じた。

今回の取り組みで得られた学びに満足できる部分もあったが、もう一重深みのある価値観の練磨を目指すのであれば、やはり新聞各社で主張が分かれる記事を取り扱う必要がある。そのためには、日本人として共通の捉え方になってしまう話題では不十分である。より効果的な話題を取り上げられるよう、ポスター制作の時期だけでなく、長期的なスパンで記事探しをしておくことが大切ではないかと考える。

また、国内の新聞だけを扱えば、日本人としての立場で事象を捉えることになる。そこで国外の新聞と比較することができれば、視野はいつそう広がるのではないだろうか。

これからも新聞を活用して、さらに広い視野、さらに多様な価値観に触れていくことに挑戦できればと考えている。そして本校が SGH として目指している「使命感」「共感力」「問題解決力への創造力」を備えたグローバルリーダーを一人でも多く輩出していけるよう、さらに工夫を重ねた取り組みに挑戦していく決意である。

Active Learning（アクティブ ラーニング）実施報告

本年度の「研究開発実施計画書」〈3 研究開発の概要〉においても、「Active Learning の土台の上に、国連が提起している地球的課題について探究し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての使命感・共感力・問題解決への創造力を育む取り組みを高大連携して行う。」と謳っている。

具体的には、〈高大連携で授業改善 ― 友と協力し自ら学ぶ Active Learning〉を強力に展開することを目指し、本年度も以下のように取り組んだ。

以下、本年度の Active Learning 実施に関わる取り組みを記す。

1. アクティブラーニング研修

創価大学教育学部関田一彦教授と提携し全教科での導入を目指し、研修を行った。関田一彦教授には、SGH アドバイザーという立場から、アクティブラーニングや最新の教育界に関わる情報提供等、さまざまなアドバイスをいただいた。

「環境・開発・人権・平和」の4テーマを教科指導に取り込む工夫も含め、本校のSGH活動の根幹となるGRITで生かすため、本年もアクティブラーニング研修を校内で2回実施した。

アクティブラーニング研修（第1回目）

日時 2016年3月24日（木）10:00～12:00／13:00～15:30

会場 本校 展開教室A

対象 高等学校全教員

講師 関田一彦 創価大学教育学部教授

内容 さまざまなアクティブラーニング手法の紹介

教員自身のアクティブラーニング体験／ワークショップ

アクティブラーニング研修（第2回目）

日時 2016年7月25日（月）13:00～16:00

会場 本校 展開教室A

対象 高等学校全教員

講師 水野 正朗 教諭（名古屋市内の公立高校国語科教員）

関田一彦 創価大学教育学部教授

内容 第一部 水野 先生のアクティブラーニング ワークショップ（国語の授業）

第二部 関田 先生によるレクチャー

2. GRIT

土曜日の総合学習をGRITと呼び、探究型の授業を展開した。「環境・開発・人権・平和」の4テーマで、生徒間での討論、テーマを掘り下げるリサーチ、問題解決に向けての考察を行い、最終的に2月中旬に開催した公開授業でグループごとのプレゼンテーションを行った。

関田教授より紹介されたアクティブラーニングの手法をはじめ、教員が各所で学んだ手法を取り入れ、より活発な議論、深い学び、さらに主体的な取り組みができるよう、さまざまな工夫を行った。

3. 各教員による Active Learning 実施報告

【授業者】片桐麻衣 【科目】化学 【対象学年】3年 創大文系／創大理系

◇実践内容

(創大文系) 2015 年度 3 学期は、ほとんど全ての授業をアクティブラーニングで実施しました。生徒 4 人グループで、教科書の範囲を振り分け、生徒が授業を行い、教師は一切授業を行わないというスタイルで実施しました。

2 学期期末テスト後に生徒 4 人程度のグループを作り、担当範囲を決めました。そしてルーズリークを明示した上で、冬休みの宿題は、担当範囲を調べるというものにしました。冬休み前に全員が Google クラウドに登録し、宿題の提出・授業計画シート・振り返りシートの提出を、Google クラウド上で行いました。

テスト前に生徒の質問が多く、私自身が対応できていませんでしたが、各クラスに、それぞれの分野のエキスパートが誕生したおかげで、質問の数が減り、皆で教えあう光景をみるようになりました。

また、化学が苦手だった生徒も、「やればわかる」ということを掴んだ生徒もあり、アクティブラーニングを計画するのは大変でしたが、「自主的に学ぶ生徒を増やしたい」という当初の目標を達成することができました。

今後は、ICT の活用を見据えて、さらに研究を進め、実践していきたいと考えています。

(創大理系) 2016 年度 1 学期には、グループごとに問題を作成し、解説も考えようというアクティブラーニングを行い、実際に定期考査で出題しました。

また、理系の授業では 3 単位というメリットを生かし、問題演習を多く取り入れ、問題演習時にアクティブラーニングで教え合いをし、その後、ジグソーで教え合うという実践をしてきました。

ジグソー法を取り入れたため、責任感が生まれ、グループで教えあう際に、一人一人が主体的に学び合う姿が多くなりました。また、まず自ら調べて考えてみようという意識が向上したように思います。グループでの教え合いは生徒が目標を明確にして取り組めるように、次の展開を見据えた目標やプランを明確に示すように心掛けました。

今後は、ICT の活用を見据えて、さらに研究を進め、実践していきたいと考えています。

【授業者】中村 猛 【科目】現代文演習／現代文 B／古典 B
【対象学年】3年 創大文系／受験文系／創大理系

◇実践内容

解答や、解答の根拠を検討させたり、音読をさせたりということを、グループで行いました。

グループの人数は 3～4 人、または、ペアで行いました。” 授業が活気づくとともに、考えをぶつけ合う姿が見られ、思考している様子が窺えました。

グループの人数は 3～4 人だと活気づくと共に、私語も増えました。よって、ペアのほうがより効果があるように感じました。

【授業者】山中 広一 【科目】英語 【対象学年】3年 受験文系

◇実践内容

ペアワークやグループワークを英文の訳読に取り入れました。またスピーキング力をあげるために、ペアワークを多く取り入れました。

センター試験のリスニングのスコア平均が上がりました。 目的を持って取り組みたいと思います。

【授業者】小山 弘 【科目】保健 【対象学年】2年 創大文系

◇実践内容

グーグルクラウドを使用し、班ごとに研究課題を与え、その内容を班員でグーグルスライドでプレゼンテーションを行う。ICTを活用し、クラウド上での協働作業を行った。毎回の調べ学習やプレゼン

ンの態度はルーブリックを利用し、あらかじめ決められた基準でお互いを評価し、点数化して毎時間グループクラスルームで提出させた。ノート提出に関しても、クラスルームを使用し、その日のプレゼン内容を教科書に書き込ませたものを写真で撮らせて、毎時間後に提出させた。

グループ全員で一つの同じスライドを同時に作業する中で、探究の仕方や、発表の仕方をお互いに共有・議論しながら進める姿が見られた。誰一人としてふざけたり、孤立する生徒がなく、集中して行うことができた。また、ICTに詳しい生徒やプレゼン方法に詳しい生徒がグループを超えて教える姿も見え、知識の拡散が見られた。

教師個人の研鑽と努力で行う授業とは違い、教師自身も気づかなかった視点での授業の展開や、斬新なプレゼンシートの作成など新しい発見がたくさんあった。しかし、円滑に授業を行うためには、グループクラスルームの作成やチェックシートの作成、課題の配信やルーブリック表の作成や配信など、授業までの準備や授業後の提出物のチェックなど教師自身が教科内容以外の取り組みに時間がかかることがわかった。逆に授業中はファシリテーターやコメンテーターなので非常に余裕ができた。

【授業者】相川 茂樹 【科目】保健 【対象学年】2年 創大文系

◇実践内容

タブレットを使用して、スライドを作成させ、班毎に模擬授業を行わせた。

G R I Tに似た探求型の授業となり、主体的に学ぶ事を狙いに実践させた。

3時間の授業作成時間→3時間での各班の模擬授業（2班/時間）で実施。

他の班が発表している際は、メモをとらせると共に、発表態度、内容、スライドの内容について生徒が発表者に対して、評価をつける、ルーブリック評価制度も取り入れた。

タブレット全員配布が実現した高校2年生だからこそできた取り組み。

- ・主体的に学ぶ事によって、他人との関わり、意見交換が増えた。
- ・生徒が生徒を評価するルーブリック評価制度を設けた事により、寝ている生徒、他事を行う生徒がいなくなった。
- ・積極的に質問にくる生徒、授業以外で質問をしに来る生徒も増えた。
- ・授業以外の話をしている生徒がいなくなった。
- ・欠席している生徒のフォローが難しくなっていく。（生徒が自主的に取り組む為に、生徒間での知識量に大幅な差が出てしまうのではないかという懸念が生じた）
- ・正しいアクティブラーニング、理想のアクティブラーニングについて、教師自身をもっともっと学んでいく必要があるし、学びたいと感じた。
- ・Googleの利便性を大いに感じた。”

【授業者】貴志福太 【科目】国語 【対象学年】1年

◇実践内容

新しい教材の最初の時間に読みの確定、課題ノート予習部分を4.5人のグループで行い、問題課題はグループ内で解決させる。解決できない事には教師が解答に至る情報の入手の仕方等アドバイス、または、解答を示す。

段落要約をグループで作成発表させる。グループ内ではまず個人が作成、評価し合って最適なものを決める若しくはそれを叩き台にして推敲して発表する。

授業への参加度合がたかまった。

学習内容によっては効果的だが何でもかんでも金科玉条のごときものでもない。精査して授業案を作らないと弊害多い。国語科は明治の世から一対生徒数のアクティブ Learning を追求しています、今さら何を…という感じがします。

【授業者】堀 光則 【科目】数学Ⅱ 数学B 【対象学年】2年 創大理系

◇実践内容

前回の内容をお互いに説明させています（ペアワーク）。

授業の導入がスムーズになりました。

【授業者】千葉一夫 【科目】世界史 A 【対象学年】2年 創大理系／受験理系

◇実践内容

（創大理系）四大文明をグループごとにシートを作成。グループ代表者によるプレゼン。コラボレーション力を発揮できた。生徒間の話し合いにより意見の違い等が明確になり、今までより他の文明との比較ができた。

タブレットを使った調べ学習をさらに学び合いの授業に展開できるように模索しています。

（受験理系）四大文明をグループごと シートを作成し グループ代表にプレゼンしてもらう。個人差はあるが概ね、協力してプレゼンに取り組んでいた。センター受験が目的であり（理系にとって二次試験に科目設定のない）地歴公民は広く浅く網羅的に基礎知識を習得しなければならない。従来の知識偏重の授業形態を現時点で変化させる前に、板書・ノート・プリント・暗記が学びと思っている生徒の意識変革が重要。自ら考えて、課題をつくることにはかなり労力があるし、基礎的な学力は必須。タブレットを使って、受動性・依存性をポジティブ・アクティブに変革できるか 明年度のテーマとしたい。

【授業者】上田 幸太 【科目】生物基礎 【対象学年】1年

◇実践内容

- ①毎回の授業の冒頭で前回の授業の復習を1～2分で行う（隣同士で説明しあう）
- ②フィールドワークや実験
- ③授業内容を説明する動画の作成

◇効果

- ①3学期からの取り組みなのでまだわかりません
- ②自然現象や環境などを実際に五感を使って体験し、理科を身近な存在と感じられた
- ③人に説明しなければならないのでグループ同士の教えあいが自然と生じた。また、同じ内容に繰り返し触れることになるので定着も深まりました。

アクティブラーニングと一言に言っても教科特性が大きく出ると思います。

ルール作りや意義付けなどは全体の教員研修などでできるかもしれませんが、研修をする際は全体研修ではなく、教科ごとの研修にすべきかと思います。

【授業者】寺西 翔大 【科目】数学 【対象学年】1年

◇実践内容

練習問題を解く際にグループワークでの教え合いを推進した。早くできた生徒に教え隊や丸付け隊といった役目を与え、生徒同士の交流を授業の中でつくった。

授業中寝ている生徒の減少。グループワークへの抵抗感の減少。

【授業者】佐藤 進 【科目】現代文 【対象学年】2年 受験理系／受験文系

◇実践内容

- タブレットを使った誤答分析
受け身の授業から能動の授業へ

【授業者】山並哲也 【科目】日本史・倫理 【対象学年】3年 受験文系

◇実践内容

共同学習し、プリントへの解答を記入。その後、生徒達が板書を行う。

生徒の活動が活発化することにより、授業が活性化する。

アクティブラーニングと進度の確保の両立をどのようにやっていくかが、自身の課題です。受験科目に選択している生徒にとってみれば、2学期までに、教科書の大部分を終わらせることが重要。もっと早く進むべきという意見もあれば、もっと色々な取り組みをしたいという意見もある。受験クラスですので、選択者の意見を採用していますが。

【授業者】池田 勝利 【科目】物理 【対象学年】3年 創大理系

◇実践内容

2学期中間考査終了後から3学期にかけて、2人1組による10回連続の生徒実験（1実験に2～3コマの授業を充当）を行っています。

物理教室への移動が速やかになり、チャイムが鳴る前から準備や実験に取り組むようになった。

実験機材の扱い方、データ処理の仕方、レポートの書き方など、大学進学後に必要な技能について習熟が進み、OJT的な取り組みともなっている。

【授業者】西田修英 【科目】書道、国語 【対象学年】2年 創大文系

◇実践内容

実技、芸術鑑賞ディスカッション。

深みを知ることができる。

【授業者】清水田 孝史 【科目】数学 【対象学年】2年 受験理系

◇実践内容

演習問題の解説を生徒に行わせ、質疑も生徒を中心に行った。

ペアワーク等、積極的に取り入れるなか、教え合いの雰囲気をつくるように努力した。

生徒同士で教え合うことが増えた。

ICTを活用することで、できることの幅は広がります。今後が楽しみです。”

【授業者】小西弘子 【科目】理科 【対象学年】1年

◇実践内容

生徒が教え合って互いに理解を深めることができた。

【授業者】落合聡 【科目】日本史／政経 【対象学年】3年 創大文系

◇実践内容

書き込みプリントを用意しての調べ学習→班で問題作成→問題を交換して解答を書く 寝ているメンバーはいなくなった。

寝ているメンバーは減り、50分間の生徒活動は行われているのですが、それがアクティブ（能動的・主体的・積極的）なのか、心の中はわからない。体は動いているがパッシブ（受動的・消極的）なのではないかと危惧している。よって、私のしているのは、アクティブラーニングではないと感じている。

【授業者】森田尚子 【科目】家庭基礎 【対象学年】2年 創大文系

◇実践内容

ペア活動、少人数での発表、3人組即興ディベート、グループ活動（調理実習など）

個人活動がわかりやすい。グループ内での人間関係がよくなる。

時間内での達成度と個人活動の評価の問題。

【授業者】福田 淳 【科目】英語 【対象学年】3年 創大文系

◇実践内容

グループに分かれて、ディスカッション 片言ではありますが、人見知りせずに英語を話せるようになった。

レベルの高い生徒は、低きに流れないようにと注意してきました。

【授業者】中前 弘 【科目】英語 【対象学年】1年

◇実践内容

- ペアワーク・グループワークを多く取り入れました。
- 特に授業をオールイングリッシュで行うことにこだわりを持っていたので、日本語を確認しなければならないところや、意味を確認すべきところなどでは、短時間の生徒同士での確認・教えあいを積極的に取り入れました。
- ライティングの授業ではピア・チェックも取り入れました。
- ブレインストーミングを各自でした後、グループやペアで共有などもよくさせました。
- リーディングではテキストの本文が4つのパートに分かれているため、それぞれの生徒にパートの担当を持たせてその範囲を同じパート内の生徒で調べ理解させた後、別のパートの生徒とごちゃ混ぜグループを作って、内容を共有し教えあうというジグソー法も実践しました。

私が1年目ですのでこれまでの生徒との変化を論じるのは難しいのですが、他者と協力してアイデアや意見を出し合うことが非常にスムーズにできているように感じます。(グループによる差はありますが)

また、授業中に寝たりうとうとしたりという生徒は非常に少ないです。

自身のアクティブラーニング実践がグループワークありきになってしまったようにも感じるので、アクティブラーニングを柔軟に考え、工夫していきたいと思っています。

成果と分析

1. 2016 年度卒業の海外大学進学者数

アメリカ創価大学 11名（ブリッジプログラム含む）、グリネルカレッジ、コルビーカレッジ

2. 2016 年度主な外部コンクール（全国大会）での活躍

日米露3国による核不拡散会議 参加（2016年 4月）

高校模擬国連国際大会 日本代表（2016年 5月）

第9回「漢語橋」世界中高生中国語コンテスト出場（2016年 7月）

『「世界津波の日」高校サミット in 黒潮 参加

3. 英語外部検定成績

英語能力検定試験合格者数（単位：人）

2016年度	1級	準1級	2級	2級以上
1063名中	4 (0.37%)	45 (4.2%)	287 (26.9%)	336 (31.6%)

高校42期 英語成果報告(最終)

CEFR/ TOEIC/ 英検 レベル別人数

CEFR	TOEIC	12月	3月	英検	1年次3学期	2年次3学期	3年次2学期	3年次3学期
C1(945～)	900-990	1	1	1級	0	0	3	5
B2 (785～)	800-899	5	8	準1級	1	8	19	27
	700-799	8	16					
B1 (550～)	600-699	21	24	2級	46	107	133	147
	500-599	32	45					
A2 (225～)	400-499	61	66	準2級	121	93	69	56
	300-399	92	77					
	200-299	26	43					
A1(120～)	100-199	2	6	3級以下	145	150	132	121
	10-99	0	0					
計		248	286		313	358	356	356

*英検の合格者数は、1次試験のみの合格者数も含む。

SGH 英語到達目標 達成度

42期英検2級以上到達度	56%
--------------	------------

*41期英検2級以上到達度は38%

○英検1級、準1級、2級の1次試験合格者もしくはTOEIC IPのリスニングもしくはリーディングもしくはその両方で275点以上の場合、CEFRのB1レベル以上とする
○この内、B2レベルは28名、C1レベルは5名となります。

海外大学合格者 人数及びSATスコア

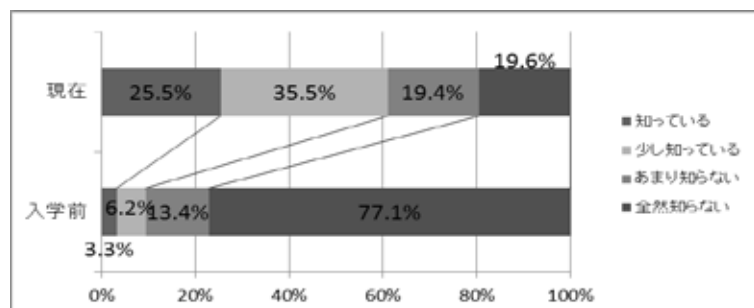
Early出願者	6	Early合格者	5		※各セクション200-800	
					Reading & Writing	Math
Regular出願者	1+ 6	Regular合格者	4	800-700	1	8
		Bridge合格者	2	699-600	4	4
		合格者 計	11	599-500	7	0
				499-400	0	0

3.1. アンケート結果（生徒アンケート・高3アンケート・教員アンケートより）

2月に1年間を通してのSGH活動に対するアンケートを全校生徒対象に行った。

また、3年生に対して、自分が変わったきっかけなどをさらにアンケートを行った。そして、教員全員にも生徒の様子を聞くアンケートを行った。ここで抜粋して、分析を行う。詳細データは別途

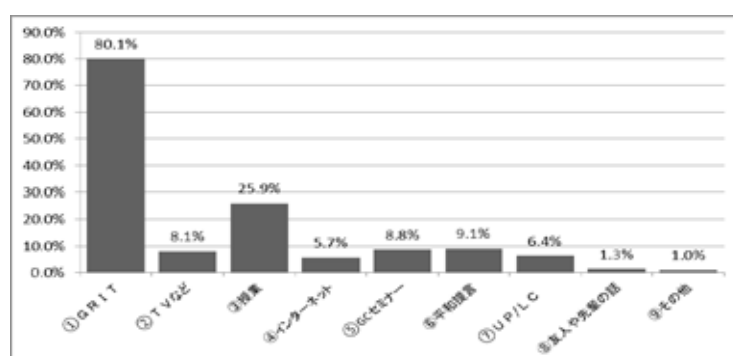
問1. 国連の提唱するMDGsやSDGsを知っていましたか（いますか）。



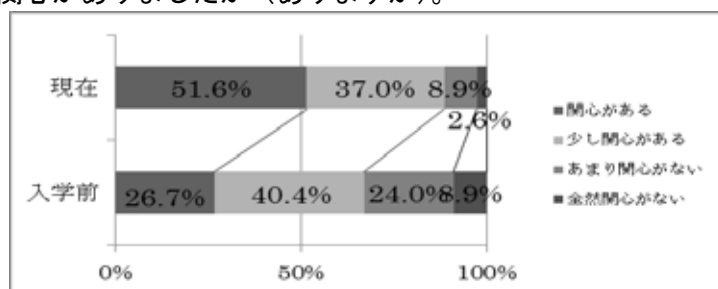
入学前には「知っている」「少し知っている」が10%に満たなかったのが、現在は知っているが60%を超えた。高3の答えにあるように、GRITを通じて、知った生徒が多い。

ただ、「全然知らない」が現在も20%いたので、もっとわかりやすい授業を考えていきたい。ただ、質問がMDGsについても問うているので、知らないと答えた生徒もいるとのことだった。

高3問1. 次のどのことから、国連の提唱するSDGsを知りましたか。



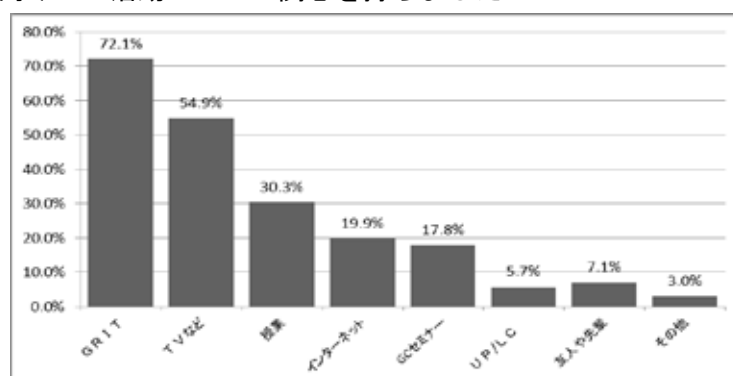
問5. 世界で起きている紛争や平和に向けての活動について関心がありましたか（ありますか）。



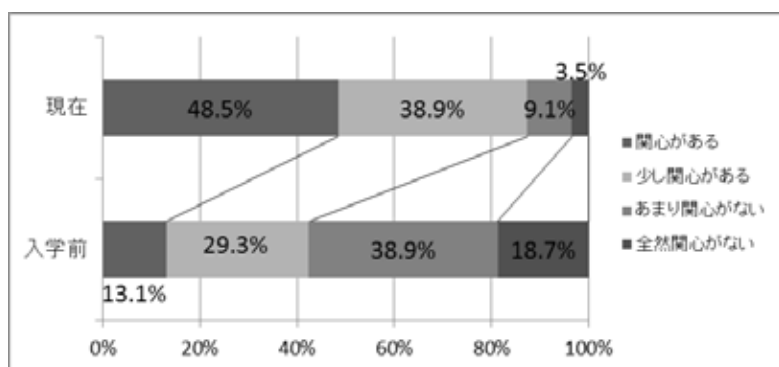
入学前にも「(少し) 関心がある」が合わせて67%いた。これも高い割合だと思うが、現在は合わせて約89%となっている。GRITでの影響が72%あるということなので、今後もGRITを大切にしていきたい。また、と同時にTV・インターネットを通して関心をもっている生徒が多い。

この辺りは、メディアリテラシーの教育も大切だと感じる。

高3問5. 次のどのことから、世界で起きている紛争や平和に向けての活動について関心を持ちましたか



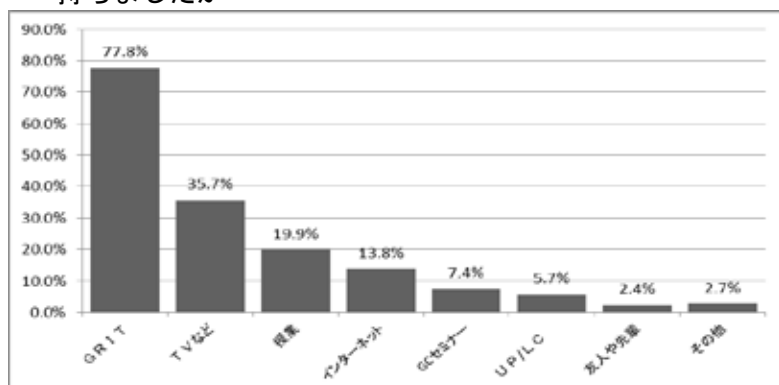
問6. (高3) 世界の食糧事情について関心がありましたか (ありますか)。



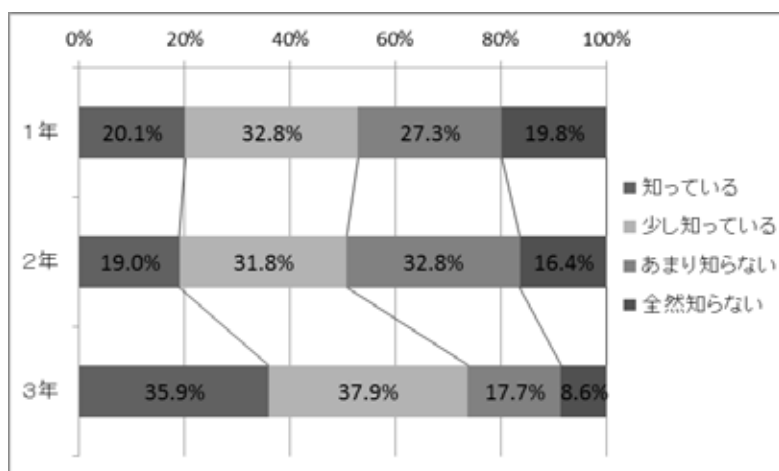
高校3年生の答えを見ると、食糧事情に現在関心がある生徒が9割弱になっている。それは、GRITの影響が77%ということもあり、模擬国連のテーマが「食糧問題」であったからだと思われる。

平和への関心は入学前の関心度が高いけれども、食糧事情への関心度も現在と同等の関心度になっているので、非常に関心が高まったと思われる。

高3問5. 次のどのことから、世界の食糧事情について関心を持ちましたか

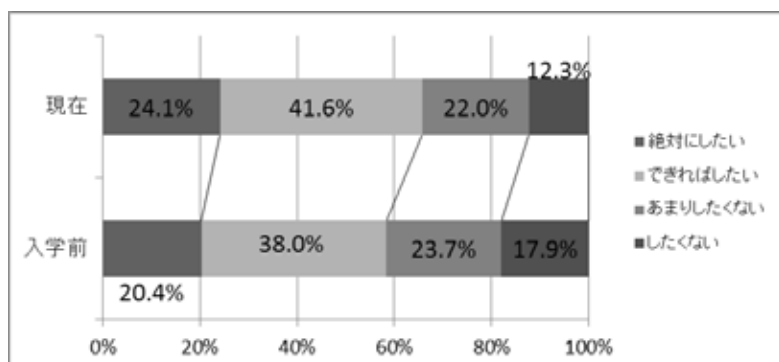


問9. 国際的な合意形成の難しさを知っていますか。



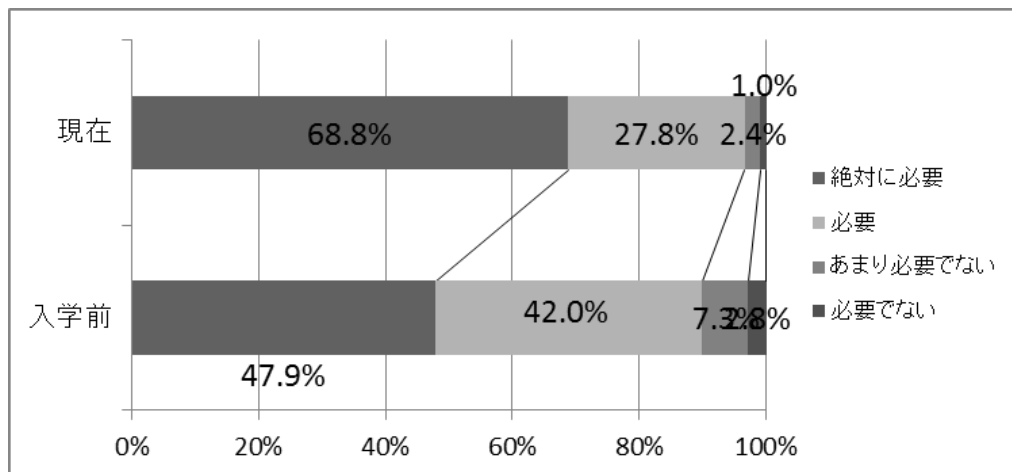
模擬国連をGRITで行ったことにより、高校3年が合意形成の難しさを非常に感じる結果がでた。模擬国連での交渉は非常に大変だったとの声も多く、実感につながったと思われる。

問11. 将来海外で活躍したいと思っていましたか (思いますか)。

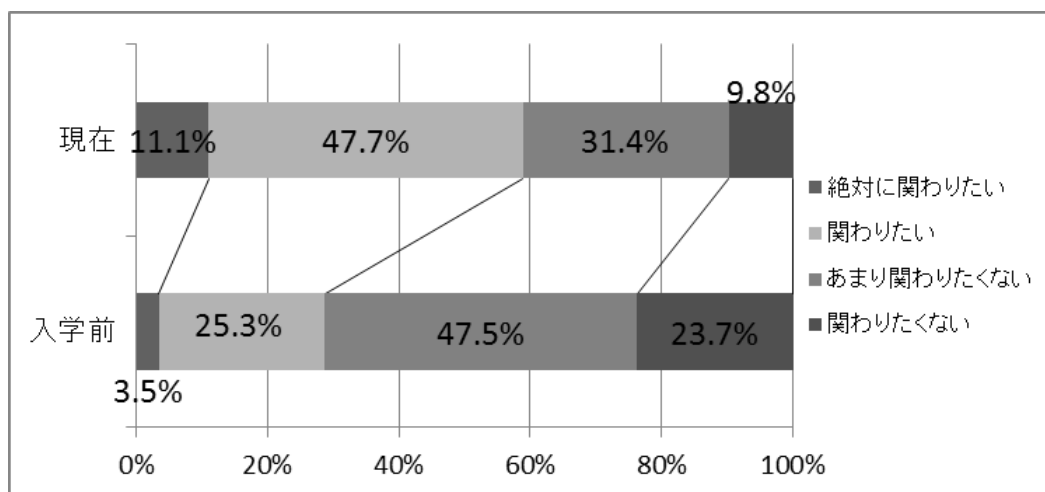


入学前から「活躍したい」と思う生徒は58%と非常に高い。それが、減ることなく、増えている。

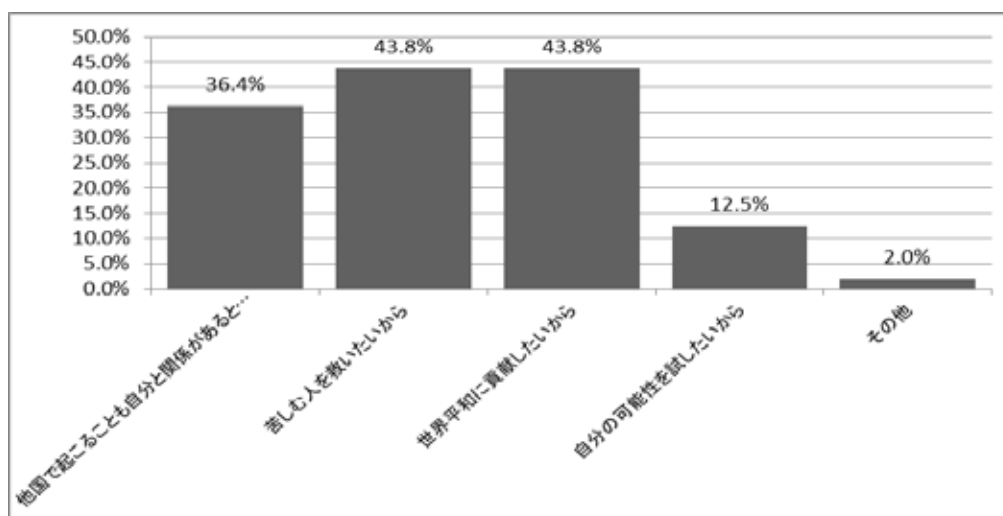
問 14. 海外で通用する語学力は必要であると思いますか。



問 17. (高3) グローバリシューに自分が関わりたいと思っていましたか (思いますか)。

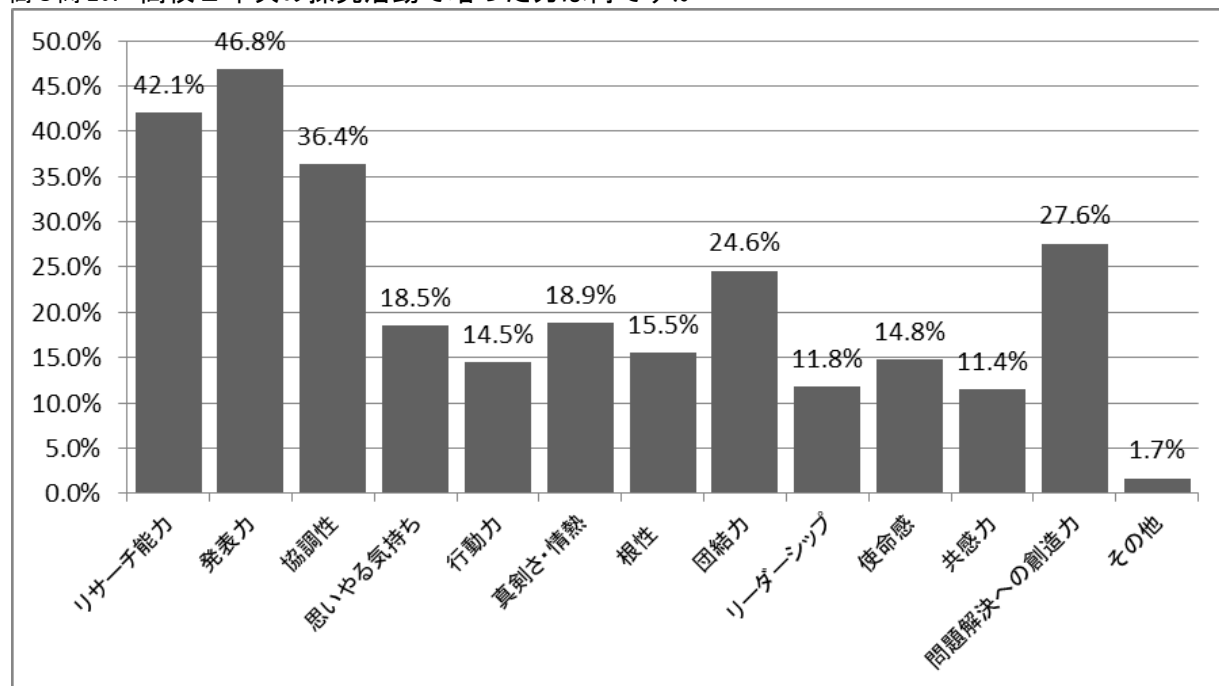


高3問 17. グローバリシューに自分が関わりたいと思った理由は何ですか



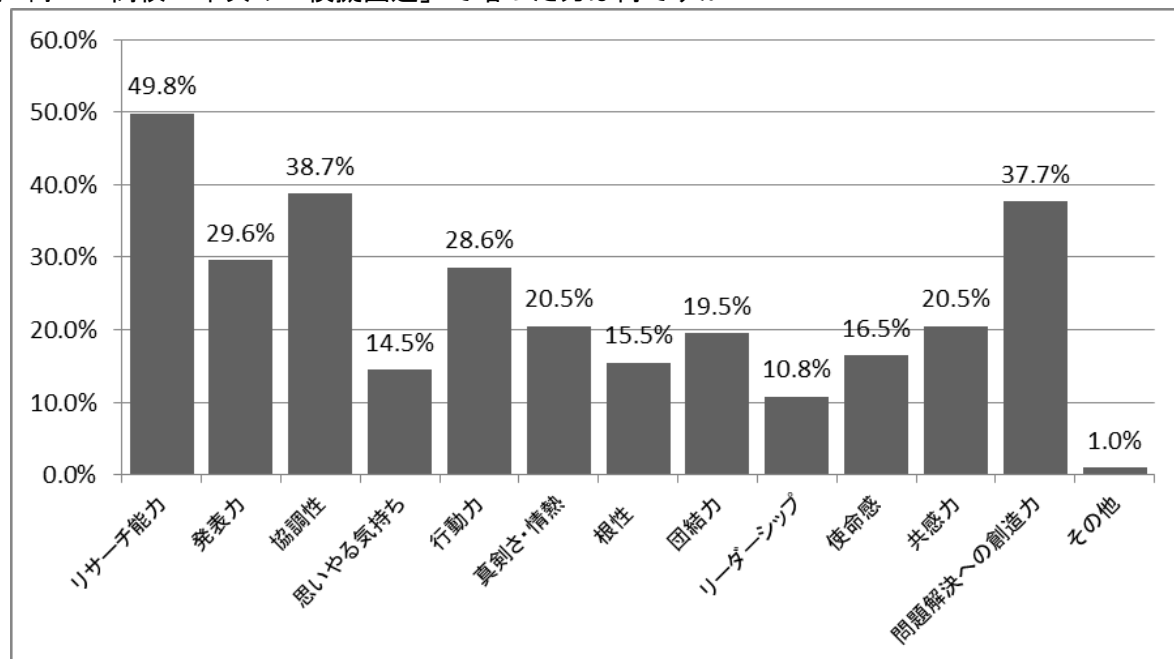
グローバルイシューに関わりたと思う生徒が入学前でも28%強おり、高いと思うが、現在は58%強と非常に高い結果となって卒業していった。その理由としても、自分のためというより、他人のため、他国のためと感じている、分断主義ではなく、世界市民を育成したいという本校のSGHの目的通りの結果となったと思う。

高3問20. 高校2年次の探究活動で培った力は何ですか



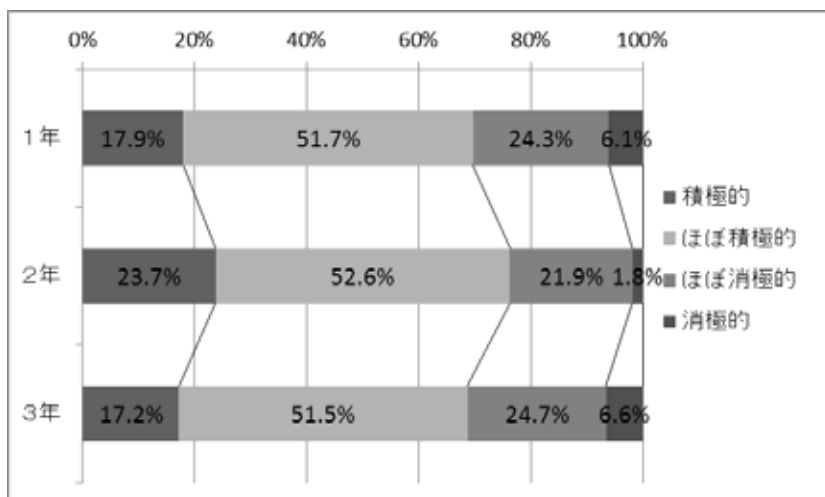
高2の探究活動では、何度もプレゼンテーションを行うので、発表力がついたとの意見となった。さらに、問題解決への創造力がつき、グループワークを行ったので、協調性・団結力が見についたとのことだった。

高3問21. 高校3年次の「模擬国連」で培った力は何ですか



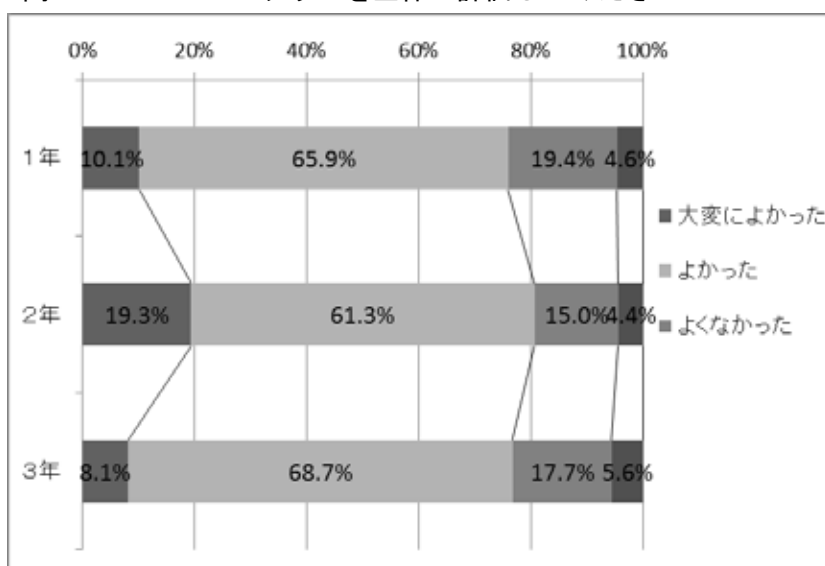
高3の模擬国連では、高2の発表に比べるとリサーチ能力が高くなり、みんなで一つの問題を解決しようとするので、問題解決への創造力がついたとの意見が多かった。また、実際に交渉を行うため行動力がついたとの意見も多かった。

問 29. あなたは GRIT に積極的に取り組みましたか



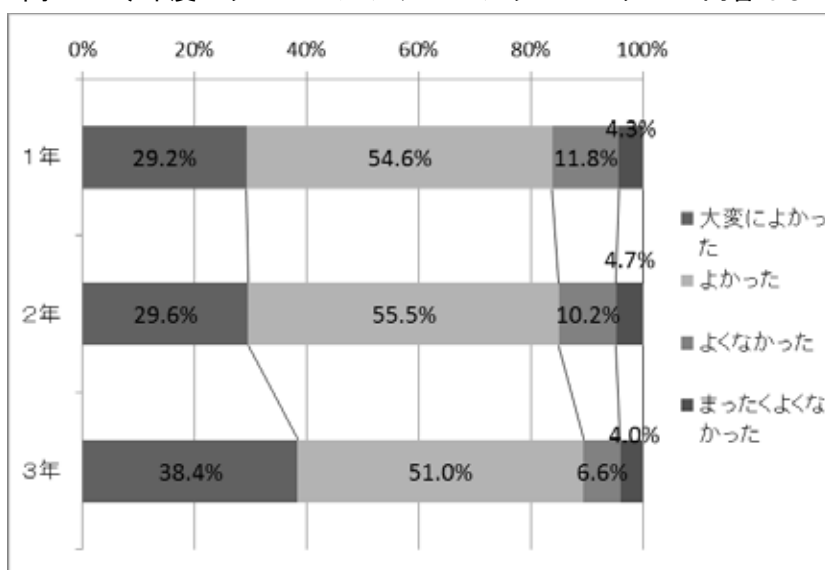
生徒のGRITへの取り組みは積極的な生徒が7割前後である。ほぼ消極的な生徒が積極的になるような仕掛け、取り組みが増えるように考えていきたい。

問 31. GRIT のプログラムを全体で評価してください



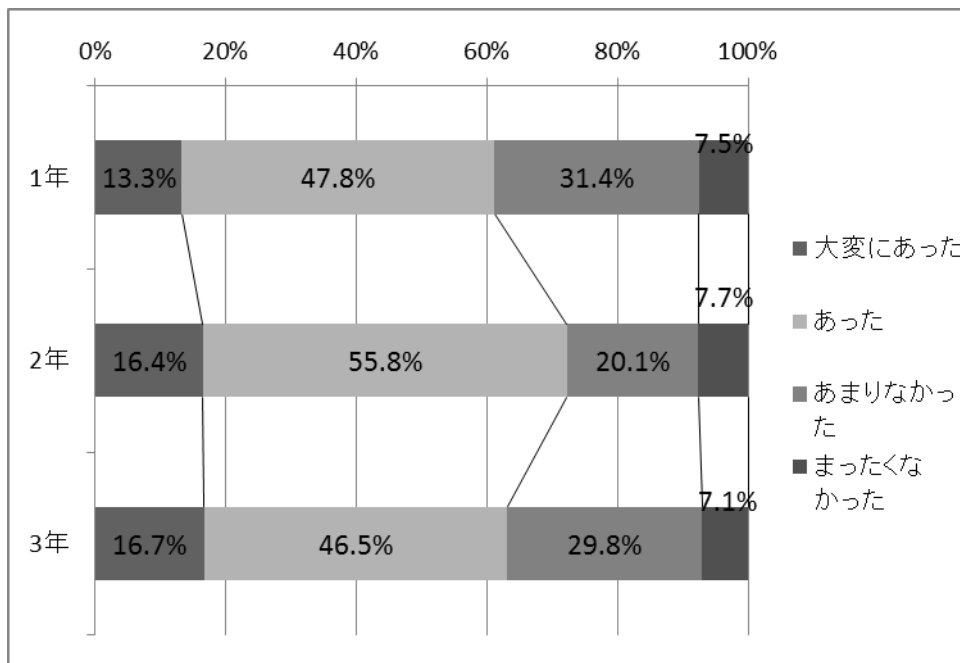
生徒のGRITの評価は「よかった」が60%を超えている。「大変によかった」をあわせるとどの学年も75%を超えた。「よかった」の生徒が「大変によかった」と思ってもらえるプログラムを考えていきたい。

問 35. 今年度のグローバルシチズンシップセミナーの内容はよかったですか



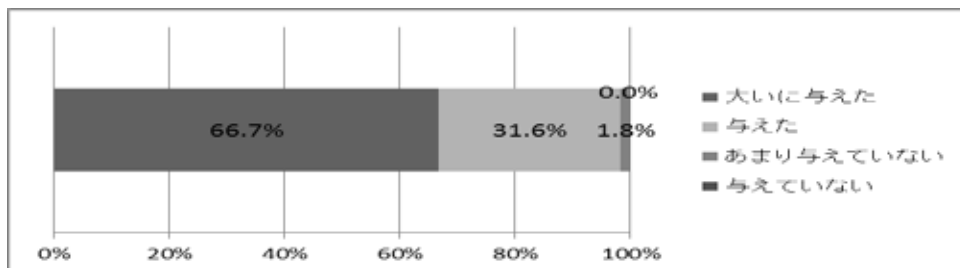
グローバルシチズンシップセミナーへの評価は、GRITよりさらに高くなった。特に3年生での評価が高くなっている。GRITでの内容が身につく、関心が高まったのと、英語の講演が多かったのも、語学力があがり、講演の内容が直接理解できたということと考える。この点は来年調査をしてみたいと思う。

問 40. GRIT や本校の SGH の取り組みはあなたの考え方や行動に影響をあたえましたか



GRITだけではなく、SGHの取り組みに影響を受けた生徒が60%以上であった。これは本校のSGHが順調に進んでいるからだと考えられる。どう影響があったのか、などさらに調査を進めていきたい。

(教員) 問 5. 本校のGRITプログラムは生徒に良い影響を与えたと思いますか

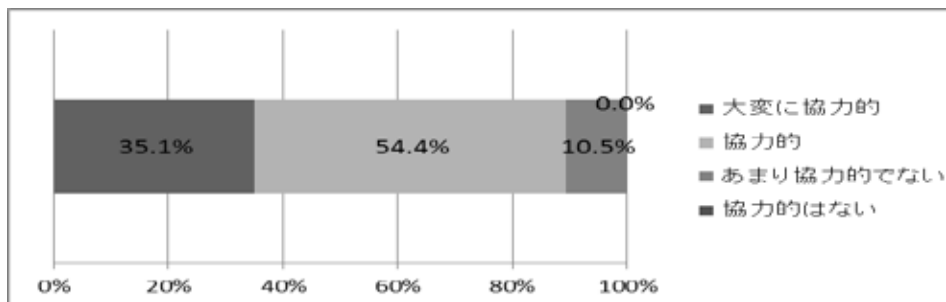


この3問は教員アンケートの抜粋である。教員はGRITによって生徒に影響を与えていると感じていただいている。

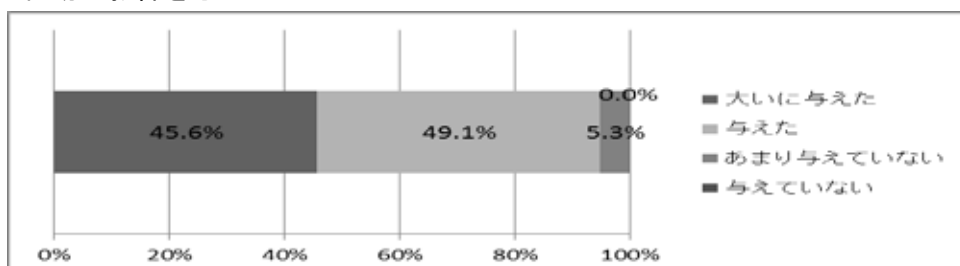
さらに担当していたく苦労もあると思われるが、「協力的」とであると答えてくださる要因が90%弱いるのが大変にありがたいと思う。本校のSGHが前に進んでいるのは、担当していただく教員のみなさまのおかげである。

さらに、このプログラムが生徒だけでなく教員にも影響を与えているということがありがたく感じる。もっとよいプログラムを開発し、生徒と教員とともに成長をしていきたいと考えている。

(教員) 問 10. あなたは教員として本校のSGHプログラムに協力的でしたか



(教員) 問 13. GRIT や本校の SGH の取り組みはあなたの教師としての考え方や行動に影響を与えましたか



関西創価高校SGH GRIT全校アンケート結果

実施日：2017/2/4

回答者数 1年 348(98.3%)

2年 274

3年 198

A. 関西創価高校に「入学前」と「今」の状況をそれぞれ教えてください。

問1. 国連の提唱するMDGsやSDGsを知っていましたか（いますか）。

入学前	①知っていた	②少し知っていた	③あまり知らなかった	④全然知らなかった
1年	2.0%	4.6%	13.2%	80.2%
2年	5.8%	8.8%	15.3%	70.1%
3年	2.0%	5.6%	11.1%	81.3%
全体	3.3%	6.2%	13.4%	77.1%
現在	①知っている	②少し知っている	③あまり知らない	④全然知らない
1年	19.3%	29.3%	22.4%	29.0%
2年	24.8%	40.5%	20.1%	14.6%
3年	37.4%	39.4%	13.1%	10.1%
全体	25.5%	35.5%	19.4%	19.6%

問2. 世界で起こっている環境問題について関心がありましたか（ありますか）。

入学前	①関心があった	②少し関心があった	③あまり関心がなかった	④全然関心がなかった
1年	15.8%	44.3%	29.6%	10.3%
2年	15.7%	39.8%	33.2%	11.3%
3年	14.1%	33.8%	34.3%	17.7%
全体	15.4%	40.2%	32.0%	12.4%
現在	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
1年	38.5%	48.0%	10.6%	2.9%
2年	36.5%	50.0%	10.6%	2.9%
3年	37.9%	49.5%	8.6%	4.0%
全体	37.7%	49.0%	10.1%	3.2%

問3. 世界で起こっている開発の現状や問題点について関心がありましたか（ありますか）。

入学前	①関心があった	②少し関心があった	③あまり関心がなかった	④全然関心がなかった
1年	14.1%	32.2%	38.5%	15.2%
2年	17.2%	32.8%	30.7%	19.3%
3年	11.1%	26.3%	37.4%	25.3%
全体	14.4%	31.0%	35.6%	19.0%
現在	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
1年	33.0%	45.7%	17.2%	4.0%
2年	34.7%	48.2%	13.5%	3.6%
3年	31.8%	49.5%	15.2%	3.5%
全体	33.3%	47.4%	15.5%	3.8%

問4. 世界で起こっている人権問題について関心がありましたか（ありますか）。

入学前	①関心があった	②少し関心があった	③あまり関心がなかった	④全然関心がなかった
1年	20.4%	43.4%	26.1%	10.1%
2年	20.8%	35.8%	29.6%	13.9%
3年	15.7%	46.5%	21.2%	16.7%
全体	19.4%	41.6%	26.1%	12.9%
現在	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
1年	44.3%	42.5%	10.9%	2.3%
2年	42.0%	42.3%	11.7%	4.0%
3年	48.0%	41.9%	6.1%	4.0%
全体	44.4%	42.3%	10.0%	3.3%

問5. 世界で起こっている紛争や平和に向けての活動について関心がありましたか（ありますか）。

入学前	①関心があった	②少し関心があった	③あまり関心がなかった	④全然関心がなかった
1年	27.9%	38.8%	25.9%	7.5%
2年	28.1%	40.1%	23.7%	8.0%
3年	22.7%	43.4%	21.2%	12.6%
全体	26.7%	40.4%	24.0%	8.9%
現在	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
1年	50.6%	36.5%	11.2%	1.7%
2年	46.7%	42.3%	8.0%	2.9%
3年	60.1%	30.3%	6.1%	3.5%
全体	51.6%	37.0%	8.9%	2.6%

問6. 世界の食糧事情について関心がありましたか（ありますか）。

入学前	①関心があった	②少し関心があった	③あまり関心がなかった	④全然関心がなかった
1年	14.7%	36.5%	36.8%	12.1%
2年	17.2%	35.4%	31.4%	16.1%
3年	13.1%	29.3%	38.9%	18.7%
全体	15.1%	34.4%	35.5%	15.0%
現在	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
1年	37.4%	45.7%	14.9%	2.0%
2年	31.8%	47.8%	16.8%	3.6%
3年	48.5%	38.9%	9.1%	3.5%
全体	38.2%	44.8%	14.1%	2.9%

問7. 核兵器の恐ろしさについて関心がありましたか（ありますか）。

入学前	①関心があった	②少し関心があった	③あまり関心がなかった	④全然関心がなかった
1年	44.8%	37.4%	12.9%	4.9%
2年	40.5%	38.0%	16.1%	5.5%
3年	38.9%	41.4%	13.1%	6.6%
全体	42.0%	38.5%	14.0%	5.5%
現在	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
1年	61.5%	29.9%	6.3%	2.3%
2年	60.9%	32.8%	4.7%	1.5%
3年	63.1%	29.3%	4.5%	3.0%
全体	61.7%	30.7%	5.4%	2.2%

問8. 国際的な合意形成の方法について関心がありましたか（ありますか）。

入学前	①関心があった	②少し関心があった	③あまり関心がなかった	④全然関心がなかった
1年	4.9%	12.9%	40.8%	41.4%
2年	8.0%	20.4%	32.8%	38.7%
3年	5.6%	11.1%	34.3%	49.0%
全体	6.1%	15.0%	36.6%	42.3%
現在	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
1年	14.9%	33.3%	37.4%	14.4%
2年	17.5%	37.6%	30.3%	14.6%
3年	17.7%	42.9%	28.3%	11.1%
全体	16.5%	37.1%	32.8%	13.7%

問9. 国際的な合意形成の難しさを知っていましたか（いますか）。

入学前	①知っていた	②少し知っていた	③あまり知らなかった	④全然知らなかった
1年	7.2%	16.1%	33.3%	43.4%
2年	5.8%	16.4%	35.8%	42.0%
3年	8.1%	14.1%	27.3%	50.5%
全体	7.0%	15.7%	32.7%	44.6%
現在	①知っている	②少し知っている	③あまり知らない	④全然知らない
1年	20.1%	32.8%	27.3%	19.8%
2年	19.0%	31.8%	32.8%	16.4%
3年	35.9%	37.9%	17.7%	8.6%
全体	23.5%	33.7%	26.8%	16.0%

問10. 将来留学したいと思っていましたか（思いますか）。

入学前	①絶対にしたい	②できればしたい	③あまりしたくない	④したくない
1年	22.4%	35.9%	24.7%	17.0%
2年	27.4%	36.9%	20.8%	15.0%
3年	22.7%	39.9%	22.2%	15.2%
全体	24.1%	37.2%	22.8%	15.9%
現在	①絶対にしたい	②できればしたい	③あまりしたくない	④したくない
1年	37.4%	38.2%	14.9%	9.5%
2年	35.0%	38.7%	15.7%	10.6%
3年	54.5%	28.3%	11.1%	6.1%
全体	40.7%	36.0%	14.3%	9.0%

問11. 将来海外で活躍したいと思っていましたか（思いますか）。

入学前	①絶対にしたい	②できればしたい	③あまりしたくない	④したくない
1年	20.4%	36.5%	26.1%	17.0%
2年	21.5%	41.2%	20.4%	16.8%
3年	18.7%	36.4%	23.7%	21.2%
全体	20.4%	38.0%	23.7%	17.9%
現在	①絶対にしたい	②できればしたい	③あまりしたくない	④したくない
1年	24.4%	40.8%	22.1%	12.6%
2年	21.5%	44.5%	23.0%	10.9%
3年	27.3%	38.9%	20.2%	13.6%
全体	24.1%	41.6%	22.0%	12.3%

問12. 将来、国際機関(UNDP、国連他)に関わる仕事がしたいと思っていましたか(思いますか)。

入学前	①絶対にしたい	②できればしたい	③あまりしたくない	④したくない
1年	5.8%	15.1%	30.7%	48.4%
2年	6.6%	25.9%	35.4%	32.1%
3年	5.6%	16.2%	30.8%	47.5%
全体	6.0%	19.0%	32.3%	42.7%
現在	①絶対にしたい	②できればしたい	③あまりしたくない	④したくない
1年	4.9%	21.3%	32.6%	41.2%
2年	6.6%	27.7%	36.5%	29.2%
3年	4.0%	25.8%	33.3%	36.9%
全体	5.3%	24.5%	34.1%	36.1%

問13. 世界の平和に貢献したいと思っていましたか(思いますか)。

入学前	①絶対にしたい	②できればしたい	③あまりしたくない	④したくない
1年	35.1%	52.6%	10.1%	2.3%
2年	21.9%	62.0%	12.0%	4.0%
3年	32.8%	54.0%	8.6%	4.5%
全体	30.1%	56.1%	10.4%	3.4%
現在	①絶対にしたい	②できればしたい	③あまりしたくない	④したくない
1年	50.9%	42.0%	6.0%	1.1%
2年	37.6%	52.9%	6.2%	3.3%
3年	57.6%	36.4%	3.5%	2.5%
全体	48.0%	44.3%	5.5%	2.2%

問14. 海外で通用する語学力は必要であると思いますか。

入学前	①絶対に必要だと思う	②必要だと思う	③あまり必要ではないと思う	④必要ではない
1年	48.0%	43.1%	6.6%	2.3%
2年	50.7%	37.6%	8.4%	3.3%
3年	43.9%	46.0%	7.1%	3.0%
全体	47.9%	42.0%	7.3%	2.8%
現在	①絶対に必要だと思う	②必要だと思う	③あまり必要ではないと思う	④必要ではない
1年	67.8%	28.4%	3.2%	0.6%
2年	69.3%	27.0%	1.8%	1.8%
3年	69.7%	27.8%	2.0%	0.5%
全体	68.8%	27.8%	2.4%	1.0%

問15. 世界で起こるニュースに対する関心がありましたか(ありますか)。

入学前	①関心があった	②少し関心があった	③あまり関心がなかった	④全然関心がなかった
1年	26.7%	40.8%	27.0%	5.5%
2年	26.6%	40.5%	24.5%	8.4%
3年	21.2%	35.9%	31.3%	11.6%
全体	25.4%	39.5%	27.2%	7.9%
現在	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
1年	52.6%	38.5%	7.2%	1.7%
2年	50.0%	41.6%	6.9%	1.5%
3年	54.0%	36.4%	7.1%	2.5%
全体	52.1%	39.0%	7.1%	1.8%

問16. グローバリシューに対する関心がありましたか（ありますか）。

入学前	①関心があった	②少し関心があった	③あまり関心がなかった	④全然関心がなかった
1年	15.5%	38.2%	36.8%	9.5%
2年	17.5%	40.1%	29.9%	12.4%
3年	13.1%	30.8%	40.4%	15.7%
全体	15.6%	37.1%	35.4%	12.0%
現在	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
1年	39.9%	44.8%	11.8%	3.4%
2年	39.1%	45.6%	9.9%	5.5%
3年	46.5%	42.9%	7.1%	3.5%
全体	41.2%	44.6%	10.0%	4.1%

問17. グローバリシューに自分が関わりたいと思っていましたか（思いますか）。

入学前	①絶対に関わりたい	②関わりたい	③あまり関わりたいくない	④関わりたいくない
1年	5.5%	25.6%	48.6%	20.4%
2年	6.6%	34.3%	42.0%	17.2%
3年	3.5%	25.3%	47.5%	23.7%
全体	5.4%	28.4%	46.1%	20.1%
現在	①絶対に関わりたい	②関わりたい	③あまり関わりたいくない	④関わりたいくない
1年	10.1%	45.1%	33.9%	10.9%
2年	10.9%	45.3%	34.7%	9.1%
3年	13.2%	55.8%	22.3%	8.6%
全体	11.1%	47.7%	31.4%	9.8%

問18. 日本や世界の歴史に関心がありましたか（ありますか）。

入学前	①関心があった	②少し関心があった	③あまり関心がなかった	④全然関心がなかった
1年	28.4%	31.3%	28.2%	12.1%
2年	24.8%	32.5%	29.2%	13.5%
3年	23.7%	29.3%	30.3%	16.7%
全体	26.1%	31.2%	29.0%	13.7%
現在	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
1年	37.1%	36.5%	21.8%	4.6%
2年	35.4%	43.8%	15.3%	5.5%
3年	35.4%	45.5%	14.6%	4.5%
全体	36.1%	41.1%	17.9%	4.9%

問19. 身の回りで起こる問題に積極的に関わろうとする気持ちはありましたか（ありますか）。

入学前	①あった	②少しあった	③あまりなかった	④なかった
1年	15.8%	33.6%	41.1%	9.5%
2年	15.0%	37.2%	36.1%	11.7%
3年	14.1%	31.3%	46.0%	8.6%
全体	15.1%	34.3%	40.6%	10.0%
現在	①ある	②少しある	③あまりない	④ない
1年	27.9%	47.4%	19.5%	5.2%
2年	26.3%	54.7%	16.4%	2.6%
3年	31.3%	50.0%	14.6%	4.0%
全体	28.2%	50.5%	17.3%	4.0%

B. 関西創価高校に「入学する前」と「今」を比較して教えてください。

問21. ディスカッション能力(対話力)は向上しましたか。

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	13.8%	57.5%	23.9%	4.9%
2年	15.7%	62.0%	18.6%	3.6%
3年	21.2%	62.1%	13.1%	3.5%
全体	16.2%	60.1%	19.5%	4.1%

問22. 英語の全般的な能力は向上しましたか。

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	12.1%	52.6%	30.3%	4.9%
2年	14.6%	44.2%	31.4%	9.9%
3年	20.2%	46.5%	28.8%	4.5%
全体	14.9%	48.3%	30.3%	6.5%

問23. 語学習得に挑戦したいという意欲は向上しましたか

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	37.3%	43.6%	14.7%	4.3%
2年	34.7%	42.0%	17.5%	5.8%
3年	42.9%	40.9%	10.6%	5.6%
全体	37.8%	42.4%	14.7%	5.1%

問24. プレゼンテーション能力について(発表する表現力)は向上しましたか

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	10.4%	47.3%	37.2%	5.2%
2年	19.0%	55.1%	22.3%	3.6%
3年	20.7%	48.0%	26.8%	4.5%
全体	15.8%	50.1%	29.7%	4.5%

問25. ICT(タブレット、PCなど)の活用力は向上しましたか。

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	20.7%	48.1%	25.1%	6.1%
2年	33.9%	52.6%	10.6%	2.9%
3年	19.2%	52.5%	23.7%	4.5%
全体	24.8%	50.7%	19.9%	4.6%

問26. 自分と意見の違う人の話や考え方を認める力は向上しましたか。

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	28.0%	57.3%	11.2%	3.5%
2年	24.5%	61.7%	11.3%	2.6%
3年	34.3%	55.6%	8.1%	2.0%
全体	28.3%	58.4%	10.5%	2.8%

問27. グループで活動するときにグループをまとめ課題を進める力は向上しましたか。

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	14.4%	51.9%	28.5%	5.2%
2年	16.8%	53.3%	26.6%	3.3%
3年	18.7%	51.0%	27.8%	2.5%
全体	16.2%	52.1%	27.7%	3.9%

問28. 何か困難なことにぶつかったときに解決方法を探そうとする力は向上しましたか。

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	22.5%	59.4%	15.3%	2.9%
2年	19.7%	60.2%	17.5%	2.6%
3年	29.8%	55.6%	12.1%	2.5%
全体	23.3%	58.7%	15.3%	2.7%

C. 現在の状況（あなた自身など）について教えてください。

問29. あなたはGRITに積極的に取り組みましたか

	①積極的	②ほぼ積極的	③ほぼ消極的	④消極的
1年	17.9%	51.7%	24.3%	6.1%
2年	23.7%	52.6%	21.9%	1.8%
3年	17.2%	51.5%	24.7%	6.6%
全体	19.7%	52.0%	23.6%	4.8%

問30. GRITに取り組んだあなたのクラスを評価してください

	①積極的	②ほぼ積極的	③ほぼ消極的	④消極的
1年	15.0%	57.2%	23.1%	4.6%
2年	29.2%	54.4%	14.2%	2.2%
3年	16.7%	58.1%	19.2%	6.1%
全体	20.2%	56.5%	19.2%	4.2%

問31. GRITのプログラムを全体で評価してください

	①大変によかった	②よかった	③よくなかった	④まったくよくなかった
1年	10.1%	65.9%	19.4%	4.6%
2年	19.3%	61.3%	15.0%	4.4%
3年	8.1%	68.7%	17.7%	5.6%
全体	12.7%	65.0%	17.5%	4.8%

問32. GRITの内容に触発されることはありましたか

	①大変にあった	②あった	③あまりなかった	④まったくなかった
1年	19.3%	52.4%	23.1%	5.2%
2年	24.1%	54.7%	17.2%	4.0%
3年	19.2%	55.6%	19.2%	6.1%
全体	20.9%	54.0%	20.1%	5.0%

問33. GRITでの友人の意見や姿に触発されることはありましたか

	①大変にあった	②あった	③あまりなかった	④まったくなかった
1年	14.7%	49.0%	30.8%	5.5%
2年	28.5%	50.7%	16.4%	4.4%
3年	19.7%	52.5%	23.2%	4.5%
全体	20.5%	50.4%	24.2%	4.9%

問34. 今までのグローバルシチズンシップセミナーの内容に触発されることはありましたか

	①大変にあった	②あった	③あまりなかった	④まったくなかった
1年	26.8%	45.0%	23.1%	5.2%
2年	31.0%	46.4%	15.3%	7.3%
3年	32.3%	49.5%	14.1%	4.0%
全体	29.5%	46.5%	18.3%	5.6%

問35. 今年度のグローバルシチズンシップセミナーの内容はよかったですか

	①大変によかった	②よかった	③よくなかった	④まったくよくなかった
1年	29.2%	54.6%	11.8%	4.3%
2年	29.6%	55.5%	10.2%	4.7%
3年	38.4%	51.0%	6.6%	4.0%
全体	31.5%	54.0%	10.0%	4.4%

問36. GRITや本校のSGHの取り組みは、あなたの進路に影響があったと思いますか。

	①大変にあった	②あった	③あまりなかった	④まったくなかった
1年	11.0%	28.8%	42.7%	17.6%
2年	16.1%	27.7%	38.3%	17.9%
3年	9.6%	28.3%	37.9%	24.2%
全体	12.3%	28.3%	40.0%	19.3%

問37. 大学を選ぶときに国際化に重点を置く大学への進学を希望します（しました）か

	①大変に希望する	②希望する	③あまり希望しない	④希望しない
1年	22.2%	34.3%	28.5%	15.0%
2年	20.4%	35.0%	28.1%	16.4%
3年	20.7%	41.4%	19.2%	18.7%
全体	21.2%	36.3%	26.1%	16.4%

問38. 海外大学（S U A含む）への進学、海外大学院（大学卒業後）への進学を希望しますか

	①大変に希望する	②希望する	③あまり希望しない	④希望しない
1年	8.6%	8.1%	29.4%	53.9%
2年	7.7%	11.7%	29.9%	50.7%
3年	7.1%	8.6%	26.3%	58.1%
全体	7.9%	9.4%	28.8%	53.8%

問39. GRITや本校のSGHの取り組みを通して、成長できたと思いますか

	①大変にできた	②できた	③あまりできなかった	④まったくできなかった
1年	12.4%	56.2%	25.9%	5.5%
2年	19.7%	57.3%	19.3%	3.6%
3年	16.2%	55.6%	23.2%	5.1%
全体	15.8%	56.4%	23.1%	4.8%

問40. GRITや本校のSGHの取り組みはあなたの考え方や行動に影響をあたえましたか

	①大変にあった	②あった	③あまりなかった	④まったくなかった
1年	13.3%	47.8%	31.4%	7.5%
2年	16.4%	55.8%	20.1%	7.7%
3年	16.7%	46.5%	29.8%	7.1%
全体	15.1%	50.2%	27.2%	7.4%

問41. 今年の創立者の平和提言は読みましたか

	①読んだ	②少し読んだ	③これから読む	④読まない
1年	12.8%	36.8%	36.8%	13.6%
2年	15.0%	33.6%	38.3%	13.1%
3年	16.8%	38.6%	32.0%	12.7%
全体	14.5%	36.2%	36.2%	13.2%

関西創価高校SGH 3年生アンケート

実施日：2017/2/28

回答者数
(複数回答可)

297(回答率83.4%)(未回答者は受験生のため登校していない生徒)

問1. 次のどのことから、国連の提唱するSDGsを知りましたか

①GRITでの取り組み	②TV・新聞・ニュース	③授業	④インターネット
80.1%	8.1%	25.9%	5.7%
⑤グローバルシチズンシップセミナー	⑥創立者の平和提言	⑦UP・LC	⑧友人や先輩の話
8.8%	9.1%	6.4%	1.3%
⑨その他	1.0% (EarthKAM)		

問2. 次のどのことから、世界で起きている環境問題について関心を持ちましたか

①GRITでの取り組み	②TV・新聞・ニュース	③授業	④インターネット
68.4%	54.2%	19.5%	14.8%
⑤グローバルシチズンシップセミナー	⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話	⑧その他
13.5%	6.4%	2.0%	3.4%
⑧その他回答 (EarthKAM・地理B)			

問3. 次のどのことから、世界で起きている開発の現状や問題点について関心を持ちましたか

①G R I Tでの取り組み	②TV・新聞・ニュース	③授業	④インターネット
70.0%	45.1%	23.2%	18.2%
⑤グローバルシブズンシップセミナー	⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話	⑧その他
14.5%	6.4%	4.0%	2.0%
⑧その他回答 (EarthKAM・地理B・塾)			

問4. 次のどのことから、世界で起きている人権問題について関心を持ちましたか

①G R I Tでの取り組み	②TV・新聞・ニュース	③授業	④インターネット
71.7%	50.2%	23.9%	18.2%
⑤グローバルシブズンシップセミナー	⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話	⑧その他
13.5%	5.7%	5.4%	2.4%
⑧その他回答 (EarthKAM・地理B・もともと・長崎)			

問5. 次のどのことから、世界で起きている紛争や平和に向けての活動について関心を持ちましたか

①G R I Tでの取り組み	②TV・新聞・ニュース	③授業	④インターネット
72.1%	54.9%	30.3%	19.9%
⑤グローバルシブズンシップセミナー	⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話	⑧その他
17.8%	5.7%	7.1%	3.0%
⑧その他回答 (EarthKAM・地理B・もともと・長崎・本)			

問6. 次のどのことから、世界の食糧事情について関心を持ちましたか

①G R I Tでの取り組み	②TV・新聞・ニュース	③授業	④インターネット
77.8%	35.7%	19.9%	13.8%
⑤グローバルシブズンシップセミナー	⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話	⑧その他
7.4%	5.7%	2.4%	2.7%
⑧その他回答 (フィールドワーク・JICA見学・地理・塾・食事委員)			

問8. 次のどのことから、世界の平和に貢献したいと思いましたか

①G R I Tでの取り組み	②TV・新聞・ニュース	③授業	④インターネット
62.3%	31.0%	23.9%	10.4%
⑤グローバルシブズンシップセミナー	⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話	⑧その他
16.8%	7.4%	9.8%	5.4%
⑧その他回答 (現地へ行って・本・もともと・思っていない・クラブ・家族との会話)			

問9. 次のどの場面で、海外で通用する語学力は必要であると感じるようになりましたか

①GRITでの取り組み	②Global Camp	③海外の方の講演	④海外の方と話して
51.9%	19.5%	26.3%	29.6%
⑤授業	⑥友人や先輩の話	⑦UP・LC	⑧その他
36.0%	21.5%	7.4%	4.4%
⑧その他回答（フィールドワーク・中学校・インターネット・将来のことを考えて・クラブ・TV）			

問10. 次のどのことから、世界で起こるニュースに関心を持つようになりましたか

①GRITでの取り組み	②TV・新聞・ニュース	③授業	④インターネット
53.5%	55.9%	17.2%	18.9%
⑤グローバルシチズンシップセミナー	⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話	⑧その他
7.7%	7.7%	2.7%	2.4%
⑧その他回答（EarthKAM・受験勉強・TED・塾）			

問11. 次のどの場面で、ディスカッション能力(対話力)が向上したと感じますか

①G R I Tでの取り組み	②学校行事	③授業	④クラブや班活動
45.5%	32.7%	32.3%	27.9%
⑤UP・LC	⑥友人や先輩の話	⑦その他	
5.7%	25.6%	5.4%	
⑦その他回答（受験の面接・上がらなかった・下宿・寮・学校全般・フィールドワーク・なし）			

問12. 次のどのような場面で、プレゼンテーション能力(発表する表現力)が向上したと感じますか

①G R I Tでの取り組み	②学校行事	③授業	④クラブや班活動
61.6%	24.2%	30.6%	11.1%
⑤UP・LC	⑥友人や先輩の話	⑦その他	
6.1%	7.4%	5.1%	
⑦その他回答（フィールドワーク・中学・向上しなかった・塾・ビブリオバトル・大学研修）			

問13. 次のどのような場面で、ICT（タブレット、PCなど）の活用力が向上した理由は何ですか

①GRITでの取り組み	②学校行事	③授業	④クラブや班活動
53.2%	16.5%	41.4%	6.7%
⑤UP・LC	⑥友人や先輩の話	⑦その他	
5.7%	3.7%	6.7%	
⑦その他回答（家庭・独学・フィールドワーク・学級委員）			

問14. 次のどのような場面で、グループをまとめ課題を進める力が向上したと感じましたか

①G R I Tでの取り組み	②学校行事	③授業	④クラブや班活動
53.2%	26.9%	33.3%	24.9%
⑤UP・LC	⑥友人や先輩との関わり	⑦その他	
5.7%	8.1%	3.0%	
⑦その他回答（塾・部活・学級委員）			

問15. 他人のために献身的に働こうとする奉仕の気持ちを持った理由は何ですか

①人に支えてもらったことがあるから（感謝）	②人は助け合うことが大切と感じたから	③心を合わせる大切だから	④クラブや班活動
59.9%	35.0%	25.6%	33.3%
⑨その他	7.4%（経験から）		

問16. 自分と意見の違う人の話や考え方を認める力が向上した理由は何ですか

①相手に対する共感力が増したから	②多様性を認める心が芽生えたから	③話を聞くことの大切さを知ったから	④答えは一つではないから
39.1%	35.0%	30.0%	38.4%
⑤さまざまな体験をしたから(失敗や成功)	⑥協調性の必要性を学んだから	⑦その他	
25.6%	27.3%	1.7%	
⑦その他回答 ()			

問17. グローバル 이슈に自分が関わりたいと思った理由は何ですか

①他国で起こることも自分と関係があると感じたから	②苦しむ人を救いたいから	③世界平和に貢献したいから	④自分の可能性を試したいから
36.4%	43.8%	43.8%	12.5%
⑨その他	2.0%		

問18. 身の回りで起こる問題に積極的に関わろうとする気持ちを持った理由は何ですか

①身近な問題が世界につながると感じたから	②まず行動することが大事と思うから	③さまざまな体験をしたから（失敗や成功）	④人は助け合うことが大切と感じたから
46.5%	43.1%	21.5%	25.6%
⑨その他	2.0%		

問19. 何か困難なことにぶつかったときに解決方法を探そうとする力が向上した理由は何ですか

①相手に対する共感力が増したから	②多様性を認める心が芽生えたから	③話を聞くことの大切さを知ったから	④答えは一つではないから
41.8%	24.6%	25.6%	22.9%
⑤さまざまな体験をしたから(失敗や成功)	⑥協調性の必要性を学んだから	⑦その他	
24.6%	33.0%	3.0%	
⑦その他回答(塾・仲間がいるから)			

問20. 高校2年次の探究活動(創価大学でのプレゼン)で培った力は何ですか

①リサーチ能力	②発表力	③協調性	④仲間を思いやる気持ち
42.1%	46.8%	36.4%	18.5%
⑤行動力	⑥真剣さ・情熱	⑦根性	⑧団結力
14.5%	18.9%	15.5%	24.6%
⑨リーダーシップ	⑩使命感	⑪共感力	⑫問題解決への創造力
11.8%	14.8%	11.4%	27.6%
⑨その他	1.7% (パソコン力・土壇場力・語学力)		

問21. 高校3年次の「模擬国連」で培った力は何ですか

①リサーチ能力	②発表力	③協調性	④仲間を思いやる気持ち
49.8%	29.6%	38.7%	14.5%
⑤行動力	⑥真剣さ・情熱	⑦根性	⑧団結力
28.6%	20.5%	15.5%	19.5%
⑨リーダーシップ	⑩使命感	⑪共感力	⑫問題解決への創造力
10.8%	16.5%	20.5%	37.7%
⑨その他	1.0% ()		

関西創価高校SGH GRIT教員アンケート結果

実施日:2017/2/13

回答者数 56(回答率100%)

問1. 本校のGRITプログラムは、国連が提起する地球的課題の探究に取り組む内容になっていますか

	①大変によくできている	②よくできている	③あまりよくできてない	④よくできてない
回答	53.6%	46.4%	0.0%	0.0%

問2. 本校のGRITプログラムは、「生徒自ら地球的課題に挑み、解決する『使命感』を向上させるプログラムの取り組みになっていますか

	①大変によくできている	②よくできている	③あまりよくできてない	④よくできてない
回答	50.9%	45.6%	3.5%	0.0%

問3. 本校のGRITプログラムは、「世界の現状を知り、苦しみを分かち合う『共感力』を向上させるプログラムの取り組みになっていますか

	①大変によくできている	②よくできている	③あまりよくできてない	④よくできてない
回答	50.9%	43.9%	5.3%	0.0%

問4. 本校のGRITプログラムは、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての問題解決への創造力を向上させるプログラムの取り組みになっていますか

	①大変によくできている	②よくできている	③あまりよくできてない	④よくできてない
回答	45.6%	49.1%	5.3%	0.0%

問5. 本校のGRITプログラムは生徒に良い影響を与えたと思いますか

	①大いに与えた	②与えた	③あまり与えていない	④与えていない
回答	66.7%	31.6%	1.8%	0.0%

問6. あなたは本校のグローバルシチズンシップセミナーの内容が生徒に良い影響を与えたと思いますか

	①大いに与えた	②与えた	③あまり与えていない	④与えていない
回答	71.9%	26.3%	1.8%	0.0%

問7. 本校がSGHとなって、生徒のICTの取り組みが進んだと思いますか

	①大変に進んだ	②進んだ	③変わらない	④後退した
回答	64.9%	31.6%	3.5%	0.0%

問8. あなたは本校のLC(ラーニングクラスター)の内容が生徒に良い影響を与えたと思いますか

	①大いに与えた	②与えた	③あまり与えていない	④与えていない
回答	59.6%	35.1%	5.3%	0.0%

問9. あなたは本校のUP(ユニバーシティー・パートナーシップ)クラスの内容が生徒に良い影響を与えたと思いますか

	①大いに与えた	②与えた	③あまり与えていない	④与えていない
回答	57.9%	38.6%	3.5%	0.0%

問10. あなたは教員として本校のSGHプログラムに協力的でしたか

	①大変に協力的	②協力的	③あまり協力的でない	④協力的はない
回答	35.1%	54.4%	10.5%	0.0%

問11. 教員としてGRIT(SGH)の内容に触発されることはありましたか

	①大変に触発を受けた	②触発を受けた	③あまり触発されなかった	④触発されなかった
回答	54.4%	38.6%	5.3%	1.8%

問12. 教員としてGRIT(SGH)での生徒の意見や姿に触発を受けましたか

	①大変に触発を受けた	②触発を受けた	③あまり触発されなかった	④触発されなかった
回答	50.9%	45.6%	3.5%	0.0%

問13. GRITや本校のSGHの取り組みはあなたの教師としての考え方や行動に影響を与えましたか

	①大いに与えた	②与えた	③あまり与えていない	④与えていない
回答	45.6%	49.1%	5.3%	0.0%

問14. 自分の授業でアクティブラーニングの要素を少しでも取り入れましたか

	①ほぼ毎回	②週 1 ～ 2 回程度	③学期に 1 ～ 2 回程度	④実施していない
回答	38.6%	29.8%	24.6%	7.0%

問15. 自分の授業に探究学習の要素を少しでも取り入れましたか

	①ほぼ毎回	②週 1 ～ 2 回程度	③学期に 1 ～ 2 回程度	④実施していない
回答	17.5%	21.1%	45.6%	15.8%

問16. S G H の諸活動は、自分の授業や生徒に対する指導法・内容に影響を与えましたか

	①大いに与えた	②与えた	③あまり与えていない	④与えていない
回答	35.1%	45.6%	17.5%	1.8%

教員アンケート（抜粋）

- ① S G H の取り組みについて感じたことを書いてください。
 ② G R I T の影響について感じたことを書いてください。
 ③ G R I T の運営について感じたことを書いてください。

① グローバルリーダーを育成する取り組みとして必要不可欠なものと感じています。生徒とともに教員も大きな刺激を受け、成長できていると思います。
 ② 日常から世界の諸問題へ目を向ける生徒が増えたと感じます。本校の平和の信条を具体的な実践に移すことを考えることにつながっていると感じます。
 ③ 正直言って時間と労力が多くかかり大変な中、先生方は意欲をもって取り組み、とても頑張ってくさっていると思います。使命感のある素晴らしい先生方ばかりで、とても嬉しく感謝しています。

① 生徒主体に活動することで、探求の方途がおのずから身についているように感じています。また、その取り組みが生徒全体で行われていることで、学校全体が前進しているように感じています。
 ② 他者と協力して、答えを探求する姿勢が身についてきたと思います。そのため、授業への班活動の導入が容易になったと感じています。
 ③ 質の高い授業の構築には、多大な労力と英知の結集が必要であり、できるだけ多くの教員で協力することが必要と感じています。

① 将来、グローバルリーダーとなる人材育成において、とても大切な学びの場を提供できていると考えます。S G H の取り組みを通して、世界の状況、平和思想、創価教育を学んでいると思います。
 ② 多くの生徒にとって今まで触れた事のない、世界に目を向けるという事を実践し、学び探求していく事で人間としての幅を広げる事ができていると思います。世界のグローバル化が急激に進んでいる現在において、なくてはならない学びであり、素晴らしい活動であると感じております。
 ③ 様々な取り組みが行われており、運営側としては大変な事も多々あるかと思います。自分自身は今年度は特に何も貢献ができていない為、来年度は少しでも運営サイドの力になれる様に尽力していきたいと考えております。生徒以上に教師も学ぶ姿勢、探求心を持って、取り組んでいく事がとても大切な事であると考えます。

① S G H 委員会の先生達は、本当にすごいと思います。献身的な活動に心から感謝しています。S G H という響きは、学園のそして学園生の誇りになっていると思います。年々の進化は本当に素晴らしいです。
 ② ものの考え方、また人との接し方等、生徒達の根本的な生き方に影響をあたえていると思います。濃厚な人間接触がありますので、苦手な生徒はいますが、それは生きていく上で乗り越えていくべき課題だと思います。苦手な中でも、参加し、自分の役割を果たしていくことは生きていく力になると思います。

③ぎりぎりな運営感がありますが、時間のない中で工夫を凝らし、素晴らしい価値創造が出来ていると思います。いつもありがとうございます

①本当に多くの啓発を受けました。教職員の皆さんの情熱にも心打たれ、より良い教育を提供しようという取り組みからは学ぶことが多くありました。

②GRIT による生徒への啓発は素晴らしいものがあります。GRIT で環境・開発・人権・平和を扱っているため、今までは「難しすぎるかな？」と思われていたテーマも、各教科の授業で扱いやすくなっているのではないのでしょうか。私は本校の卒業生ですが、現在の生徒がこれほど横断的で高度なテーマを、3年間の継続性をもって学べるということがとてもうらやましく思います。

③既に議論されていることかもしれませんが、GRIT の授業を担当される先生方が、事前に内容を深める時間を取ることができればより実りあるものになるのかもしれませんが。中心者の先生が他の先生方の負担を考え、いつも完成されたものを用意してくれていますが、協力的な先生方が多くいる本校にとって、より多くの先生方で内容を揉んでみる時間が取れるなら、プラスになると考えます。

①生徒達が自ら学ぶという姿勢が多く感じられました。その姿勢が生かせるよう授業展開を考え続けていきたいです。

②テーマに沿って思考し、共有していく取り組みを行っていることで授業でもなぜ？に対して探究心が増しているように思います。

③授業の中で GRIT の取り組みの一部が行えるようになることが理想だと思います。

①国内でも少数の学校に認定されているというロイヤリティが私たちの取り組む姿勢を大きく前に進ませている

②GRIT が国内・海外 FW に大きな影響を及ぼしている。GRIT が全ての核になっている。

③運営については担任の先生方の大きなパワーを必要としている。そしてそれに全教員が応えていることが素晴らしい。

①SDGs の 17 分野・169 項目の目標について それぞれの生徒に意識の差はあっても、できることから始めることの大切さを学んだと思う。SGH 校になったことで多くの生徒が世界とつながっていることを強く自覚できた点で大いなる前進といえる。

②"5 年前に 50～70 前後だった国際協力機構 JICA エッセイコンテストの応募者数が夏季の課題で 4 年前から 150 を越えて応募があり、SGHA 以降は 200 越え本年度は 320 名 (高校全体の 30%) となった。意識の向上もあるが、内容面でも SGH としての取り組みをきっかけに、国際協力や途上国との交流に積極的に関わりたい希望を綴る生徒が飛躍的に増えました。JICA エッセイコンテスト 4 年連続「学校賞」を頂いたことで、JICA 関西からは毎年、関西創価高校の取り組みに対して、評価をして頂いています。

今後さらに、グローバルシンキング、ローカルアクティブに取り組んでいこうと思っています。"

③運営委員の皆さんの並々ならぬ熱意を感じます。とくにフィールドワークの多方面の取り組みと見事な活動報告に感心しきりです。

①私は担任をもっていないが、クラブの生徒のミーティングの発言などで SGH の取り組みに刺激を受けている様子を見て、自分自身も刺激を受けました。

②保健の授業を担当させて頂く中で、GRIT で鍛えられた、自ら学ぶ力や探究する力が、レポートや発表などに活かされているように強く感じ、レポートや生徒のプレゼンテーションがいつも楽しみにしています。

③着実に GRIT での成果を出していると感じています。GRIT の取り組みに乗り切れない若干のメンバーへの導入を担当・所属・生徒など全員がアイデアをだせるようになれば、更に活気がでるようになっていきます。

①世界の課題を学び、今までの自分の使命と学ぶ意味を振り返る機会になったのではないのでしょうか。

②世界への関心が高まった分だけ、語学的重要性も高まったように感じます。

③忙しくなりましたが、それ以上に生徒が世界にもっと関心を持ち、世界に目を向け、自分の目の前の課題に意味を生み出す姿を通して、教師の本来の使命をより深く果たしている充実感があります。

2016 年度第 1 回 SGH 運営指導委員会

○朝野富三 宝塚大学特任教授を迎えて

日時：平成 28 年 6 月 30 日(木) 14:00～15:45 会場：理事室

出席者：＜運営指導委員＞ 朝野富三 宝塚大学特任教授

＜関西創価高校＞ 武田学園長・中西校長・榊田副校長・本房教頭・大月教頭・千葉総合寮長・
藤原 SGH 委員

＜管理機関代表＞ 狩野創価教育センター参事・杉本創価教育副センター長

式次第：1. 2016 年度の取り組み、3 月～6 月の実施内容について（中西校長）

2. NIE の取り組み報告（藤原 SGH 委員）

3. 運営指導委員よりご助言・ご指導（朝野教授）

4. 意見交換

5. 挨拶（狩野参事、武田学園長）

○梶田叡一 奈良学園大学学長を迎えて

日時：平成 28 年 7 月 4 日(火) 12:00～14:00 会場：理事室

出席者：＜運営指導委員＞ 梶田叡一 奈良学園大学学長

＜関西創価高校＞ 武田学園長・中西校長・榊田副校長・本房教頭・大月教頭・千葉総合寮長
・池田 SGH 副委員長

＜管理機関代表＞ 太田創価教育センター長・杉本創価教育副センター長

式次第：1. 2016 年度の取り組み、3 月～7 月の実施内容について（中西校長）

2. NIE の取り組み報告（池田 SGH 副委員長）

3. 運営指導委員よりご助言・ご指導（梶田学長）

4. 意見交換

5. 挨拶（太田創価教育センター長、武田学園長）

○米田伸次 日本ユネスコ協会連盟理事を迎えて

日時：平成 28 年 7 月 7 日(木) 14:00～16:00 会場：理事室

出席者：＜運営指導委員＞ 米田伸次 日本ユネスコ協会連盟理事

＜関西創価高校＞ 武田学園長・中西校長・榊田副校長・本房教頭・大月教頭長
・千葉総合寮長・小山教諭

＜管理機関代表＞ 狩野創価教育センター参事・杉本創価教育副センター長

式次第：1. 2016 年度の取り組み、3 月～6 月の実施内容について（中西校長）

2. 広島フィールドワークについて（小山 SGH 委員長）

3. 運営指導委員よりご助言・ご指導（米田理事）

4. 意見交換

5. 挨拶（狩野参事、武田学園長）

<運営指導委員よりいただいたご助言・ご指導の要旨>

○（高大連携プログラム UP クラスについて）すばらしい取り組みではあるが、全校生徒の割合からして参加者が少ないのではないかと。もっとおもしろくさせる工夫が必要ではないか。いかにそのおもしろさをアピールするか。「教える」という目線の高さが問題。おもしろければ勝手に参加者が増える。どうやったら参加者が増えるか、さらに工夫を期待したい。

○（NIE について）いい取り組みではあるが、学校全体に広がりをもたせる工夫が必要。新聞も他紙との比較をさせてみてよい。新聞社によって同じ記事の取り扱いに大小があり、ものの見方・価値観の違いが学べる。

○高大連携プログラムも講師の先生方の講義を通じて違いに気づくことが大事。価値の多様性を尊重すること。違う価値観を際立たせて考えさせる。柔軟な価値観・多様性を育てることに役立ててほしい。

○大学生の社会に対する関心が薄い。新聞を読んでいない証拠。社会や政治に対する関心を持たせる努力が大切。多様な価値観の中でどうやって行くかを考えることが大事。それを育てるのが SGH の意義。

○10 年、20 年、30 年先を見て行うのが教育。短期的な結果を求めてはいけない。一貫教育で育ててきた生徒の中には、これまでに学んできたことに疑問を持つようになる人もいるかもしれない。そのことを踏まえての指導・育成が大切。SGH を通して他との接触・交流によって創価の良さがわかる。それを自然にできるようにすること。多感な高校生の時期、他の世界に触れさせる必要性を感じる。

○創価学園は強い確信を持っているのだから、もっと外へ目を向けるべき。それだけの力がある。SGH は単なるステイタスではない。それ以上の意味がある。

○多彩な取り組みには感銘を覚える。この調子で続けてほしい。その上で何をやるのか。生徒に具体的に何を身につけさせるのか。生徒の将来とどう結びつけるのか。アウトカムを明確に考えてほしい。この SGH の取り組みが何を生み出すのか。生徒の長い人生にどう関わるのか。教員間の共通理解が必要。生徒は、「平和」と言えば「平和」に、「人権」と言えば「人権」に対し、一生懸命取り組む。それが統合されることによって何につながるのか。各種のフィールドワーク等が一体化され、生徒個人の中でどういう像を結ぶのか。言語化してみる必要がある。

○御校には、「他人の不幸の上に自己の幸福を築くことはしない」という平和教育の指針があり、「すべての人が幸せになるための活動」という、宮沢賢治が言うような理念がある。人々の幸せ作りにいかに関わることができるか。高校の勉強が何に役立つのか。間接的であっても人のためになることを意識させること。

○高校、大学で学んだことが、人生の中で生きてくることが大切である。高校の時、ちらっと見た世界の貧困の現状を見て、どう考えるのか。人権が無視される世界の現状を見て、いかに将来の仕事につなげるのか、またどうすればよいか等、常に考えること。そのためには、感じる。言語化すること。

○進路指導を意識することも大切。高校で使命感を持てたら、その先の道を想定して進ませる。大学への進学も、この学科に行くと高校で習ったことがこう生きてくる。教員が一人ひとりの未来を意識して指導していく必要がある。SGH の学びが進路決定にさらに影響するように期待している。ある大学で行っているカンボジア研修は日本では見るできないものを見る機会となっている。カンボジアで働きたいと思う学生、教育面でカンボジアの発展に寄与・参画したいと希望する学生が出てきている。大学ごとの情報をいろいろ集めて、生徒につなげることが大事だ。

○関西創価高等学校の SGH の取り組みはよくやっていると感心している。今後は教科の殻を破っていろいろな授業を展開すること。他校は多文化教育をやっているが、それ以上のことをやってほしい。今行っている取り組みの意義を明確にして進めてほしい。

○仙台や石巻など震災の復興も、進んでいるところとそうでない所がある。今の子どもたちの様子も見かけは復興が進んでいるように見えるが、心の問題がある。PTSD のような問題もある。関西創価高校生が、被災した方々から、もしくはその心情を知る人から話を聞く機会があればよいと思う。

○皆が世界のためにとの思いで、そのような生き方をしていく手がかりとして、このような SGH のプログラムを行っているということを生徒に分からせることができれば素晴らしい。

○初年度に比べて大変にグレードアップした。すばらしい。生徒の成長・発達に合わせたプログラムになっている。国際大会への参加については海外を体験させようとしていることに感心した。国際教育研究会等にも出席して、この実践を発表してはどうか。大阪の私学にも刺激を与えてほしい。

○（SGH の研究報告書から）よい取り組みが行われている SGH には 4 つのポイントが見える。

①学校独自の教育理念・ポリシーがしっかりある。それを教員集団がしっかり共有している。関西創価高校はその最右翼だ。さらに教育理念の実践として二点ある。全校的に取り組んでいることと、理念を具体化して取り組んでいることだ。

②取り組み・実践をしっかり記録している。きちんとした報告になっている。

③学校の中だけで学ぶのではなく、大学・団体・地域等、外部との連携を通して学びのスタンスを広げている。

④生徒の変容がきちんと押さえられている。記録・分析がなされている。

課題を押さえた上で次に向けて検討しているとは思いますが、関西創価高校の今の課題は③と④ではないか。教育理念は、全体として読み取ることができるが、まだ遠慮した表現だ。すばらしい教育理念を持っているのだからきちんと書き記すべきだ。建学の精神をまとめたものを出す必要がある。

○（地域との連携について）関西創価高校はここでしかできない学びを広げている。全国的にもトップの取り組みと思う。しかし、SGH で言われていることとして、地域の学びを世界の問題にどうつなげていくのか。関西創価高校は、研究開発名として、「TRY 人の郷・交野から平和の創造に挑戦するグローバルリーダー育成プログラム」と謳っている。地域から世界へのテーマだが、「地域から」の部分が一年目はあいまいだった。公立校は、地域と密接な関係を持っているが、私立はその点が弱い。地域から世界への部分を強くすることが求められる。

○高校で問題を独占せず、地域とともに考える。SGH の重要な部分に関わることだ。社会の問題を学ぶことで学びに広がりが出る。地球的課題の解決をどうするか。他者の苦しみを自分の苦しみとしてどう受け止めるか。それは知識がないといけませんが、共感する想像力がまず求められる。トータルして学べるようにすることが必要と思う。

○関西創価高校が学んでいる SDGs。これは日本の教育全体の課題。「だれも置き去りにしない」。これは、「他人の不幸の上に自己の幸福を築くことはしない」という関西創価高校の平和教育の信条に通ずるところがある。21 世紀の大きな課題。他の学校に響くように取り組んでほしい。グローバル化の時代は、コミュニケーション能力が大切だが、学びの中に異文化理解があることが必要である。異文化理解と国際理解は同じではない。異文化理解をどのように国際理解に発展させるかである。

○ 高校生は地域に住んでいる仲間と一緒に問題を考えること。東北へ生徒を派遣するべき。「交野から世界へ」が大事である。東北に行って何を見て来たか。「いのち」が大切だということ。大切にすることはどうすることか。生きるとはどういうことか。皆が考え、学ぶこと。学校が変わり地域に入ることが、生徒と先生を変える。知識とともに豊かな感性、共感性、同苦の心が大切だ。

○（アンケート結果から生徒の変容の問題について）積極的に取り組めたとの数値が素晴らしい。だが積極的に取り組めたとはい、何がそうさせたかの質問があった方がよい。変わったと言うが、どういう風に変ったのか。その問いをもつこと。この結果で満足してはいけない。

○（探究型総合学習 GRIT について）よく考えられ、生徒もよく取り組んでいて、すごいと思う。一年で人権と平和について学習したとある。どうとらえるか、もっともっと深めてほしい。平和を学んで感じたこと。アンケート結果がよかったこと。もっと分析を。これでいいのかという問いかけが必要だ。生命を大切にすることが平和につながることをしっかり学ばせること。アンケートでさらに深いところまでわかる質問を工夫してほしい

○教員も生徒もともに学んでいくこと。この教育でこんな人を育てたいという目標・戦略を作ること。世界市民以外のキーワードも必要。そこから内面を引き出す。世界市民、グローバル人材、グローバルリーダーは、どう違うのか考え、目指すべき人材像からさらによりよいカリキュラム作りを期待したい。

○関西創価高校はユネスコスクールにも申請されている。リーダーを育成するための教育が SGH である。SGH で人材と ESD をどうつなげるか。ここを関西創価高校に期待したい。日本の SGH を牽引する存在に。哲学があり人間を育てている。これがあるから関西創価高校はよい。発信をもっと積極的にすべきである。教育哲学をもっと前面に出すように。いのちの尊厳。そういう理念を持った SGH 校になってほしい。自分のいのちを大切にすることをさらに期待している。

2016 年度 関西創価高等学校

スーパーグローバルハイスクール中間研究発表会

【日 時】 2016 年 11 月 19 日（土）10 時 30 分～15 時 30 分

【会 場】 関西創価高等学校

〒576—0063 大阪府交野市寺 3-20-1

TEL 072-891-0011

FAX 072-891-0015

【研究開発構想名】

「TRY 人の郷・交野から 平和の創造に挑戦する

グローバルリーダー育成プログラム」

【発表会の内容】

10:00 10:30 10:35 12:10 12:20 13:10

受付	校長挨拶	SGH プログラム GRIT 公開 模擬国連（3 年生全員）	昼食
----	------	-----------------------------------	----

（同窓会館 3 階）

（講堂）

（同窓会館 3 階）

13:15 13:25 14:15 14:25 14:55 15 15:15 15:20

取組紹介	模擬国連の取組 （教員・生徒） SGH ヒロシマ FW 報告 （生徒）	休憩	記念講演 日本ユネスコ協会連盟 米田伸次 理事	講評	挨拶
------	--	----	-------------------------------	----	----

（同窓会館 3 階）

【配布資料一覧】

1. 研究発表会内容（本資料）
2. GRIT 報告 3. UP 報告 4. 広島フィールドワーク報告
5. Learning Cluster 報告（1～5 までクリアファイル内）
6. GRIT 資料（模擬国連） 7. 全体報告会資料
8. キャンパスガイド 9. アンケート

【校長挨拶】(10:30 ～10:35 講堂)

【SGH プログラム GRIT 公開】(10:35 ～12:10 講堂)

GRIT とは、全校生徒を対象とした探究型総合学習プログラムで、毎月 2 回の土曜登校日に実施しています。「Global Research and Inquiry Time（地球的課題の調査と探究の時間）」の略称で、「根性・負けじ魂」という意味もあります。「環境」「開発」「人権」「平和」をテーマに掲げ、地球的課題の問題解決にグループで取り組む学習や、各界で活躍する講師によるセミナーを開催しています。常に自分の意見を持ち、ディスカッションを通して解決方法を探ることで、知識の習得だけではなく、積極性、主体性を育み、生徒同士の意識を向上させ、グローバルリーダーとしての使命感を高めていきます。

今回は、この GRIT の授業公開として、初の試みとなる 3 年生全員による**模擬国連**の模様を参観していただきます。

< 模擬国連の概要 >

議 題：『飢餓の終息に向けた農業分野での国際協力』

参加国：92カ国（3年生8クラス356名を92のグループに分け、それぞれのグループに国を割り当てています。）

進 行：10:35～10:40 前時の模様をDVDにまとめ放映

10:40～11:10 各国の決議案に対する討議（ロビー活動）

11:10～11:20 各国で再立案

11:20～12:00 再立案提出及び討議

12:00～12:10 決議

【昼食】(12:20 ～13:10 同窓会館3階 IKEDAHALL 以下、会場同じ)

事前に学校のお弁当を申し込まれた方は、当日、受付にて 500 円をお支払ください。食券をお渡しします。お弁当は、12 時 15 分以降に、受付にて食券と引き換えにお渡しさせていただきます。

【本校の取組について】(13:15 ～13:25)

校長より、本校の SGH の取り組みについて紹介させていただきます。
全ての課題研究推進の土台として、Active Learning を全教科の授業に導入し、①GRIT（全校生徒を対象とした探究型総合学習プログラム）、②SP（希望者による放課後の特別授業プログラム）、③LC（2・3年生の希望者から選抜されたメンバーが取り組むプログラム）という 3 つの SGH プログラムを実施しています。また、GRIT 等で学び、研究した内容を深めるためのフィールドワーク（FW）も国内と海外で行っています。

【模擬国連の取組・SGH ヒロシマ FW 報告】（ 13:25 ～14:15 ）

◇今回の模擬国連の取組について、担当教員と生徒がプレゼンテーションを行います。

◇今夏実施したヒロシマ・フィールドワークの報告を行います。生徒のプレゼンテーションと DVD をご覧ください。

【記念講演】（ 14:25 ～14:55 ）

テーマ 『ESD 持続可能な開発のための教育について』

講 師 日本ユネスコ協会連盟理事 米田伸次 先生

講師紹介

日本ユネスコ協会連盟理事、日本国際理解教育学会顧問、帝塚山学院大学国際理解研究所顧問。大阪市立大学文学部を卒業後、帝塚山学院中・高等学校の教諭に着任。その後、帝塚山学院短大・大学講師、帝塚山学院泉ヶ丘中・高等学校教頭・校長を経て現職。文部科学省日本ユネスコ国内委員会委員、日本ユネスコ協会連盟理事・青少年活動委員長、全国高等学校ユネスコ活動指導者協議会理事長、国際平和協会理事などを歴任。また、アジア協会・アジア友の会、シャプラニールなど、理事としてNGO活動に参加。日本ユネスコ協会連盟中央委員・世界寺子屋運動専門委員として、アジアの識字活動に取り組む。平成7年ユネスコ活動により文部大臣（当時）より功労賞受賞。本校のSGH運営指導委員。

【講評】（ 15:00 ～15:15 ）

本校SGH運営指導委員である朝野富三先生（ジャーナリスト・宝塚大学特任教授・元毎日新聞大阪本社編集局長）にご講評をいただきます。

【挨拶】（ 15:15 ～15:20 ）

2016 年度第 2 回 SGH 運営指導委員会

日時：2016 年 11 月 19 日（土）16:00～17:00

会場：同窓会館会議室

参加者：＜運営指導委員＞ 米田伸次 日本ユネスコ協会連盟理事・朝野富三 宝塚大学特任教授

＜関西創価高校＞ 武田学園長・中西校長・梶田副校長・千葉一夫総合寮長

＜管理機関代表＞ 太田総二郎創価教育センター長・狩野俊一創価教育センター参事・
杉本規彦創価教育副センター長

＜校長挨拶の要旨＞

本校の SGH 中間研究発表会にご出席いただき、また、ご講演ならびにご講評をいただき、心から感謝申しあげたい。また次への力をいただいたものと思う。

1 年生・2 年生は、この同じ時間帯で昨年見ていただいたような GRIT を、各クラスで、生徒たち、それから担任も入って行っていた。

今回の模擬国連については、この 3 年間の SGHA も含めての集大成として、3 年生が取り組んだが、この後、彼らは論文作成に挑戦する。今回の模擬国連で学んだこと、プラス、3 年間で自分たちが興味・関心を抱いたことをテーマにそれぞれが論文を作成し、さらにそれを最終的に英語のサマリーにまとめて、学園に残して卒業していく。後輩に、こうやって SGH の自分たちの取り組みがさらに続いていくようにと、今日の模擬国連のノウハウも、議長を務めた 4 人の女子プラス各クラスの中心者が全部ストックしている。来年の後輩は今回のような苦労をしなくてもいいようにとデジタル化して資料を作っている最中である。

最終報告会に向けて、加えて来年度・再来年度へ向けて、ぜひ厳しいご指導を賜りたい。

＜運営指導委員よりいただいたご助言・ご指導の要旨＞

○せっかくここまでされているので、これをどういう風に他のところに伝えていくかの取り組みを考えていかれたらどうか。例えば、You Tube に up するなど、多くの方に知ってもらう方法を考えるべき。これほどの取り組みをしているわけだから、他に対する刺激としても参考としても、その広げ方を一度考えていただきたい

○東京の創価高校が正式に SGH になったと聞いたので、兄弟校との連携も進めるべき。外に対して見える形で東西の連携と高大の連携をやってはどうか。

○今日の模擬国連は本当に感動した。最後にチョウドリ元国連事務次長に伝えると聞き、素晴らしいと思った。専門家から見れば非常に素朴な提案や意見かもしれないが、これだけ生徒たちが一生懸命に取り組んだのだから、やはり日本の若者達がこう考えていたのだということをいろんなチャンネルを使って伝えていくということは重要なことであると思う。SGH としての取り組み、教育としての取り組み、若者が取り組んだ成果を、いろいろなところで生かしていくという工夫をお願いしたい。

○生徒たちだけがいろいろとデータ集めてやっているだけではなく、裏付けとして JICA の出前授業を

うまく活用した点に感銘を受けた。

○関西創価高校の SGH の取り組みは全校の取り組みとなっていてすばらしい。一部の生徒、一部のところでの実践ではよくない。今日の模擬国連もそうだが、全員参加で、学校全体が教職員そして生徒が一体となって取り組んでいるというこの姿勢、取り組みが特筆すべきことだ。また今日の模擬国連一つとっても、生徒たちが主体的に自覚してリードしている。先生方は言いたいこともあると思うが、生徒を信頼し責任を持たせている。それゆえ、主体的に生徒たちが取り組んでいる、こういうところは関西創価高校独特の素晴らしいところであると思う。

○生徒の変容が見えた。今日の葉票会で広島へ行った生徒たちの発表に、フロアからの質問を許可された。フロアからの生徒への質問というのは普通あまりないもの。生徒たちもその質問に堂々と受け答えをしていた。ここに変容の一端があると思う。大変素晴らしかった

○学校のある交野から世界へという点を具体的に現す必要がある。地域で学び、地域でのさまざまな出会いの中で学ぶことが今後の課題。違う学校の同じ世代の人とのかかわりを作っていくことが必要である。同じ世代の高校生が、寝泊りしながら語り合い、学び合う体験があってもいいのではないか。今日の発表を見ていても、関西創価高校の生徒たちは非常に素晴らしい。だからこそ、同世代のいろんな仲間がいるということを知ることが、さらなる成長のためには必要だと思う。

○創価学園というのは、使命とか理念というものを共有するわけだから、ある意味で均質化してしまう。変わるためには、違うもの、異質なものとの中で、考えたり悩んだり迷ったりしながら変わっていく。上に変わるというのもあるが、横に変わるという部分の両方が必要かもしれない。地域との連携、学園以外の同じ世代の人たちとの交流をどのように広げていくかという努力が必要かもしれない。

○これからの教育で一番大事なことは子どもを信頼してチャレンジさせること。一人一人皆に可能性がある。その可能性を引き出すことこそ 21 世紀の教育であると思う。一人一人を変えていくことが、社会を変えていくことになる。皆に可能性がある。今日の模擬国連も、生徒を信頼してさせたという、この学校の勇気とチャレンジを賞賛したい。

スーパースターグローバルハイスクール最終研究発表会

【内容詳細】

13:00～13:20

◎挨拶

中西校長より、本校の SGH の取り組みについて説明させていただきます。全ての課題研究推進の土台としての **Active Learning** を全教科の授業に導入し、①GRIT（全校生徒を対象とした探究型総合学習プログラム）、②SP（希望者による高大連携プログラム）、③Learning Cluster (LC)（2・3年生の希望者から選抜されたメンバーが、英語で地球的課題について取り組むプログラム）という3つの SGH プログラムを実施しています。

13:20～14:20

◎生徒による GRIT プレゼンテーション

GRIT とは、全校生徒を対象とした探究型総合学習プログラムのことで、毎月2回の土曜登校日に実施しています。「Global Research and Inquiry Time（地球的課題の調査と探究の時間）」の略称で、「環境」「開発」「人権」「平和」をテーマに掲げ、地球的課題の問題解決にグループで取り組む学習や、各界で活躍する講師によるセミナーを開催しています。

今回は、本校が取り組んでいる4つのテーマ「環境」「開発」「人権」「平和」のそれぞれについて、今年1年間の課題研究の成果を発表します。2年生の代表生徒による4つのグループが下記のようにプレゼンテーションを行います。

※1グループ15分（発表10分・質疑応答5分）×4グループ

1. 【環境】：水棲生物と私たちの関係性
2. 【開発】：トイレの有様
3. 【人権】：いじめ撲滅のために
4. 【平和】：ISISの実態と世界が行うべき対処

14:20～14:35

◎休憩

3階ロビーにて、SGH 甲子園に出場予定のポスターセッションを行なっております。また、各フィールドワーク（広島・東北・東京・海外）に関する展示も行っておりますので、ぜひご覧ください。

14:35～15:25

◎海外フィールドワーク・ラーニングクラスター報告

はじめに、1月末から2月初旬にかけて実施したアメリカ・カリフォルニアでの海外フィールドワークの報告を行います。今回は、チョウドリ元国連事務次長、核時代平和財団のクリーガー会長とのセッションを行いました。

次に、ラーニングクラスターのメンバーが、課題研究のまとめとして、高校生の視点から考えた地球的課題の解決への提言を英語で発表します。

ラーニング・クラスターとは、2・3年生の希望者から選抜された24名で実施している特設プログラムで、活動の全てを英語で行い、「環境」「開発」「人権」「平和」の中からテーマを設定して1年間課題研究を行います。

1. 海外フィールドワーク報告
2. 【LC】: Zero Hunger
3. 【LC】: Education for Nuclear Abolition

15:25～15:40

◎教員による研究まとめ報告

本校 SGH 委員会委員長の小山より、GRIT を中心にした1年間の学びと、それを通じて生徒がどのように変容したかについて報告をします。また、SP クラスの中の1つである UP クラスの実施内容等についても説明します。

15:40～15:55

◎講評

本校 SGH 運営指導委員である梶田叡一先生（奈良学園大学学長・大阪府私立学校審議会会長・聖ウルスラ学院（仙台）理事長・松徳学院（松江）理事長・日本語検定委員会理事長）にご講評をいただきます。

15:55～16:00

◎閉会の挨拶

2016 年度第 3 回 SGH 運営指導委員会

日時：2017 年 2 月 23 日（木）16:40～17:35

会場：同窓会館会議室

参加者：

＜運営指導委員＞ 梶田叡一 奈良学園大学学長・米田伸次 日本ユネスコ協会連盟理事
・朝野富三 宝塚大学特任教授

＜関西創価高校＞ 中西校長・梶田副校長・千葉総合寮長・池田 SGH 副委員長、福田 SGH 副委員長

＜管理機関代表＞ 狩野俊一創価教育センター参事

＜運営指導委員よりいただいたご助言・ご指導の要旨＞

○小中高の一貫教育なので、自己完結型になってしまっている面がある。純粋性・価値観を共有する良い面もあるが、多様な価値観との出会い、SGH の取り組みの足腰を鍛える、教育の身体性という意味では、地域との交流が大切であると思う。生徒自身が、場合によっては教職員も地域での実践活動や実地の体験をしていくことも考えられたらよいと思う。

○SGH の取り組みを通し、また SGH 指定期間後にも通用する世界市民プログラムを開発し継続・発展させていく上で、教職員の負担軽減も考え教科学習との融合をそろそろ具体的に考えていくことが必要であると思う。

○他の SGH 校の取り組みのいいところを取り入れてはどうか。運営指導委員会でも可能な範囲でいくつかの事例の報告をしてほしい。

○高校の新指導要領の原案はまだ発表されていないが、審議のまとめと答申が既に出ており、大体の輪郭がわかっているので、先取りして準備を始めてかれてもいいかもしれない。

○関西創価高校はユネスコスクールに申請されている。申請書の内容も素晴らしい。仙台のある高校はユネスコスクールで SGH 校でもあるが、SGH の取り組みを進めていく上で、ユネスコスクールの活動の経験が大変参考になっているとのこと。関西創価高校もユネスコスクールとして、学びのネットワークを広げ、大阪・全国をリードしてほしいと強く希望している。

○ある SGH 校は文科省から Good Practice との評価を得た。そのポイントは①育てる人間像を明確にしている。②成果を定量的に測定している。③成果を全校的（教員・生徒ともに）に共有している。この 3 点があったからだと思う。関西創価高校では、子どもたちが生き生きと主体的に学んでいる。生徒と先生が全校的に SGH をきちんと受けとめて全校上げてやっている、この点が素晴らしい。このような学校を作りたいとの明確な目的があり、それをクリアにしている。育てたい人間像を明確にもっている。この点は、全 SGH 校の中でもトップクラスであると思う。きちんとしたプログラムとそれを進める方向・方法論が明確になっており、学校全体で共有されていると改めて実感した。

○（１年目まとめの報告書から）注目したのはアンケートだった。子どもたちが自らどう変容したかをもっと明確にするとよい。私をこのように変えたものは何かについて、生徒一人一人が自分の学びを問い返してみることができるようなもっと突っ込んだ質問をしてはどうだろう。成果をしっかりと測定することができるようになる。素晴らしい実践なのだから、実践のプロセスとともに、「どう変わったか」「どう変容したか」「生徒達が自分自身でどう受け止めたか」について捉えるところを増やすとよいと思う。次年度は、地域の学びとともに、この点を重点的に実践されたいかがか。

○学校での知識の学びだけではなく、地域の学びが大切である。子どもたち一人一人がいろいろな人との出会い、自己の生き方を見つめなおしながら、自己の生き方を考えていくプロセスがこれから大切であると思う。

○日本の教育には、２つの大きな流れがある。１つはグローバル人材の育成である。社会が大きく変化してきた、それに対応する人材づくり。もう１つ、ESD で目指す新しい未来の社会を創造していく人間づくりである。この２つ目の点についてもさらに取り組んでいただきたい。

○研究発表会の会場を出たところで、ある女子生徒と話しをした。その子は千玄室さんと会ったことがあり、ニューヨークの国連本部にも行ったと話していた。とても前向きで積極的だった。このような生徒が育っていることが素晴らしいと実感した。是非、仙台にも行ってみたい。仙台二華高校やウルスラ英智高校、また宮城教育大学にも。全く違うところを訪問することは勉強になると思う。

○とても素直でよい子も、世の中に出て行ったときにリーダーシップをとれるか。将棋の駒ではなく指し手になるということが大切と思う。英語ができるとか理数系の力があるというだけでは、有能な駒になるだけである。主体性が必要である。関西創価高校の GRIT は、まさに指し手を育てる教育だと思う。主体的というのは、自分事として考えることができるということ。どこかから課題を与えられて、それが上手に解けるというだけでは、それは駒である。指導要領が謳っているのは、主体的対話的な深い学びである。

○対話的とは異質なものとどう触れるかということ。異質なものとでなければ対話にならない。正・反・合という思考様式が身につくかどうか大切。その意味で、地域とも交流し、自分たちが当たり前だと思っていることでも通じないことがあるなどの体験を通して、コミュニケーションの術を学んでいく。そうしていく中で、指し手になることができると思う。その延長と言う意味で、創価大学だけではなく、地元の大学と高大連携してみてもどうか。そうすると、いろいろな先生とつきあうチャンスも増える。上手に目配りしながら異質なものと触れ合いをさせていくことが大事である。今日は地元の交野から教育長が来られていたのも良かったと思う。

○（Feel Japan Program について）日本のいい言葉は暗唱させるべきである。情緒的でもあるが、論理的でもある。古文は、対比を上手に使って論理を積み上げていくという構成になっている。中学・高校の時にそのようないい文章に触れさせることは、すべて財産になる。言葉は思考の元になる。新指導要領でも語彙力が強調されている。日本語はとてもきめ細やかな言葉遣いがあり、いろいろな言い方がある。その意味で語彙力があると、英語でも様々な表現ができるようになる。

○これまでは、位置づけのアイデンティティ、男だからとか女だからとか先生だからとか、つまり外側から見られたイメージの中で自分を整えてきた。しかし、これからは、私はこれでいくという宣言としてのアイデンティティが大切である。もっと言えば、私はこのような人になりたいという志のアイデンティティが大切である。もちろん、位置づけのアイデンティティも必要であるが、それを乗り越えて、志のアイデンティティを打ち出していけるようにすべきであると思う。しかし、それは、精神的なバックボーンがある学校でないとなかなか押し出せないと思う。関西創価高校の SGH プログラムを通し、ぜひ「志のアイデンティティ」を伸ばしてもらいたい。

○関西創価高校の良いところは、創立者の言葉がよく出てくることである。建学の理念、バックボーンをこれからも大切にしてほしい。3年目の挑戦に期待している。

平成27年度指定 スーパーグローバルハイスクール 第2年次

研究開発実施報告書

平成29年3月31日

発行 学校法人 創価学園 関西創価高等学校

〒576-0063 大阪府交野市寺3丁目20番1号

電 話 : 072-891-0011(代表)

FAX : 072-891-0015

印刷 萩原株式会社

〒540-0005 大阪市中央区上町1-4-15

電 話 : 06-6761-8555(代表)

FAX : 06-6761-8553